

「プール」役員ヲ構成スルモノニシテ任期各々一年ナルモ多ク重任セラレ、傾向ニアリ。右ノ如キ選出方法ナルヲ以テ各生産者ハ大農ヨリ小農迄皆同等ノ權利ヲ有シ其ノ代表者モ地方ニ於ケル代表的人物ヲ舉グルニヨリ十分ノ信頼ヲ置キ得ルモノニシテ、「プール」事業ノ發展ハ此ノ平等不遍ナル役員選出法ニ負フ所大ナリト認メラル。

委員ハ一年一回ノ總會ニ於テ本部ニ集會シ其ノ區域ニ於ケル過去一箇年間ノ事業狀況ヲ報告シ經驗談ノ交換將來ノ方針等ヲ協議ス。本會ハ「プール」ノ内幕曝露ヲ妨グ爲常ニ秘密會トセラルト云フ。前記小麥「プール」區ニハ各一名ノ現場員 (Field service man) ヲ置キ組合ヨリ「プール」ヨリ自動車電話等ヲ支給シテ區内會員間萬端ノ世話ヲ行ハシム。現場員ノ行フ主要ナル事務ハ(一)會員ノ苦情ノ聽取及之ガ取次(二)質疑應答(三)代金誤拂ノ實地調査及解決(四)小麥引渡ニ關スル紛擾ノ解決(五)其他「プール」主權ノ遠足又ハ社會的集合ノ斡旋等ニシテコノ現場員ノ努力ニヨリ多數ノ加入者ヲ見ツ、アリ。現場員ハ「プール」ニ關スル深キ知識ヲ有スベキハ勿論農村問題及農民心理ニ理解ヲ有スルモノヲ選拔登用シ、時々「プール」本部ニ召集ヲ受ケ相集マリテ各區ノ經驗ヲ交換スルモノニシテ「プール」形成上ノ重要役目ヲナシツ、アリ。

右諸機關ノ外小麥積出地方ニ於テハ地方「プール」委員會 (Local pool Committees) アリ。例へば「サスカチエワン」州ニ於テハ穀倉積出場等ノ穀物積出點約二千箇所アリ。之等ノ重要ナル地點ニ於テハ五〇個ノ地方「プール」委員會設置セラレ會長一名秘書一名委員二名ノ五名ノ役員ヨリ組織セラレ其ノ積出地方生産者ガ年々選舉スルモノナリ。地方「プール」委員ハ中央ト地方ノ聯絡ヲ計ル主要機關ニシテ穀物出荷ノ實際事務ヲ取扱ヒ生産者ノ種子量ヲ裁定シ「プール」ト地方穀倉トノ間ニ於ケル交渉ニ當リ又ハ同地方ノ「プール」反對者ノ反對運動ヲ監視スルト共ニ未加入農民ニ對シ加入勸誘ヲナス等「プール」事業上甚ダ肝要ナル任務ヲ有スルモノトス。

各州「プール」ノ中央事務所ハ「サスカチエワン」ハ「レジナ」 (Regina) 「アルバータ」ハ「カルガリー」 (Calgary) 「ブリティッシュ」 (Winnipeg) ニ在リ。事務ノ方法ハ地方事情ニヨリ幾分ノ差アルモ主要ナル點ハ共通ナリ。事務所ニ左ノ各部ヲ置ク。

- (一) 穀物部 (Grain Department) 地方穀倉並積込場ニ出荷セラル、會員ノ出穀量ヲ日々記録ス。
- (二) 元帳部 (growers ledger Department) 各會員毎ニ記表ヲ備ヘ其ノ收支ヲ記録整理ス。
- (三) 庶務部 (Secretarial department) 契約係、現場係、宣傳係ノ三課ニ分チ中央委員會ト地方委員會トノ連絡ニ任シ「プール」活動ノ中心ヲナス。

其ノ他(四)會計部 (Internal Audit) (五)支拂部 (Assignment Department) 基金部 (Reserves Staffs) 等アリテ、夫レ々々事務ヲ分掌セリ。會計部ハ收穫年度終了後委員總會ニテ指定スル獨立會計士ニヨリ検査ヲ受クル規定ナリ。

三州ヲ通ジ「ブール」所有ノ穀倉役員ヲモ合シ千八百七十五名ノ従業員ヲ有シ、其ノ人件費年額二百萬弗以上ニ達スト云フ。

十 中央販賣部

右三州ノ獨立セル「ブール」ノ成立ト共ニ各「ブール」ガ個々ニ販賣ヲ行フニ於テハ十分ニ有利ナル取引ヲ行フ能ハズ。市場ニ對スル力弱キヲ以テ之ヲ打ツテ一丸トナシ大規模且有力ナル一ツノ中央販賣機關ヲ設置スルコト、ナレリ。之ガ爲各州「ブール」代表者ハ一九二四年七月「レヂナ」市ニ會合シテ之ガ創設ヲ議シ加奈陀小麥生産者共同組合 (Canadian Co-operative wheat Producers Ltd) ナル名稱ノモトニ「ブール」中央販賣部 (Central selling agency) ノ設立ヲ決定シ八月契約書ニ調印ヲ了セリ。本組合ハ十二株ヲ有シ三州小麥「ブール」各一株宛及各州小麥「ブール」ヨリ三名宛ノ割合ヲ以テ選出シタル代表者計九名各一株ヲ所有スル規定ニシテ各「ブール」ハ會員面積並引渡後小麥量ニ大小多寡ノ差アルモ中央販賣部ニ於ケル財的及人的の投資ヲ均等トシコ、ニ於テモ平等主義ヲ發揮セリ。本組合ノ創立趣旨書ニヨリ創立ノ目的ヲ抄譯セバ左ノ如シ。

相互協力ニヨリ營利ヲ目的トセザル一大農業組織ニヨリ「アルバータ」「サスカチエワン」及「マニトバ」三州小麥生産者共同組合及其ノ會員ノ小麥販賣中央機關トナリ、小麥取引ニ於ケル投機、浪費及不要ナル取引ヲ芟除シ小麥ノ新需要ヲ喚起シ新市場ヲ開拓シ穀物ノ新用途ヲ研究開發シ、以テ生産者並ニ一般公衆ノ福利ヲ増進保持センガ爲本組合ヲ創設ス。

即三州各「ブール」組合員ノ出荷ハ皆本中央部ニ集中シ其ノ賣却ニ委スルモノニシテ從ツテ三州「ブール」ニテハ單ニ其ノ地方ノ小麥ノ受入、貯藏、輸送等ノ取扱ヲナスニ過ギザルモノトス。中央販賣部ハ「ウイニベツグ」市ニ本部ヲ有シ「カルガリー」「ヴァンクウヴァー」「トロント」「フォートウキリアム」「モントリール」米國「ニューヨーク」歐洲「巴里」ノ七箇所ニ出張所ヲ有シ猶其ノ他小麥取引ニ樞要ナル地ニ多クノ代理人ヲ派出シ穀物事情、運送、保險等販賣ニ關係アル調査ヲナサシム。本部ハ「ウイニベツグ」取引所ニ加入セルガ一九二六年ノ成績ニヨレバ取扱高ノ約二割五分ハ取引所ニ於テ販賣シ七割五分ハ海外ニ直接輸出ヲナセリ。各州「ブール」ヨリ各三名宛選出セラレタル理事ハ理事會ヲ構成シ理事長ヲ互選ス。理事會ハ必要ニ應ジ支配人ヲ任命シ得ル規定ニシテ支配人ハ年額二萬弗ノ俸給ヲ受ケ優秀ナル販賣取扱上ノ専門家ヲ雇傭シ活潑ナル取引ヲ行ヒツ、アリテ本機關ノ事業ハ目下ニ於テハ加奈陀ニ於ケル最大事業ト目セラル。今試ミニ加奈陀三大事業ト稱セラルモノ、歲入ヲ比較セバ左ノ如シ。

- 加奈陀太平洋鐵道會社 一八五、〇〇〇、〇〇〇 弗
- 加奈陀國立鐵道會社 二四六、〇〇〇、〇〇〇
- 小麥「ブール」中央販賣部 二五四、〇〇〇、〇〇〇

一九二六年ニ「ブール」ガ中央販賣部ニ引渡シタル小麥量ハ一億八千萬物ニ達セリ州別數量左ノ如シ。

「サスカチエワンプール」	一二九、六〇〇、五二二
「アルバータプール」	四五、一六七、一一〇
「マニトバプール」	一二、四五一、八八六
計	一八七、二一九、五一八

即加奈陀小麥ノ約半數ニ達スル右巨量ノ小麥ガ僅々百二十五名ノ從業員ヨリ成ル販賣部ノ手ニヨリ取扱ハル、モノニシテ誠ニ一大偉觀ト稱スルヲ得ベシ。

十一 賣上金ノ分配

中央販賣部ニ於テハ各「ブール」會員ノ出荷穀物ヲ集中シ、全世界市場ヲ精査シ適當ノ時期ニ於テ之ヲ賣却スルモノニシテ、之ガ總代金中ヨリ規定ニヨリ營業費、商業資金及穀倉資金等ヲ控除シ出荷量ニ按分シテ生産者ニ支拂フモノナルガ、右支拂ハ出荷ト同時ニ前渡金トシテ一定金額ヲ支拂ヒ其ノ後春季、夏季及秋季ノ三回ニ分割シテ支拂フモノトス。八月中旬小麥收穫時期ニ達セルトキ中央販賣部ハ役員ノ會合ヲ催シ生産消費ニ關スル小麥界ノ一般状態ヲ精査シ標準品タル第一號北小麥 (Northern Wheat No. 1) ニ對シ第一回支拂金額ヲ協議確定ス。他銘柄ニ就テハソレノ市場ニ行ハル、一般的价格差ヲ付シ之等ハ即時新聞ニ公示シ組合員ハ勿論一般世人ニ周知セシム。「ブール」ハ加奈陀ニ於ケル

最大ノ穀物取引機關ナルヲ以テ右ノ發表ノ如何ハ大體ニ於テ同年度ノ麥價ノ奈邊ニアルヤヲ測定スベキ基準ヲ示スモノト認メラル、ヲ以テ右發表ハ恰モ政府ノ行フ收穫豫想量發表ト同様取引界ニ一大「センセーション」ヲ起スヲ常トスト云フ、右第一回支拂金トハ三州ノ凡テノ積出地點ニ於テ「ブール」ガ其ノ組合員ヨリ小麥ヲ引取ノ際ニ支拂フ小麥一ブツシエル當金額ニシテ代金ノ主要部ヲナスモノナリ右金額ヨリ「フォートウキリアム」「ポートアーサー」「ヴァンクレーヴァー」等積出終端點ニ至ル運賃及出荷セル地方穀倉ニ於ケル諸掛並出荷小麥ノ格差ヲ控除シタル金額ヲ支拂ハル、モノナリトス。生産者ハ右ノ支拂金ト共ニ生産者引渡證明書 (Grower's Certificate) ヲ受クルモノニシテコノ證明書ニヨリ第二第三及最終支拂ヲ受クルナリ右ノ如クニシテ生産者ガ收穫後自己ノ都合ヲ見テ出荷セル穀物ヲ各地終端點ノ大穀倉ニ運搬保管シ市場ノ情況ニヨリ之ヲ賣却シ其ノ賣揚代金ニヨリ第一回支拂ニヨリ生ゼル銀行借金ヲ消却スルト共ニ第二回以後ノ支拂ヲナスモノニシテ右ノ如キ分割支拂ニヨリ農家ハ耕作資金收穫資金等ノ必要時毎ニ現金ヲ分割收受シ得ルヲ以テ濫費ヲ妨ギ農家經濟上良好ナル結果ヲ來セリト云フ各種支拂金額左ノ如シ。

小麥北一號一ブツシエルニ付	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年
第一回支拂金 (Initial Payment)	〇・七五	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
第二回支拂金 (1st Interim)	一〇	三五	二〇	一五
第三回支拂金 (2nd Interim)	一	二〇	二〇	未詳
第四 加奈陀ノ小麥「ブール」				一九三

第四 加奈陀ノ小麥「プール」

最終支拂金 (Final Payment)	一六	一一	五	一九四
合計	一〇一	一・六六	一・四五	未詳

右ノ内最終支拂ノ場合諸種資金ノ差引ヲ行フモノトス。

三個ノ「プール」ガ其ノ組台員ニ支拂ヒタル金額ハ一九二五—二六年度ニ於テ左ノ如シ。

	「アルバータ」	「サスカチエワン」	「アビトバ」
第一回支拂金額	四一、一〇九、〇〇〇 ^弗	一一三、八〇〇、〇〇〇 ^弗	一六、四六一、〇〇〇 ^弗
第二回支拂金額	八、三三三、〇〇〇	二五、四二三、〇〇〇	二、一七八、〇〇〇
第三回支拂金額	九、〇二八、〇〇〇	二五、八八六、〇〇〇	二、四六一、〇〇〇
第四回支拂金額	九、〇二八、〇〇〇	二五、八八六、〇〇〇	二、四六一、〇〇〇
最終支拂金額	九五四、〇〇〇	六、一四五、〇〇〇	一、〇八四、〇〇〇
計	五九四、二五、〇〇〇	一七一、二五四、〇〇〇	二二、一八八、〇〇〇

十二 「プール」ノ財政ト銀行關係

各會員ハ「プール」契約 (Grower's grain pool Contract) ニ調印スルト共ニ一弗ヲ支拂ヒテ各州「プール」ノ株ヲ取得ス、但シ一人一株ニ限ラル、別ニ一人二弗ヲ「プール」ノ經費トシテ入會ト同時ニ支拂フモノニシテ現在會員數二十三萬八千人ナルヲ以テ四十萬弗ノ現金ヲ資金トシテ獲得スル理ナリ、此ノ外年年ノ取扱經費ハ小麥賣揚代ヨリ必要ニ應ジテ差引ク規定ニシテ一九二五—二六年度ニ於テハ穀

物ノ取扱利子、保險貯藏等ノ費用トシテ一ブツシエルニ付二、三五仙ノ割合ヲ以テ合計四百七十五萬弗ヲ差引シケリ。猶會員ハ加盟ノ契約ニ從ヒ會員出荷ノ小麥一ブツシエル當二仙以内亞麻燕麥一ブツシエル當三仙以内大麥ライ麥一ブツシエル當一仙半以内ヲ「プール」穀倉資金 (Pool Elevator Fund) トシテ徵收ス、本資金ハ「プール」ノ理事ガ穀物ノ取扱上必要ナリト認ムル穀倉其ノ他設備ノ建設購入賃借等ニ使用スルモノニシテ僅々二仙内外ノ出資ナルモ取扱量大ナルヲ以テ會員ニ何等ノ苦痛ヲ與エズシテ一九二三年ヨリ一九二六年度ノ間ニ一十萬弗ヲ積立テ着々大穀倉ノ買收建設ヲ實行シツ、アリ、即一九二五年夏「サスカチエワン」共同穀倉會社ハ一十萬餘弗ニテ本「プール」ノ子會社タル「サスカチエワンプール」穀倉會社(一九二五年二月資本金十萬弗ニテ創立セラレ一九二六年十二月ニハ資本金三百七十萬弗ニ増加)ノ手ニ遷リ買收ト共ニ百五十萬弗ヲ支拂ヒ殘金ハ百萬弗ノ年賦ニテ拂込ミヲ爲ス契約ナリ同「プール」ハ一九二六年八月七百二十餘ノ地方穀倉ヲ所有シ一九二七年八月全部支拂済トナレリ。又「アルバータプール」ハ百五十ノ地方穀倉(價格二百萬弗支拂濟)ヲ所有シ別ニ「ヴァンクイーヴァー」ニ收容力二百萬ブツシエルノ終端穀倉ヲ建設中ナリ「マニトバプール」ト七十ノ地方穀倉ヲ有シ近ク支拂完了ノ筈ナリ右ノ外「プール」ハ三千八百五十八個ノ公有地方穀倉ノ取扱ヲ行ヘル北西穀物協會 (Northwest grain dealer's association) トノ間ニ一定ノ手数料ヲ協定シテ毎年委任契約ヲ行ヒツ、アリ。右ノ如ク「プール」ガ穀倉等ノ固定財産ヲ所有シ經營スルハ取扱上有利ニシテ穀物賣却

ノ採算ヲ有利ナラシムルハ勿論農民ノ結合ヲ永續セシメ事業ノ根柢ヲ硬固ナラシムルニ大ナル力ヲ有スルモノニシテ數年ニシテ「プール」會員ハ自己ノ所有ニ屬スル穀倉ヲ通ジテノミ穀物ノ販賣ヲ行ヒ得ル時期ニ達スベク穀倉會社ノ横暴ニ苦ミタル往年ヲ回顧シ今昔ノ感ニ堪エザルモノアルベシ、一九二五年度各州ニ於テ積立テタル穀倉資金左ノ如シ。

「アルバータプール」	一、三七一、九六五弗
「サスカチエワンプール」	三、八四四、六三六
「マニトバプール」	五〇七、〇四九
計	五、七二三、六五〇

各「プール」ニ於テハ穀物ノ取扱及取引ニ必要ナル經費、穀物賣揚代金中ヨリ控除使用シ得ルコトハ既述ノ通りナルガ其ノ他猶商業資金 (Commercial Fund) ヲ取立テ貯蓄シツ、アリ、即組合ハ穀物賣揚代金ノ百分ノ一ヲ越エザル割合ヲ以テ全穀物販賣價額中ヨリ商業資金積立ヲ組合ノ如何ナル事業目的ニモ支出シ得ルモノト規定ス。一九二六年末迄ニ本積立金各「プール」合計四百萬弗ニ達セリ、契約ニ於テハ百分ノ一以內ト規定セラル、モ、一九二五年ノ實際ニ見ルニ「サスカチエワンプール」ニ於テハ八厘五毛「アルバータ」ハ一分ノ八分ノ一ヲ徵收セシノミナリ、同年各州別取立額左ノ如シ。

「アルバータプール」	四二三、九〇一弗
「サスカチエワンプール」	一、七〇三、四六五

「マニトバプール」	一九二、二二一
計	二、三一九、五八七

右ノ如ク「プール」ハ各生産者ヨリ零細ナル費用及資金ノ徵集ヲ行フモ取扱高巨額ナルヲ以テ最近ニ於テハ相當ナル資力ヲ有セリ。然レドモ穀物買却前生産者ニ支拂フベキ第一回支拂金ハ一億六千萬弗以上ニ達シ之ガ支拂ハ全然銀行ノ貸出ニ俟タザルベカラズ。「プール」ニ於テハ右資金ハ加奈陀一流ノ五銀行ヨリ農家ヨリ引渡ヲ受クル穀物ヲ擔保トシテ借入シツ、アリ、右借入金ハ五分乃至六分ノ低利ニシテ銀行ハ第一回支拂金ト小麥市價トニ相當ノ差額ヲ保タシムルコトノミヲ條件トセリ。

十三 雜穀ノ取扱

右ノ「プール」ハ小麥ノ取扱ニ於テ相當ノ成績ヲ見タルヲ以テ小麥ノ外燕麥、玉蜀黍、大麥等ノ雜穀類ヲ取扱ヲモ行フコト、ナリ一九二四年十二月「マニトバプール」ノ理事ハ之等雜穀ヲ一九二五年度ヨリ取扱フ旨ヲ聲明シ契約案ヲ作成發表セリ。大體小麥ト同様ノ方法ニヨレルモノニシテ五箇年繼續ノ出荷契約ヲナシ一契約ニ四種迄ノ雜穀ヲ含マシムルコト、セリ。小麥「プール」ノ會員ハ事業費トシテ二弗ヲ納入シ他ハ右ノ外「プール」株一枚ヲ一弗ヲ以テ購入スル規定ナリ。雜穀取扱ノ成績ニ關シテハ一九二五年約二千六百萬ブツシユルヲ取扱ヘリト云フノ外未ダ材料ニ接セザルモ小麥ノ取扱ニ隨伴シ相

當ノ成績ヲ收メツ、アリト認メラル。

十四 會員數

各「ブール」ノ組合員數小麥反別ヲ年別ニ表示セバ左ノ如シ。

年次	三「ブール」會員數		
	「アルバータ」	「マニトバ」	「サスカチエワン」
一九二三年	二五、六〇一	—	二五、六〇一
一九二四年	三〇、七一	九、二一六	四六、五〇九
一九二五年	三五、九九七	一六、〇八四	六〇、五〇〇
一九二六年	三八、四六〇	一九、〇三五	八〇、四一〇
計	—	—	—

三「ブール」會員小麥作付反別(單位英町)

一九二三年	二、四一六、四一三英町	—	二、四一六、四一三
一九二四年	二、九五二、八九〇	七三五、八五六	六、四三三、七八八
一九二五年	三、四五七、六七二	一、〇五八、一八二	八、一一五、〇〇〇
一九二六年	三、六五〇、七〇三	一、二一五、〇四七	一〇、五四〇、三〇八
同年全州小麥作付反別	六、一一四、四一八	二、二八五、八三八	一三、四九六、四五七
別「ブール」反別ノ全反別ニ對スル比	六割	五割三分	七割八分
			七割

即最近一九二六年ノ會員反別ト同州ノ全小麥反別トヲ對比セバ州別五割乃至八割ノ成績ヲ示シ合計ニ於テ「ブール」會員ノ耕作反別ハ七割ヲ占ムルモノトス、而シテ「ブール」ノ創設以來日淺キモ人員及反別年毎ニ顯著ナル發達ヲ示セリ。

右ノ如ク三州小麥耕作反別ノ三割ニ對スル農業者ハ本「ブール」ニ加入セズ、舊來ノ經路ニヨリ生産物ノ販賣ヲ行ヘルモノナルガ之等獨立農民ガ加入ニ應ゼザル理由トシテ數ヘラル、所ハ(一)曠野ニ點在セル農家ノコトナルヲ以テ「ブール」役員ニ面識ナク又ハ之ヲ好マザルモノアリ(二)負債ヲ有シ又ハ惡辣ナル債主ニ關係セルモノアリ(三)第一回契約ニ立チホグレタルモノ(四)地方穀倉ト永年ノ取引關係アリテ之ヲ拒絕シ難キモノ(五)從來ヨリ共同販賣ヲ行ヒ相當ノ效果ヲ舉グルモノ(六)財力豊富ニシテ春季高價ノ季節迄手持シ得ルモノ又ハ平均賣ヲ行ヒ得ルモノ(七)地方穀倉渡シノ契約ニテ小作料ヲ支拂フモノ等ニシテ之等ガ舉リテ「ブール」ニ入會スルカ爲ニハ相當時ノ經過ヲ俟ツヲ要スト認メラル、所ナリ。

十五 「ブール」ノ成績

加奈陀「ブール」ノ急速ナル進歩發展ハ加奈陀經濟ノ發展上新因子ヲ加ヘタルモノニシテ其ノ及ボス影響甚ダ大ナルハ勿論加奈陀小麥ノ輸出量ガ世界輸出額ノ三分ノ一ヲ占ムルニ想到セバ加奈陀小麥ノ取引ノ一大刷新ヲ實行セル生産者ノ完全ナル團結ハ世界小麥市場ノ價格ニ影響ヲ與フルモノト認メラ

ル、加奈陀小麥輸出額中約五割二分ハ本「プール」ニヨリ他ノ四割八分ハ猶從來ノ一般市場商業取引ノ
 經路ヲ通ジテ流動セルモノニシテ右二種ノ全然性質ヲ異ニシタル取引系統ハ今日互ニ競合セル状態ヲ
 表ハセルモノニシテ結局生産者ハ最モ利益多キ方法ヲ選擇スルコト、ナル筋合ナリ、然ラバ「プール」
 ニ依ル取引ニ於テ生産者ハ如何ナル利益ヲ享受シ得ベキカ右ニ就テハ確乎タル論斷ヲナスベキ材料ヲ
 有セザルガ先ツ「マニトバプール」ニ於テ發行セル機關紙「スコープシヨベル」(Scope chovel) ニ「プ
 ール」ノ效用ニ付キ左ノ如キ宣傳ヲナセルヲ以テ參考ノ爲抄譯スベシ。

最近マデ農業者ハ自己ノ身命ヲ小麥ノ耕作方面ニノミ集中シテキテ之ガ適當ナ賣却ノ方面ニハ殆ン
 ド思フ致サナカッタ、ソノ結果市場ニ生産物ヲ出ストキハ殆ンド買手ノ言フガ儘ニナツテキタ農業
 者ハ常ニ自分ノ作ツタモノヲ賣ル場合ニハ何事モ主張ガ出來ズト云ツテ一面自分ノ買フモノニ就テ
 モ何ノ主張モ出來ヌト慨イテキル。「プール」ヲ利用シテ生産物ヲ賣却スルコトハ即農業者自ラガ其
 ノ販賣ヲヤツテイルコト、ナルノデアル。「プール」運動ノ根本趣旨トスル所ハ無利益主義デアル舊
 式ノ販賣法デハ生産者ハ小麥ヲ中間商人ヤ穀物會社ニ賣却シタ彼等商人ハ之モ製粉業者ヤ消費者ニ
 賣却スル生産者ト消費者トノ間ニ介在シテキル、凡テノ業者ハ皆自身ニ儲ケ様トスル共通目的ヲ有
 シテキル「プール」ヲ通ジテ販賣スル場合ハ只取扱ノ實費丈デ且十分ナ市場價格ヲ得ル方法デ販賣ス
 ルコトトナル。「プール」デハ入會ノ際會社法ノ規定ガアル爲ニ已ムヲ得ズ一弗ノ株一枚ヲ持タシメ

ルノミデ利益配當ヲヤツタリスル必要ハナイ即農業者ハ實費主義デ販賣スルコト、ナリコ、ニ一般
 商業者ノ取引ト「プール」組織ノ取引トノ根本差異ガアル。「何時賣却シテヨイカ」之ガ農業者共通ニ
 持ツテキル困難ナ問題ノ經驗デアル。小麥ノ積出準備ガ整フト次ニハ常ニコノ問題ニ苦シメラレル、
 ソコデ相場ヲ調べ今後ノ騰落ニツイテ腦漿ヲ絞ツテ見込ヲツケルノデアル。「プール」ヲ利用シテ賣
 却スル場合ニハイツデモ氣ノ向イタ時ニ之ヲ引渡セバヨイ收穫後直ニ借金ヲ拂フ要ガアル場合ハ其
 ノ穀荷シテ第一回支拂金ヲ受ケレバヨイ、勞銀ノ節約ヲヤリ度イ人ハ先ヅ耕鋤ノ方ヲ始メ農閑ヲ利
 用シテ物ヲ出調製ヲヤリ結水後出荷シテモ宜敷シイ、イヅレニシテモ皆同様ノ代金ヲ得ラレルノデ
 アル即賣揚代金ハ出荷期ノ如何ニ拘ハラズ凡テ合算シテ平均ニ分配スルノダカラ穀物ノ賣時期ニハ
 無關心デヨイ、市場取引ニツイテ農家ガ到底持チ難ヒ特別ノ智識ヲ持ツテキル、「プール」ヲ利用ス
 ルコトハ取りモナホサズ農家ガ「プール」ヲ通シテ堪能ナ賣リ手ヲ雇フコトニナルノデコノ販賣係ハ
 世界中ノ市場ノ相場ハ勿論供給状態需要關係等ニツイテ熟知シテキルノデアル。

穀物ノ相場ハ農家ガ收穫後數箇月間ニ資金ノ關係等ノ爲ニ一時ニ賣リ出スカラ秋ニ安クテ春カラ夏
 ニカケテ氣ヲ持ツノガ普通ノ傾向デアルガ「プール」組織ハ早賣ヲ餘儀ナクセラレル生産者ニ十分ナ
 便益ヲ提供スルモノデアルコノ季節的賣價ヲ平均スル點ニ於テ生産者ハ資産豊富デ高値待ヲシ得ル
 財産家ト同様ノ地位ヲ得ルノデアル、尤モ隨分上手ニ高價ニ賣却シ得ル技術ト財力ヲ持ツテキル生

産者モ多數アルコトデアルカラ生産者個々トシテ打算スルト「ブール」ニ入會スル事ガ必ズシモ利益
 デナイトモ云ヘル、デ個人的ノ立場カラ見テ有利ナラシメルコトハコノ組織ノ根本目的デナイコノ
 組織ハ生産者全體ノ集團的利益ノ増進ヲ目標トシテキル、即第一ニ中間商人ニ依ツテ奪ハレタ利益
 ヲ農家ニ取り戻ス爲第二ニハ市場供給量ヲ平均サセテ結局高イ平均價格ヲ農家ニ與エルノデアル。
 右ノ内中間機關ニヨル経費ノ節減ニ就テハ「サスカチエワン」州ヨリ「リバーブール」迄ノ小麥取引ニ要
 スル経費内譯ヲ「マニトバブール」ニ於テ調査セルモノアリ即左ノ如シ。

小麥取引ニ要スル経費調(一ブツシエル當)

地方穀倉費	一、七五〇
○積込口錢	一、〇〇〇
運賃	一、〇〇〇
検査費	〇、二五〇
終端點手数料	一、二五〇
○穀物口錢	〇、一二五
汽船口錢	〇、一二五
○CI及FOB口錢	〇、二五〇

「モントリール」迄ノ湖水汽船運賃

同上保險料	〇、二五〇
同港積込口錢	〇、三七五
○積込商手数料	〇、三七五
太平洋運賃	九、〇〇〇
右保險料	〇、五〇〇
アウトターン保險料	〇、五〇〇
○輸出商口錢	〇、六二五
○リバーブールニ於ケル口錢	〇、七五〇
積卸賃其他諸掛	一、〇〇〇
利子及口錢	〇、七五〇

計

四一、八七五

右ノ内上部ニ〇印ヲ付セルモノハ「ブール」ノ取扱ニヨリ不必要ニシテ右合計一ブツシエル當約三仙ヲ
 明ニ節約シ得ルモノナリ、最近一年「ブール」ノ小麥取扱高一億九千萬ブツシエルニ之ヲ乗ズルトキハ
 五百七十萬弗トナリ右ハ明ニ三州「ブール」會員ニ歸スル理ナリ猶加奈陀全部ニ於テ小麥ノ取扱商人ハ

其ノ數一百ヲ算スルガ之等ハ小麥金額ノ四割八分ノ爭奪ニ奔命シ相互ニ競争ヲナシ農民ニ對スル支拂ヲ急グ爲無理ナル出荷ヲナシ屢々終端穀倉ニ於ケル大滞荷ヲ惹起スルトコロニシテ一九二五年度ニ於テハ二十五萬四千三百車ノ出荷中三割五分ハ停滯ノ厄ニ會ヒ百萬弗以上ノ出費ヲ見タリト云フ。

以上團體的農產物取扱組合タル本「ブール」ガ種々ノ冗費ヲ節約シ農村生活ノ安定ニ寄與セル所多大ナルハ明ナルガ、「ブール」效用ノ眼目タル平均賣延イテハ平均賣却價格ノ昂上及一般市價ノ維持ニ就テハ如何ト云フニ加奈陀ノ全出荷數量ニ對スル收穫直後ノ四箇月出荷數量ハ其ノ比率「ブール」發生前五箇年平均七二・五%ナルモ一九二二—二四年ハ七〇・七%「ブール」發生後ノ一九二四—二五年ハ六九・一%ニ減少シ數字のニ「ブール」活動ノ效果ヲ發揮セルガ如キモ一九二五—二六年ニ於テハ却ツテ七三・六%ニ逆進セリ。右比率ハ年々ノ氣候其ノ他一般經濟現象ニ左右セラル、所多キヲ以テ十分ナル「ブール」ノ影響ヲ見ル能ハザルベシ。出荷比率ノ變遷ハ右ノ如クナルガ「ブール」ノ販賣狀況ハ同年度販賣高中一箇月販賣量二千六百萬ブツシエルヲ超エズ、且七百萬ブツシエルヲ下ルコトナク收穫後四箇月間僅々四割五分ノ賣却ヲ了シタルニ過ギズ、出荷比率ハ前掲數字ニ比シ平均ヲ得タルモノトス。然ラバ主要點ナル販賣平均價格ノ點如何本問題ハ之ヲ判斷スベキ材料ヲ得ルコト困難ニシテ或ハ同一時季ニ於ケル「ブール」ノ賣渡價格ト「ウキンベツグ」市場相場ヲ比較シテ之ヲ論斷セントスルモノアルモ兩取引ニ於ケル取扱數量相違シ又「ブール」ノ存在ノ有無ニ依ル市場事情ノ相違等ヲ考慮スル時ハ單

ニ實際表面ニ表ハレタル取引相場ノミヲ以テ比較スルコトヲ得ザルモノトス。一九二六年十月「ブール」ハ同年ノ決定價格北小麥一號一ブツシエル一弗四十五仙ナリト發表セルガ之ニ對シ同年取引所開シ場日數二百一日ノ平均止相場一弗五十一仙ニシテ「ブール」平均決定價格ヨリモ高シトノ批難アリキ。然シ「ブール」價格ハ其經費及會員負擔ノ釐金ヲ引キ去リタル價格ニシテ且一弗五十仙以上ニテ賣ラレタル「ブール」外小麥ノ數量總計ハ同價格以下ニテ賣ラレタルモノ、一割二分ニ過ギズ。又右ノ「ブール」價格以下ニテ賣ラレタル「ブール」外小麥ハ全體ノ五割六分アリ即「ブール」加盟者以上ノ利得ヲ得タル人員ハ極メテ小數ニシテ多數ハソレ以下ノ價格ヲ得タルモノナリ。「ブール」發生前ノ例ニヨレバ全農民中其ノ七割ハ平均價格以下ニ賣却シ二割ハ平均價ヲ以テ残りノ一割ノミ平均價以上ニテ賣却セル例アリ。即「ブール」ハ其豊富ナル組合資金及銀行ノ信用ニヨリ一般小麥ノ市場出廻減少シテ市價ノ昂上スル春夏ノ候ニ於テモ賣却ヲ實行シ一年ヲ通ジ比較的平均二分賣スルヲ得ルモノト認ムベキナリ。

十六 結 論

以上叙述セルガ如ク加奈陀ニ於ケル小麥「ブール」ハ廣大ナル同國小麥地帯ヲ舞臺トシ農業者多年ノ奮闘ト努力ノ結晶トシテ最近漸ク其ノ緒ニ就ケルモノニシテ創設數年ナラズシテ既ニ十萬ヲ超ユル農家ヲ糾合シ輸出小麥ノ過半ヲ取扱ヒ世界小麥界ニ雄飛スルノ域ニ達シタリ、同國ハ新開國ニ屬シ年々三

十萬人ニ達スル移住民ニヨリテ開拓セラル、所ニシテ社會ヲ構成スル民族ハ英佛獨露等十種ヲ數フベク地方ニヨリ各種ノ國語ヲ用ヒ宛然雜居地ノ觀ヲ呈セルニ拘ハラズ、右ノ如キ秩序ト統制ヲ必要トスル一大組織ノ發現ヲ見タルハ驚クベキ現象ニシテ、其ノ因ツテ來ル所ヲ要約セバ左ノ點ニアルベシ。

一、農産物販賣ニ關シ農家ハ多年不利不便ト闘ヒ之ガ改善ヲ要望シタルコト。

二、同國ニ於ケル小麥ハ我國ノ米穀等ト趣ヲ異ニシ全然輸出本位ニ耕作セラル、モノニシテ從ツテ之ガ取引ハ輸出ニ對スル統制ヲ必要トスルコト。

三、小麥ハ同國經濟上最モ重要ナルト共ニ之ガ耕作農家ノ利害ハ社會上格別ノ意義ヲ有スルニヨリ中央及地方政府ニ於テ立法及財政ニ亘リ充分ナル援助ヲ惜マザリシコト。

四、指導者ニ其ノ人ヲ得タルコト。

五、戰時中政府ノ行ヒタル小麥管理ハ農業者ニ相當利益ヲ與エ農民ハ小麥管理乃至ハ同様方式ニヨル小麥賣却ヲ希望シタルコト。

加奈陀ノ小麥「プール」ハ創業未ダ五年ニシテ第一回ノ五箇年「プール」契約ハ昨年（一九二七年）滿期トナリ更ニ契約ノ更新ヲ行ヒタル筈ニシテ其ノ結果ニ就テハコ、ニ述ブルヲ得ズ遺憾トスル處ナルガ要スルニ本事業ハ一昨年迄ノ成績ニ徴セバ相當好果ヲ舉ゲツ、アルモ猶試練時代ニアリトスベク今後事業ノ發展ハ一ツニ會員タル農業者ノ團結及役員ノ努力ノ如何ニ係レリト謂フベシ。

參照書

“Annual Report of the Board of Grain Commissioners for Canada 1926”

“Pooling Wheat in Canada,” Walter P. Davison.

“Economic Resources of Canada,” Sir Henry Rew K. C. B.

“Sixty Years of Canadian Progress.”

“Report on The Grain Trade of Canada 1926” Minister of Trade & Commerce.

“List of Licensed Elevators and Warehouses” The Board of Grain Commissioners for Canada

“Grain Inspection in Canada,” Government Printing Office

加奈陀ノ農民穀物販賣機關 石黒忠篤氏著

加奈陀小麥生産者組合ノ組織ノ件 在紐育商務書記官原明治郎氏報告

第五 「ベヒトールシヤイム」氏ノ獨逸ニ於ケル

穀物專賣論

穀物專賣ガ理論上又實行上是認セラルベキモノナリヤ否ヤニ關シテハ各種ノ議論アル所ナルカ「ベヒトールシヤイム」氏ハ其ノ著ニ於テ獨逸ニ於ケル穀物專賣ニ關シ各種ノ論說ヲ掲ゲ居レリ。茲ニハ其ノ中ノ穀物ノ專賣ニ關シ氏ノ討論ノ要旨ヲ掲クルコト、セリ。尙戰時經濟の規定、穀物取引專

賣ト海外取引ノ關係、專賣制下ノ内國穀物市場及取引專賣ノ組織等ニ分チ大要左ノ如ク論ゼリ。

穀物ノ專賣

(一) 穀物收穫ノ獲得ニ關スル戰時經濟的規定ノ大要

將來ノ穀物專賣ハ穀物供給ニ關スル戰時經濟的規定ヲ其ノ出發點トナシ此ノ規定ヲ今日ノ事情ノ變化及ビ需要ニ適合セシメ之ニ相應スル様發展セシメザルベカラザルコトハ極メテ明白ナル事柄ナリ。而シテ從來多量ノ輸入ヲ海外ニ仰ギシ獨逸ニアリテハ、穀物及ビ飼料ノ需要量並ニ需要ノ種類ヲ、國內ノ生産品ニ止メ他方出來得ル限り全範圍ニ亘レル國內ノ生産品ノ個々ノ管理權ヲ剝奪シテ公ノ管理ニ屬セシメ以テ需要ヲ平等ニ又ソノ急迫ノ度ニ應ジテ順次之ヲ滿サシム可ク努メラレタリ。當時事態急迫セルヲ以テ差押、強制管理及ビ強制分配ノ方法ガ舉ゲラレタリ。而シテ此ノ制度ニ關スル一時的規定トシテ法律實施ニ關スル法律的命令及ビ補足規定及ビ布令ノ全個條ヲ内容トスル一九一七年度收穫ニ對スル一九一七年六月二十一日附ノ帝國穀物規定ノ發表セラル、アリタリ。

之ニ依リテ帝國穀物事務局ハ最高ノ管理局トシテ組織體ノ首位ニ位シ而シテ此ノ管理局ハ管理課及ビ管理課ノ基本的指示ニ基ク實行及ビ事務ノ敏捷ヲ計ル爲メノ事務課ニ依リテ組織サレタリ。帝國穀物事務局ト原則上差押ヲ取扱フ公共團體トノ中間ニハ地方官廳トシテ帝國穀物事務局ト同様ニ組織サレ

タル地方穀物事務局ガ存在シタリ。差押ニ實際上ノ意義ヲ與ヘ且ツ生産品ヲ出來得ル限り残りナク獲得シ得ル爲メニハ根本的ナル耕作地ノ測量及ビ打禾ノ試験ヲ行ヒ之ニ依ツテ個々ノ公共團體ノ收穫量ヲ略々確定シ且ツ之レヲ個々ノ世帯ニ適當ニ配分スルコトガ必要ナリ。此ヲ容易ナラシムル爲メ且ツ交附ノ場合ノ管理ヲ行フ爲メニ世帯簿ノ編制ヲ見タリ。帝國穀物事務局ハ自己ノ收穫量ニ依リテ出來得ル限り滿サル可キ經濟區域ノ算定的結果ニ基キ又一方ニハ全經濟區域ノ爲メニ統一的ニ編纂サレタル配分簿ニ依リ又陸海軍ノ需要ヲ顧慮シ各公共團體ノ需要分ケ前ヲ計算シ特ニ各公共團體自身ハ幾何量ヲ消費スベキヤ、且ツ各公共團體ハ他ノ團體ノ爲メニ幾何量ヲ交付セザル可ラザルヤヲ確定スルヲ得タルモノナリ。

平時ニアリテ商品ノ需給投合ニ關係セシ商業ハ此ノ組織體ノ成立ニ依リ彼等ノ仕事ヲ失ヒ其ノ中ノ一部ハ官廳ノ職務ヲトルコト、ナレリ同様ニ製粉及ビ主トシテ全テノ穀物ノ加工工業ハ經濟狀態ノ變化ノ影響ヲ蒙リ彼等ノ仕事モ亦實際ニ公ノ機關ノ命令ト報酬ノ中ニ置カレタリ。要スルニ一定ノ組織ノ缺乏ノ結果獨逸國ノ穀物供給ニ關スル問題ハ單ニ自由ナル商業ノ活動ヲ中止スルコトニヨツテ解決シ得ラレタルナリ。斯ルガ故ニ公ノ管理ハ明カニ國營取引獨占ニ外テラザルヲ認メ得ベシ。

國營取引獨占ガ主トシテ制限サレタル方法ニ依リテ行ハレ得ル限リニ於テハ此ノ制度ガ其ノ時代ノ要求ヲ滿シ且ツ其ノ改造ニ當リテハ平時ノ經濟ヲ顧慮スベキハ經驗上明ナル處ニシテ獨逸ガ或ル過渡期

ヲ經過セル後其ノ經濟的孤立ヲ中止スルニ至ルヤ實質的ニ變化セル經濟條件ハ回復スルニ至リ且ツ此ノ經濟條件タルヤ一般ニ世界大戰以前ノ狀態ニ相應スルモノナルコトハ之ヲ認メザルヲ得ザルナリ。專賣ガ更ニ範圍ヲ廣ムルトモ此ノ專賣ナルモノガ完全ニ變化セシ狀態ニ順應スベキ狀態ニアルヤ否ヤヲ知ル爲メニハ先ヅ穀物ノ取引一般ニ付テ簡述シ自由取引ガ爲シ得タル如ク專賣ガ消費ノ要求ヲ満足セシメ得ルヤ否ヤヲ研究スル必要アリ。

(二) 穀物取引

穀物取引カ需給投合ニ從來效アリタルノ理ニ付其ノ職分及機能ヲ大要左ノ如ク説ク

商行爲ノ目的ハ三様ノ性質即チ供給及ビ需要ヲ場所の品質的及ビ時間的ニ平衡ヲ得セシムル事ニ存ス。之ヲ穀物及ビ飼料取引ニ付テ云ヘバ場所の平衡ハ過剩區域ヨリ需要區域ニ向フ穀物ノ輸送ニ存シ同時ニ品質ニ關スル平衡モ共ニ行ハル。何故ナラバ消費ガ特殊ノ需要ノ對象タル種類ト品質ノミニ關スルモノナルトキニ限り商業ハ——結局商業ハ生産者即チ農業ノ仲介者トシテノミ働クモノナルガ故ニ——其ノ報酬價格ヲ獲得シ得ルナリ。獨逸ノ農業ニトリテ好都合ナル市場關係ハ只外國トノ活潑ナル穀物貿易能力ニ依ツテノミ生ゼシモノナル事ニ就テハ最初ニ述ベシ所ナリキ。獨逸ニ於ケル一定ノ穀物種類ノ過剩ニ對シ外國ニ於ケル販賣能力ヲ恢復セシハ關稅政策ノ保護ニヨルト共ニ又實ニ商業ノ功績ナリキ。此ノ結果農業ハ絶ヘズ國內ノ需要ヲ顧慮スルコトナク、獨逸ノ土地及ビ氣候關係ニ最

モ適當セル穀物ノ種類ヲ栽培スベキ狀態ニ置キ換ヘラル、ニ至レリ。

世界貿易ノ發達ト共ニ他方品質的均一及ビ經濟ノ遂行ヲ愈々完全ニスルノ途ガ開カレ一定ノ目的ノ爲メニ使用スルニ祖國ノ生産品ヨリヨリ安價ニシテヨリ營養價ニ富ム生産品ノ輸入ハ可能トナリ國民經濟ハ氣候及ビ土地關係ヲ條件トセル假定ヨリ解放サレ且ツ時ノ狀態ニ適合シタル經濟ノ最高程度ニ到達スベキ可能性ノ作ラル、ニ至レリ。

我國ノ畜産ハ最近十箇年間ニ於テ輸入生産物殊ニ玉蜀黍、橄欖種子及ビ油糟ノ如キ物質ニ依リテ行ハレ來リタルガ此等輸入生産物ハ内國産ノ穀物種類及ビ飼料ニ比シテ多クノ場合合理的飼料トシテ定評アルモノナリキ。此等ノ生産物ノ價格ノ低廉ナルニ依リ一方家畜ノ生産費ハ極メテ僅少トナリ他方極メテ價値アル穀物ハ益々多量トナリ、人間ノ直接ノ食料及ビ輸出ハ容易トナリ、此ノ結果所謂國民財産ノ二重ノ増加ヲ生ズルニ至レリ。

斯クノ如キ生産ニ於ケル最高程度ノ經濟主義ハ取引ノ強キ媒介行爲ニ依ルモノナリ。海外ノ飼料ノ發見輸入ニ關スル獨逸ノ商業ノ偉大ナル功績、而シテ一八九〇年ヨリ一九一三年ニ至ル迄ニ牛豚ノ家畜頭數ガ増加シ、國內ノ肉類ヲ以テ殆ンド全需要ヲ滿シ得ルニ至ラシメシコトニ付テハ先ヅ第一ニ商業ニ感謝セザル可カラザルナリ。健康及ビ經濟的關係ヨリ見テ、海外ヨリノ大輸入ニ俟ツ他國ニ比シテ原料關係ヲ基礎トセル我が食料經濟ノ利益ナルハ敢ヘテ説明ヲ要セズト雖モ、然シ唯他ノ關係ニ於テ

獨逸ノ經濟的孤立ガ起リツ、アル今日此ノ狀態ガ持續サル、ハ恐ラク不可能ナルコトヲ認メザル可カラズ。

收穫ノ時期ニ過剩ノ供給ヲ抑制シ之ヲ倉庫ノ中ニ集メ而シテ最モ良キ販賣能力アル時期迄蓄積スベキ商業ノ時間的平衡行爲ハ結局價格ヲ全年ヲ通ジ可成リ一定ニ保タシメ而シテ刈入後直チニ、往々ニシテ稻ノ儘ノ中ニ收穫物ヲ賣却センコトヲ期待セル經濟的ニ微力ナル生産者ニ平均價格ヲ確定セシムル結果トナルナリ。商業ハ時間的の平均作用ニヨリ耕減リニヨル數量上ノ損失及ビ品質ノ惡化ノ危險及ビ間歇的ナル景氣ニ依ル價格損失ノ危險ヲ自ラ引受クルガ故ニ時間的の商品均一作用ハ當然其ノ中ニ大ナル危險ヲ藏スルモノナリ。故ニ時間的の商品均一ハ生産物取引所ノ設立特ニ定期賣買ノ開始ニ依リ廣キ再保證ノ道ヲ講ゼラレタリ。取引所ニ於テ爲ス取引ハ製粉所、養豚業者及ビ之ニ類似ノ者ト長期供給契約ヲ締結スルコトニ依リ再保證ヲ得ルモノニシテ、之等製粉所、養豚業者等ハ更ニ消費者社會ニ危險ヲ分擔セシムル事ニ依ツテ自己ノ取引ノ安全ヲ計ル。其他商業ハ至ル處ニ於テ常ニ必ズシモ充サレザル全需要ノ供給ヲ保證スル爲メ常ニ極メテ重要ナル狀況ニ精通スベキ事ヲ強要セラル、モノナリ。斯ルガ故ニ時間的の物品均一ノ商業ハ純投機ナリト雖モ然シ又國民食糧ノ保證ニトリテハ必要ニシテ且ツ價值多キモノナリ。

本題目ニ掲ゲシ商業ノ機能ノ實行ハ極メテ複雑セルモノニシテ此ノ機能が最モ稀レナル場合、主トシテ近距離ニ於ケル比較的僅少量ノ取引ノ場合ニハ同一人ノ中ニ依ツテ爲サルベキモ一般ニハ自然の組織及ビ分業ガ形成セラレ而シテ此ノ兩者ガ全體トシテ作用シ、且ツ各方面ニ亘リテ完全ナル信賴ヲ必要トスル共同作業ヲ行フコトニ依リテノミ其ノ目的ヲ達シ得ルモノナリ。

國內ノ生産者ヨリ穀物ヲ購買スル場合ニハ一般ニ地方取引ニ依リテ行ハル。而シテ地方取引ハ穀物ガ其ノ地ニ於テ消費セラレザル限り之ヲ順次卸賣ニ讓渡スルナリ。普通ニ需要中心地ニ存在スル卸賣ノ直接ノ購買ハ最近ハ代理者ニ依リテ多ク行ハルベキモ、一般ニハ然シ大生産者トノ直接取引ニ制限セラレ居レリ。穀物ノ價格ハ本質的ニ此ノモノ、品質ニ依ツテ限定セラル、ガ、其ノ品質ニ對シテハ個個ノ生産區域ニ於テ其ノ培養サレタル品種ノ如何ニ依リテ標準ヲ定ムル見地ヲ異ニシ、而シテ標準ノ確定ハ只各個人ノ検査ニ依ツテノミ可能ナルガ故ニ、穀物ノ購買ハ地方定着の取引ニヨリテ自然のニ且ツ比較的僅少ナル費用ヲ以テ行ハル、コトヲ得。而シテ斯ル地方定着の取引ハ往々生産者ト個人的關係ヲ結ビ且ツソノ取引行爲ガ他ノ物品ニマデ及ブベキ機會ヲ有スルコトニ依ツテ地方定着の取引ハ彼ノ生計ヲ只穀物取引ノ中心ニノミ求ムベキ事ニ賴ラザルニ至ルベシ。

特ニ最近ニ至リ商業ト並ビテ收穫物販賣ヲ行ハンガ爲メニ生産者ノ組合的聯合ガ漸次顯著トナレリ。生産者ハ此ノ方法ニ依リ取引組織體ノ最低機關ヲ場合ニ依リテハ取引組織ヲモ完全ニ除去セントスルモノニシテ且ツ製粉所及ビ消費者トノ直接取引關係トノ中ニ入り來ルコトニヨリ取引ノ中間利得ヲ省

キ之ヲ生産者ノ所得ニ振り向ケントスルモノナリ。

之ニ反シテ外國穀物ノ購買ハ卸賣ニ於テノミ行ハル。特ニ販賣ハ主トシテ見本ニ依リテ行ハル。取引ノ遂行ニ對シテ海外輸出商業者ノ個人的關係ナキ以上卸賣ハ柏林、「ハンブルグ」、「マンハイム」ノ取引中心地ニ住居セル外國商館ヲ代表スベキ一定ノ問屋ヲ利用セザル可カラズ。輸入取引ハ此ノ理由ニ基キ世界各所ノ種々ナル穀物種類ノ品質及ビ性質ニ關スル極メテ豊富ナル知識ト經驗トヲ必要トス。而シテ此ノ知識ト經驗ヲ視察ニ依リ莫大ナル費用ヲ拂ヒ十數年ノ年月ニ亘ル勞力ニ依リ得タル商館ノミガ品質ニ關スル消費者ノ強キ要求ヲ満足セシメ得ルナリ。然モ輸入取引ハ之等ノ商館ニ於テスラ大ナル危険ヲ伴フモノニシテ船荷證券ニ基ク國際的計算方法ノ爲メ及ビ各所ニ於テ普通ニ行ハレ居ル不正確ナル品質選定ノ爲メ利得ヲ得ツ、アル多數ノ不信用ナル海外輸出業者ノ爲メニ既ニ多大ノ損害ヲ齎セシ處ナリ。

重要ナラザル地方的國境越取引ヲ除外セバ輸出取引モ亦結局卸賣ニ依リテ行ハル。國際的情報事務ノ完成並ニ世界市場ニ於ケル烈シキ競争ノ結果種々ナル地點ニ於ケル價格ノ均一ハ極メテ迅速ニ行ハル。ソレ故ニ斯ル取引ハ非常ナル氣轉ト迅速ナル決斷トヲ必要トシ加フルニ關稅貨物及ビ外國手形關係特ニ個々ノ國及ビ場所ノ取引慣習ニモ亦精通シ以ツテ品質ノ惡化及ビ消失ニ依リテ起リ得ル輸送損失及ビ主トシテ之ニ關連セル信用手形承認ノ危険ヲ除キテモ尙ホ利益ヲ生ゼシメザルベカラズ。財

政上ヨリ見レバ此ノ交易取引ハ純運送ト取引及外國爲替取引ニ他ナラズ。

運送業ハ獨逸國ノ國民經濟ニ直接ノ意義ヲ與ヘズト雖モ最近特ニ港ニ定住スル商館ガ漸次之ニ從事スルニ至リ而シテ運送業ハ一方國民財産ノ増加ノ源トシテ且ツ又獨逸ノ威信及ビ經濟的發達ノ利害ニ關係スルモノトシテ看過スベカラザルモノナリ。海外收穫物ノ金融ハ運送業ト密接ナル關係ヲ有スルモノナリ。以前ニアリテハ此ノ業務ノ大部分ハ「ロンドン」ニテ行ハレタリ。而シテ「ロンドン」ガ將來ニ於テモ亦尙ホ此ノ業務ヲ以前ノ範圍ニ於テ行フヲ得ルヤ否ヤ、竝ニ獨逸ニトリテ萬一ノ場合此處ニ生ズル間隙ノ中ニ入り込ミ得ル可能性或ハ必然性ガアルヤ否ヤハ之ヲ將來ニ俟タザルベカラズ。

(三) 專賣ト海外取引

穀物取引中海外取引ハ穀物專賣ノ新部門トシテ、專賣ノ着眼點ヨリ考察サルベキモノナリ。自由取引ヲ除外セル場合需要ノ保證ノ爲メニ必要ナル海外穀物ノ獲得ハ關稅保護及ビ一定ノ荷揚地點ノ存在ノ爲メ技術的ニハ簡單ナルモノナリ。若シモ專賣局ニ依リ購買ガ外國ノ場所ニテ行ハレザルベカラザルトスレバ、購買タルヤ極メテ困難ナルモノトナルベシ。前述ノ如ク海外ノ穀物及ビ飼料ノ購買ニハ豊富ナル知識經驗及ビ國家的組織體ニ直チニ委任セシメラレ得ザル個人的取引關係ヲ前提トス。品質ニ關セル消費ニ對スル供給ハ專賣局ノ場合ニハ惱ミノ種タルヲ豫想セザル可カラズ。而シテ專賣局ニア

リテハ不良ナル品質ニ對シテ附セラルベキ價格ハ出來得ル限り優良品ヲ供給セント競争スル自由取引ニ於テ同一ナル品質ニ對シテ附セラルベキ價格ヨリ比較的高價トナルベキハ確實ナリ。

加之國家的輸入取引ノ財政的効果ヲ著シク害スベキ契機ノ存スルアリ。卸賣ハ其ノ決斷ノ完全ニ自由ナルガ爲メ又私的利害關係ノ重大ナルガ爲メ專賣局ニ依リテ行フヨリヨリ迅速ニ、ヨリ良好ニ市場状態ヲ利用スルヲ得ベキモ、專賣局ニアリテハ或特殊ナル權力ガ若干ノ極メテ堪能ナル各個人ノ手中ニ歸屬セシメラレザル以上自ラ商人の行動ハ其ノ敏捷ヲ缺如スルニ至ルモノナリ。此ノ場合ニ於テハ專賣局ハソノ取引上極メテ重大ナル責任ヲ課セラレ終ニハ斯カル役ノ引受ニ對シテ殆ンド適當ナル人物ヲ見出シ能ハザルニ至ルベシ。國家的輸入取引ニアリテハ需要ハ私的取引ノ場合ノ如ク個々ノ契約量ニ分解セラル、ヲ得ズ。而シテ私的取引ノ場合ニ於テハ誤レル契約ノ締結ハ——斯ル誤レル取引契約ハ常ニ世界市場ニ於テ比較的重要ナル價格變動ガ生ズル場合ニ起ルモノナルガ——結局個々ノ商人ノ財政的損失ヲ誘致スルモノナリ。然レドモ商人ニシテ巧妙ニ取引ヲ行フ場合ニハ手形賣買ニ依リ此ノ損失ヲ殆ンド平均サセ得ルヲ以テ一般ハ其ヲ感ゼズ且ツ之ニヨリテ何等ノ損害ヲ蒙ルコトナキナリ。然シ國家ガ自ラ行フ場合ニ必要ナルガ如キ大量ノ取引契約ニアリテハ事情ハヨリ有利トナルナリ。若シモ專賣ノ財政的結果ニ大ナル動搖ヲ來ス可カラザル場合ニハ支出超過ハ無競争ノ結果國家ノ負擔ニナラズシテ反ツテ全部消費ニ轉嫁サルルヲ以テナリ。

國家ノ購買スル場合ニハ購買者側ニ於テ低廉ナル購買價格ニ依リテ優良ナル品質ヲ得、且ツ購買價格ヲ多少共世界ノ平均價格以下ニセントスル公然ノ競争ヲ缺如スルガ故此ノ競争ガ國家ニ有利ニ販買者側ニ起ルヤ否ヤハ研究ノ餘地アルベシ。斯カルヨキ作用ヲ有スル大購買制ノ例ハ佛蘭西ノ煙草專賣ニ於テ見ラル。此ノ場合國家ハ需要ノ豫想高ヲ公示ス。商人ノ側ニテハ細記セル品質ニ對シテ入札ガ行ハレ而シテ極メテ激シキ競争ノ結果入札價格ハ極メテ低廉トナルナリ。之ニ類似セル購買制ハ海外穀物ノ需要ノ満足ニ對シテモ恐ラク行ハレ得ルコトナラン。外國各市場ニ於ケル國家的購買ハ常ニ取引ノ迅速ナルコトヲ前提トス。世界ノ大相場師トシテ極印サルベキ國家代表者ノ態度如何ハ結果ニ於テ市場ニ影響ヲ及ボシ蓋然的購買ト雖モ穀物價格ヲ世界平均價格以上ニ騰貴セシムベシ。之ニ反シテ公示ノ場合ニ於テハ專賣局ハ長キ間保留シ署キ品質及ビ價格ニ關シテ精細ニ吟味スルヲ得ベシ。

尤モ此ノ場合ニ於テモ收穫ノ全部ニ亘ルノ結果申込ノ決定ハ容易ニ非ルベク又其ノ他ノ輸出國ノ未詳ノ收穫豫想ヲモ常ニ考慮ニ入レザルヲ得ザルベシ。斯カル處置ノ場合ニハ專賣局ノ購買ハ、外國市場ニ及ボス直接ノ影響ヨリ免レ得ルモノニシテ、獨逸ノ需要ガ既ニ確實ニ保證セラレテ後ニ初メテ此ノ影響ハ起ルナルベシ。斯カル制度ニ對シテハ他ノ方面ヨリシテモ疑ヲ挾ム餘地アリ。大戰中外國物品ヲ有利ニ供給スル目的ヲ以テ中央購買組合ガ設立サレシ時、當時穀物ノ國內供給ノ爲メニ只一ノ國トシテ重要ナリシ「ル

「マニア」モ同様ナル組織體即チ中央組合ヲ設立シテ之ニ報ヘリ。政府ヲ代表シ自由取引ヲ除外視セシ兩組織體ノ商議ノ經過ハ穀物價格ノ騰貴ヲ惹起スルニ至リ、シカモ其ノ騰貴ノ程度タルヤ困難ナル諸事情アリタリトハ極メテ不當ノモノナリキ。獨逸ノ決定セル態度ニヨリ獨逸トノ取引ニ於ケル價格ノ下落ヲ除カンガ爲メ將來モ亦同様ナル方法ニテ個々ノ輸出國內ニ於テ商人ノ聯合ガ組織サル、ヲ得ベシ。其ノ他穀物ニ關シ獨逸ヲ困難ナラシメ且ツ穀物ノ價格ヲ騰貴セシムベキ之等組織ノ國際的協定ヲ結ブヲ得ベキナリ。輸出國ノ政府ハ政治上ノ不和ノ機會トモナルベキ獨逸トノ商議ヲ其ノ商人組織體ヨリ剝奪ス可キハ豫想ニ難カラザル處ナリトス。何故ナラバ之等組織體ハ往々購買ニ際シテ政治的顧慮ヲナシ其ノ結果獨逸ハ最モ有利ナル購買ノ可能性ヲ阻害サル、ニ至リ政治上ノ不利ヲ來ス虞アルヲ以テナリ。

輸出取引ノ遂行ガ專賣ニ依リテ直接實行セラル、場合ニハ財政上ノ點ニ於テ殊ニ困難ナル場合ニ逢着スルナラン。既ニ述ベシ如ク我國ノ從來ノ穀物輸出货量ヲ維持シ此ノモノ、有機的發達ヲ計ルコトハ獨逸國ノ經濟的及ビ文化的進歩ニ對シテ極メテ重要ノモノナリ。然レドモ獨逸ノ穀物生産品ニ對シテハ需要ナキニ非ラザルモ、ソハ他ノ國ノ生産品ニ依リテ容易ニ完全ニ代用サレ得ザルガ如キモノニ非ザルガ故ニ、獨逸ノ生産品ノ爲メノ市場ノ開發及ビ擴張ニハ極メテ大ナル努力ヲ要スルナルベシ。農業ノ爲メニ適當ナル價格ヲ得ンガ爲メニハ極メテ迅速ナル決斷、能力ト相俟ツテ市場貨物及ビ爲替關係

ノ最モ精密ナル觀察ヲ必要トス。國家ニ依リテ行ハル、直接ノ輸出取引ヨリ生ズ可キ財政上ノ不利ナル結果ハ農業ニ轉嫁サル、ヲ以テ、國民經濟上ノ損失ヲ惹起シ特ニ農業ノ發達ヲ阻止スルノ結果ヲ生ズベシ。從ツテ國內ニ於テ支拂ハル、購買價格ト外國ニ於テ得ラル、賣却價格トノ間ニ現今既ニ存在スル差ハ專賣即チ消費者ノ負擔トナルベシ。

我國ノ輸出穀物ノ主要ナルモノハ穀粉、麥芽、麥粒、小麥粉、麥屑、及ビ燕麥屑ノ如キ穀物生産物ニ依リテ占メラル。而シテ此ノ大部分ハ加工品取引ナリ。自由取引及ビ之等生産品ノ輸出ハ專賣ノ範圍如何ニ由ル。

加工セザル穀物ノ輸出ノ場合ト同様ノ理由ニ依リ穀物加工品ノ專賣權獲得ノ場合ニハ此ノ輸出額ハ減少シ而シテ此ノ加工品取引ノ衰退ノ結果年々ニ國民財産ノ總額ノ減少ヲ見ルノミナラズ港ニアリテ此ノ加工品取引ノ上ニ樹立セル工場ノ大部分ハ之ニ依リテソノ根底ヲ脅カサル、ニ至ルベシ。

而シテ此ノ際更ニ關稅保護ノ施設ノ外ニ新シキ處置ヲ設クルハ原則トシテハ決シテ必要ナラザル處ナルモ此ノ際當然關稅實施國及ビ專賣國ニ賴ル處多キ商業ノ爲メニ必要ナル緩和的施設——例ヘバ自由港、保稅倉庫ノ如キ——ヲ重要ナル輸出入地若クハ一般ニ總テノ主要取引地ニ設ケ最モ自由ニ之ヲ利用セシムルハ望マシキコトナルベシ。此ノ場合ニ於テハ取引ハ從來ノ如ク直接ニ消費者ニ供給スル代リニ自ラ穀物ヲ消費者ニ供給スベキ國家ニ供給スルニ至ラン。尙全經濟生活ニ對スル正ニ革命的ナル

干涉ノ停止ヲ生ズル以外ニ、國家ガ直接ニ外國市場ニ於テ穀物ヲ購入スルノ困難ハ、ソレニ結合スル附隨現象ト共ニ避ケ得ラルベク國家ノ爲メニ實ニ國內ニ海外穀物ノ購買市場ガ設立サル、ニ至ルベシ。特ニ陸軍省ガ從來大消費者トシテ購買ノ方法ヲ採リシ場合ノ經驗ヨリシテ需要ノ公示即チ佛蘭西ノ煙草專賣ノ如キ方法ガヨキカ或ハ自由取引ノ購買ノ制度ニ從ヒ連續セル供給ニ對スル購買ガ可ナルカ其ノ何レガ有利ナル需要満足ノ保證ヲ與ヘルヤ否ヤモ之ヲ決定シ得ベシ。

問題ヲ好都合ニ解決スルニ當リ只輸出取引ノミガ尙若干ノ困難ヲ齎ス。此ノ際注目スベキハ著シキ百分率ヲ示セル輸出穀物ハ事實上外國ヘ行カズシテ反ツテ海ヲ越ヘ東部生産地ヨリ西部ノ工場多キ需要中心地ニ向ツテ行クモノナル事之ナリ。此ノ事ハライ麥ニ付テ特ニ云ヒ得ル處ニシテライ麥ニ付テハ數字上極メテ多量ナル輸入中其ノ極少部分ノミガ外國品ナリ。

實際ノ輸出入ハ國家的取引統計ニ依リテモ算出シ得ズ。之ニ關スル數字の報告ヲ爲スコト能ハザルナリ。故ニ假令實際ノ輸出ハ之ガ統計ニ於テ現ハル、ガ如ク重要ナルモノニアラズトシテモ、アリ得ベキ收穫不足ノ場合ヲ顧慮スレバ少クトモ外國ニ於テ賣却スルコトヲ得ル事ハ如何ナル事情ノ下ニテモ保證サル、ヲ要スル事ニツキテハ先ニ言及セシ處ナリ。若シモ外國穀物ノ爲メノ市場ト關係セル專賣ノ外ニ國內各地産ノ穀物購買ノ爲メノ自由市場ガ輸出ノ目的ノ爲メニ許可セラレ且ツ此ノ市場ニ於ケル最初ノ販賣者ガ常ニ只專賣局ノミナルガ如クセンカ、恐ラク此ノ方面ニ於テモ最善ノ結果ヲ得ルコ

トヲ得ベシ。此ノ市場ニ於テ購買セラレシ穀物ハ事實上輸出サレ再ビ國內ノ消費者ノ手中ニ入ル能ハザラシムルガ如キ豫防法ハ技術的ニ實行極メテ容易ナルベシ。此ノ方法ニ依ル時ニハ、專賣局ヲシテ外國ニ於ケル穀物販賣ノ爲メノ好機ヲ捕ヘシメ、而モ輸出取引自體ノ遂行ノ責任ヲ出來ルダケ一手ニ引受クルガ如キ組織ノ形成ヲ商業ニ委任スルハ不可能ニアラザルベシ。

此ノ意味ニ於ケル輸出入取引ノ統制ニ依リ輸送取引ハ純輸送取引ノ形式ニ於テモ並ニ加工品貿易——此ノ貿易ノ維持及ビ獎勵ハ其ノ効果ノ點ニテハ獨逸國ノ經濟的向上ニ極メテ重大ナル關係ヲ齎スモノナリ——ノ形式ニ於テモ、專賣ノ傍ラ然モ專賣ニ依リ制限サル、コトナク完全ナル發達ヲ爲スヲ得ベク且ツ實ニ專賣ノ中ニ特種ナル擁護ヲ見出スヲ得ルナルベシ。

以上氏ハ輸出入專賣ノ利害ニ付佛國ニ於ケル煙草ノ例其ノ他ニヨリ論セリ

(四) 專賣制下ノ內國穀物市場

海外取引ニ反シ內國ノ穀物ニ關スル取引專賣ノ實施ニ當リテハ第一ニ技術的困難ニ直面ス。各專賣ノ本質ハ、ソノ性質上同一範圍内ニアル物資ナルコトヲ要ス。若シモ商品ニ對シテ場所的ニ局限セラレタル生産ノ本源ガ存在スル場合或ハ商品ガ消費ニ向ケラレ得ルガ爲メニハ一定ノ經路ヲ通過セザル可カラザル場合即チ結局消費ガ少數ノ一定ノ場所ニ集合セル場合ニハ此ノ前提條件ハ取引專賣ニ對シテ成立スルカ或ハ比較的容易ニ作ラレ得ベシ。而モ此ノ條件ノ一トシテ獨逸ニ於テハ內國産ノ穀物ニ對

シテハ與ヘラレ居ラザルナリ。故ニ取引獨占ノ實施ハ穀物ノ自由取引ノ一般的禁止ヲ前提トシ違反ノ場合ニ於ケル之ガ確保ハ刑罰的威嚇ニ依リテノミ之ヲ爲シ得ベシ。斯カル禁止ヲシテ効果アラシメンガ爲メニハ少クトモ穀物生産地或ハ穀物消費地ニ監視ヲ設ケ得ルノ可能性アルヲ必要トス。公的管理ガ單ニ祖國的及ビ獎勵的目的ノ爲メニノミ役立テ從ツテ著シク各個人ノ愛國的義務觀念ヲ期待スルヲ得タリシ大戰中既ニ此ノ管理ハ極メテ大ナル困難ニ逢着セリ。此ノ困難タルヤ勿論生産區域ノ擴張ノ結果生産區域ガ再ビ幾十萬ノ個別的な管理ニ分割サレタルノ結果ナリトス。場所的ニ局限サレザル生産區域ヨリ生ズル自然ノ生産品ガ豐饒ナル源トシテ國家ニ利用サレシ總テノ國ニ於テモ同様ナル困難ニ逢着シタリ。嘗テ英吉利ニ於テハ國家ノ財源トシテ煙草ヲ完全ニ獲得スル爲メ一般ニ國內ノ栽培ハ禁ゼラレ又煙草ニ對シテ完全ナル專賣權ヲ所有セル奧太利ニ於テハ國家ノ許可及ビ監視ノ下ニ於テ一定ノ栽培區域ニノミ其ノ栽培ヲ許サレタリ。

大戰中可及的ニ全部ノ生産穀物ヲ獲得セン爲メ全收穫ノ差押ニヨリテソノ目的ヲ達セント試ミタリ。生産者ノ自家消費ニ迄モ及ビタル、且ツ飼料ノ禁止ニ依リテ補充サレタル消費ノ一般の合理化ノ結果商品ノ貯藏ヲ監視スル爲メ或處置ガ講ゼラル、ニ至レリ。

然レドモ此ノ可能性ハ經濟生活ノ自由ナル様式ニ對スル要求ヲ除キテモ農民ノミガ彼ノ土地、彼ノ周圍及ビ收穫減少等ノ經濟條件ヲ顧慮シ如何ナル利用方法、賣却、飼養、或ハ加工ガ彼ニ最モ有利ナル

經濟的結果ヲ期待セシムルカヲ其ノ經驗上知ルガ故ニ平時ノ狀態ノ復歸ト共ニ消滅スベシ。若シモ生産地ニ於ケル監視ガ尙ホモ行ハル、トスレバ國家ノ蒙ル莫大ノ費用ヲ度外視シテモ之ニ依リテ農業ニ極メテ煩ハシキ壓迫的制限ヲ齎スベキモノト言ハザル可カラズ。而シテ此ノ制限タルヤ殊ニ小企業家ノ生産ノ喜ビヲ奪フニ等シキモノナリ。且ツ又反對ニ之ニ依リ第一ニ獎勵スベキ穀物耕作ハ終ニ衰退ヲ蒙シ延イテハ耕作地ノ價格下落ノ結果ヲ惹起スルニ至ルベキコトヲ覺悟セザル可カラズ。

穀物取引ノ管理ニツキテハ之ヲ問題トスル以上、今日ニ於テハ既ニ廢止セラレタルモノト看做シ得ル制度ニ迄立歸ラザルヲ得ザルモ、穀物ニシテ一般ニ豫メ加工セザルニ於テハ人ノ嗜好ニ適セザルガ如キ狀態ニアル限り、恐ラク加工場ニ監視ヲ置クト云フ最後措置ガ講ゼラルベシ。此ノ場合ニ於テハ專賣ハ其ノ本質上又特ニ財政上ノ結果ニ關聯シテ、主トシテ直接人ノ消費ニ利用サルベキ穀物ニ制限サレ、而モ此ノ範圍ニ局限サレシ此ノ專賣ハ財政上ノ結果ニ關聯シテ本質的ニハ全穀物專賣ト對立シ殘存スルヲ許サレザルベシ。

穀物ノ價格ハ間斷ナキ往々ニシテ著シキ動搖ヲ來スノ結果又運賃及ビ少クトモ地方的事情ニ依リ帝國ノ個々ノ商業地ニ於ケル穀物價格ニ著シキ差異ヲ來ス結果生産者ト消費者ニ於ケル穀物價格ノ差異ヲ數的ニ圖示スルコトハ極メテ困難ナリ。換言スレバ取引ハ價格決定ノ際ニ其ノ行爲ニ依リテ幾何ノ利益ヲ獲得スルヤハ價格ヨリ計算シ得ザル處ナリ。故ニ人ハ商業界ノ區々トシテ定マラザル報知ニ依

頼セザル可カラズ。南獨逸ノ穀物取引所及ビ市場組合ガ穀物專賣ニ關シ内務大臣ニ提出セル決算報告書ノ中ニハ取引ガ普通ノ場合、平均ニ所得シ且ツ之ヨリ全費用ヲ補償シ得シ利益ハ穀物一噸ニ付二、五乃至三「マルク」ナリト明記セリ。穀物專賣ニ對抗シテ「ハンブルグ」取引場ノ穀物取引員ノ聯合ヲ動機トシテ發表セル冊子ニ依レバ取引ハ平均一噸ニ付僅カニ一「マルク」ノ利益ニテ十分ニシテ且ツ旅行、郵便、電話及ビ電報費並ニ其ノ外普通ノ取引費及ビ租稅ヲ通算セル全費用モ亦極メテ低廉ニシテ一噸ニ付一乃至一〇「ペンニツヒ」ナリト報告サレタリ。

事實取引ガ其ノ勞力ニ對シテ所得セシ總利益ハ價格ノ平均一%ナルベク而シテ此ノ高ハ他ノ商品ノ普通ノ利益ニ比スレバ極メテ低廉ナルモノナリ。此ノ場合穀物取引ヨリ得ラル、取引ノ投機的利益ハ問題トハナラザルナリ。之レ後述ノ如ク專賣ニ對シテハ斯カル利益ハ成立シ得ズ且ツ又普通ノ場合ニハ穀物ノ騰貴ノ助ケトナラザルガ爲メナレバナリ。

又投機的取引ハ少クトモ眞ノ商業ニ於テハソノ全收入ニ比スレバ單ニ從屬的ノ意味ヲ有スルニ過ギザルヲ以テ投機的取引ヨリ生ズル利得ハ商業ガ獲得スル全平均的の利益ヲ變ズル事能ハザルナリ。個々ノ取引ガ穀物取引ニ對シテ齎セシ利益ハ極メテ僅少ナルニシテモ穀物取引ハ只ソレニ依リテノミ存在スルヲ得。又穀物取引ヲシテソノ商品ヲ迅速ニ賣却シ之ニ依リ適當ナル利得ヲ得サシムルガ如キ特ニ完全ナル支拂_レ及ビ信用制度ノ此ノ取引部門ニ於ケル發達ニ比シテ極メテ大ナル發達ヲ爲スヲ得タルナ

リ。

若シモ人ガ穀物ノ全需要ハ約二千八百萬噸ナリトノ計算ヲ基礎トシテ而シテ少シク少額ニ過グルモ内國生産物ノ僅カニ四分ノ一ガ生産者ニ依リテ直接消費サレ且ツ飼料ニ供セラレ是ガ爲メ交易サル、ニ至ラズ。且ツ又專賣ニテモ觸ル、能ハズ。而シテ此ノ殘額ノ穀物ハ一般ニ二人ノ手ニ移リ之ノ各々ハ一〇〇〇噸ノ穀物ニ付平均三「マルク」ノ總利益ヲ獲得スト假定スレバ人ハ取引ガ彼ノ勞力及ビ彼ノ行為ニ對シテ獲得シ且ツ亦之ヨリ取引上ノ費用ヲ補償シ得ベキ全利益ハ總計一億四千萬「マルク」ニモ達セザルヲ知ルベシ。若シモ人ガ一般の體驗ニ依リ將來ノ穀物專賣ト相異セル業務ヲ行フ戰時經濟的帝國穀物事務所ト比較セズトモ、國家ノ經營スル組織或ハ企業ハソレガ私經濟的ニ營マレシ場合ヨリモ遙カニ大ナル營業費ヲ必要トスルモノナルコトヲ顧慮スレバ專賣ノ財政的結果ハ單ニ取引ノ從來ノ利益ニ満足スル限り明ニ如何ナル事情ニ於テモ全經濟生活ニ重大ナル影響ヲ及ボスモノニ非ザル可シ。穀物專賣ニ財政的價值ヲ與ヘ得ルガ爲メニハ少クトモ從來ノ穀物稅ノ收入ノ外ニ三億乃至五億「マルク」ノ純益ヲ得ルコトガ必要ナリ。

尙戰前ニアリシ取引附加稅ニ更ニ其ノ種類ニ應ジテ一噸ノ穀物ニ付一〇乃至二〇「マルク」ノ増率ヲ爲ス必要アリ。

上述商業ニ關シテ論ゼシ處ヨリシテ次ノ如ク論及スルヲ得ベシ。即チ商品價格ノ事實上ノ騰貴ハ商業

ノ活動ヨリ生ズルモノニ非ズシテ寧ロ商業ノ要求スル利益ハ凡テノ方面ニ於テ平衡的ニ作用スルモノナリ。其ノ活動ニ甚シク高キ税ヲ必要トスル穀物專賣ニ就キテハ同様ニ論ズルコト能ハザル處ニシテ反對ニ生産者ノ取得スル價格ト消費者ノ支拂ハザル可カラザル價格トノ間ニハ著シキ懸隔存スルナリ。

今ヤ穀物ガ人ノ直接ノ營養トシテ製粉ニ利用サル、以上自給者ノ製粉消費モ專賣ニ依リ把ヘ得ルモノトス。即チ直接ニ生産者ノ自費ニ依ル賃銀製粉ヲ禁ズルカ或ハ之レニ課税スルコトニ依リテ、或ハ又間接ニ生産者價格ノ評價ノ際有利ナル自給制ノ爲メ補償ヲ計ルコトニ依リテ之ヲ把ヘ得ベシ。然レドモ飼養ノ爲メニ定メラレシ總テノ穀物ニ對シテハ事情之ト異ル。何故ナレバ此ノ場合ニ於テハ穀物ハ結局生産者ニ依リテ消費サレズ反ツテ動物ノ質ニ變ジ而シテ此ノ形態トナシタル後取引セラルベキガ故ナリ。此ノ穀物ニ課税スルハ專賣ノ財政的結果ニトリテハ重要ナルベキモ完全自給者及ビ飼料ノ需要ヲ自己ノ經濟ヨリ完全ニ満足スル状態ニアラザル總テノ家畜飼養者及ビ牧畜者ニ對シ全然異レル經濟的條件ヲ設定スル結果トナルベシ。即チ家畜飼養者及ビ牧畜者ノ經濟ハ一般ニ不如意ニナルカ或ハ課税ノ結果家畜價格ガ相當ナル上昇ヲ來セル場合ニハ完全自給者ノ懷ニハ不相當ナル經濟的利益ガ入り來ルベシ。次ニ穀物ノ買上價格ガ比較的低廉ナル場合ニハ斯カル事情ハ全農業生産ニ影響ヲ及ボスベク、吾人ノ國民經濟ニトリテ極メテ重要ナル結果ヲ生ズル生産ノ轉換ヲ誘致スルコトアルベシ。

專賣ノ利益ヲ獲得セン爲メ穀物專賣ニ依リテ穀粉及ビパンノ消費ノミナラズ又肉類ノ消費ヲモ適當ナル範圍ニ於テ專賣ニ關係セシメントスルガ如キ穀物專賣自體ニトリテ誘惑的ナル期待ハ實際的ニハ價値ナキモノナリ。飼養ニ供セラルベキ穀物ノ管理ニ依リテ得ラル可キ利益ハ此ノ場合ニテハ取ルニ足ラザル程度ノ餘剩ナルヲ以テ極メテ價値ナキモノニシテ一般ニ之等ノ穀物ニ關係スルヲ放棄スルハ合理的ナルベシ。

此ノ考察ノ出發點ニ立チ歸リテ論ズルモ要ハ比較的實行容易ニシテ且ツ經濟生活及ビ經濟發達ヲ害スルコトナク實行シ得ル處ノ穀物加工場ノ可及的有効ナル管理ニ局限スルヲ以テ十分ナリトス。然レドモ大戦中ニ起リシ所謂黑色製粉ノ變種ハ此ノ場合ニ於テモ缺陷アルヲ示スモノナリ。故ニ專賣ハ結局其ノ裏ニ國民ノ密買買ガ行ハル、一ノ告示ニ過ギズ。從ツテ專賣ノ着眼點ハ倫理的意味ニ於テハ近代の國家ノ原則トハ全然一致セザルモノトノ印象ヨリ脱スルヲ得ズ。

(五) 取引專賣ノ組織

戰時中ノ異常ナル事情ニ處スルヲ目的トセル限りニ於テ戰時經濟的專賣ハ一ツノ應急措置トモ言フベキモノナリ。故ニ此ノ場合取引及ビ交易ノ現存設備ハ其ノ可能ナル限り之ヲ存續セシメ且ツ之ヲ除去スルノ止ムナキ場合ニ於テハ此ノ設備ノ支持者ハ之ヲ經濟的ニ可及的強力ナラシメ以テ異常ナル状態ノ消滅セル場合ニハ彼等ヲシテ再ビ交易ヲ自ラ行フヲ能ハシムル様注意セラレザル可カラザリキ。

當局ハ此ノ考慮及ビ特ニ亦豊富ナル經驗及ビ知識ヲ有スル商業ガ最モ適任者ナリトノ事情ニ動カサレ一般ニ穀物委託の交易ヲ商業ニ委任スルニ至レリ。

然シ此ノ種ノ業務ノ擔當ハ確固タル取引專賣ニ對シテハ問題ニナラザルナリ。委託ニヨル解決ハ不經濟ナリトノ事情及ビ委託ハ只上述ノ理由ヨリシテノミ戰時中ノ異常ナル状態ニ於テハ經濟的ニ妥當ナルモノナルノ事情ヲ除外視スレバ專賣ハ商業界トノ共同作業ヲ長ク恃ムコト能ハザルナリ。商業ガ市場ヲ閉塞サレ且ツソレガ取扱得ラルベキ殆ンド總テノ他ノ商品ガ亦自由貿易ヨリ奪ハレタル戰時中商業ハ專賣トノ協力ニ其ノ活動ト功績トヲ見出セルヲ喜ベリ。

國家ガ委託取引ニ著シキ高率ノ財政的利益ヲ與フベキ場合ノ外平時ニ於テハ商業ハ最早此ノ種ノ委託取引ニヨリ何等ノ利益ヲ得ルモノニ非ラズ。何故ナレバ此ノ取引ニアリテハ商業ノ本質的行爲ヲ爲スベキ一ツノ餘地モ存セザルガ爲ナリ。故ニ戰時中商業界ガアリシ位置ニ役人ガ現ハルベク且ツ又當初ハ役人ノ大部分ハ商人社會ヨリ出ヅルトフルモ、多クノ商人の熟達ヲ必要トスル此ノ種ノ行爲ヲ爲スニ適セル後繼者ヲ養成スルハ容易ナル事ニアラザルベク、從ツテ斯カル役人ノ養育方法ハ普通ノ場合トハ全ク異ラザルヲ得ザルナルベシ。

其ノ外役所のノ實行殊ニ穀物購買ニハ著シキ困難ヲ伴フモノニシテ此ノ困難タルヤ戰時中既ニ現ハレシ處ノモノナリ。等級及ビ品質ニ依リテ穀物ヲ評價スル爲メ且ツ斯クシテ支拂ハルベキ價格ノ高サヲ定ムル爲メ役人ハ其ノ手中ニ一ツノ標準ヲ有シ居ラザル可カラズ。而シテ此ノ役人ガ主トシテ供給ノ範圍ヲ脱セザル戰時状態ニ於テハ十分ナル程度以上ノ教養ヲ有スルハ敢テ不可能ノ事ニアラザルモ而モソレニモ拘ラズ穀物ノ種類ガ極メテ多様ニシテ之ヲ評價スルニ當リテ此ノモノ、利用ノ目的如何ニ依リテハ全然別個ノ着眼點ヲトリ得ルガ如キ場合ニハ何等カノ生産方面ニ影響ヲ與フルコトナシニハ一定ノ標準ヲ定ムルコト能ハザルナリ。尙專賣制實施ノ場合ハ大抵農民ハ其ノ收穫物ヲ只一ノ役所ニ交付スルニ止リ他ニ收穫物ノ販賣及ビ利用方法ヲ與ヘラザル事ニ留意セザル可カラズ。而シテ又他方此ノ役所ニハ一定ノ買上義務ヲ生ズルヲ以テ生産者ヲシテ生産物ノ品質ヨリ數量ニ多ク意ヲ向ケサシムル結果ヲ生ズルニ至ル。生産者ハ可及的優良ナル從ツテ又可及的賣レ行キ良キ商品ノ製造ノ心配ヨリ免ガレ他方購買側ニアリテハ商品ヲ再ビ可及的容易ニ且ツ有利ニ賣却スル爲メニ可及的優良ナル商品ヲ購買セントスル競争ガ無クナルニ至ル。

若シモ生産者ガ宛モ專賣中ニ包含サレ專賣ノ間接ノ支持者トナル場合ニハ專賣ニ對スル穀物ノ供給ハ計リ知ルベカラザル程有利ナルモノトナルナリ。其ノ外部的形式ヲ構成スルモノハ生産者團體ニシテコハ其ノ組織的理由ヨリシテ強制的ニ總テノ穀物生産者ヲ包括セザル可カラズ。而シテ此ノ生産者團ハ恐ラク多數ノ地方ニ可成擴ガレル農業組合組織ニ由ルヲ以テ合理的ト爲スベク且ツ之ニ依リテ全專賣範圍ハ斯カル組合ニ分タル、ニ至ルベシ。之ニ依リテ專賣ハ合理的組織體ニ於テハ吾人ノ屢屢

見ル處ナルモ、全收穫ガ生産者自體ニ依リテ消費サレザル以上其ノ實行困難ニシテ且ツ專賣ヲ財政的ニ困窮セシムル監督制ニ依ラズシテ全收穫ノ交付ヲ受クルト云フ特質ヲ帶ブルニ至ルベシ。生産者自體ノ收穫物ノ販賣及ビ評價ハ只當局ノ專賣ニ或ハ組合機關ノ共同作業ノ下ニノミ起ルガ故ニ從來購買ガ先ツ生産ニ對シテ行ヒシ競争ハ直接生産ノ側ニ置キ換ヘラル、ニ至ルベシ。收穫物ノ維持及ビ貯蓄ノ心配ヨリ脱スルコトニ依リ或ハ組合所屬ノ倉庫ヲ建設スル事ニ依リ及ビ此ノモノヲ全生産區域ニ系統的ニ分配スルコトニ依リ專賣ノ業務遂行モ亦完全ニ分割サレ且ツ同時ニ統一セラレ其ノ結果專賣管理當局ノ行爲ハ單ニ倉庫ヨリ商品ヲ召致スルコト及ビ消費者ヘ供給スルコトニ限ラル、ニ至ルベシ。

技術的實行特ニ又專賣ノ社會的ノ目的ハ專賣ハ最終ノ消費者ニ至ルマデ即チ穀粉ノ形ニ於テモ尙商品ヲ監視セザルベカラザルコトヲ要求スルモノナリ。之價格ニ及ボス形成的影響特ニ商品ノ不必要ナル騰貴ノ防禦ハ只此ノ方法ニ依リテノミ可能ナルガ故ナリ。著シキ數量——數量ガ問題ナリ——ノ場合ニハ商業ニ依リテ行ハレタルガ如ク消費者ニ對スル特種ナル取扱ハ不可能ナルヲ以テ仕事ノ實行ヲ容易ニシテ且ツ公平ナラシメンガ爲メニ消費ノ供給ノ中ニ或一致均齊ガ入り來ラザル可カラズ。且ツ又此ノ場合要求ヲ滿シ且ツ疑モナク速ニ消費ガ之ニ慣レ得ベキ改造ハ大略比較的低廉ナル小麥及ビ「ライ」麥ノ穀粉ノ製造ニ依リテ爲サル、ヲ得ベシ。而シテ此ノ穀粉ハ其ノ組織及ビ其ノ性質ノ點ニテハ全

經濟區域ニ對シテ統一的ノモノニ非ズシテ經濟區域ノ個々ノ部分ニ對シテ生産區域ニ對スル其ノ位置及ビ此ノ區域ニ時々培養セラルベキ種類ニ依リ本質的ニ規定サルベキモノト爲シ從來既ニ大製粉所ガ所謂登録商品トシテ産出セシ如キ形成ニ於テ幾分高價ナル優良穀粉ニ準ゼシムルモノトス。

之ニ依リテ專賣ハ獨逸ノ製粉工業ノ位置及ビ全發達ニ變革的影響ヲ及ボスモノナリ。穀物ヲ此ノ自由ナル加工及ビ利用ニ委ヌル事ハ專賣ノ目的トハ一致セザル處ナリ。製粉業ハ十年以來手工業的經營ヨリ工業的ニ而シテ又大工業的經營ニ發達スベキ道程ニアルヲ以テ從ツテ又賃銀的製粉業ヨリ商業的製粉業ニ推移スベキ經過中ニアリ。後者ハ少クトモ問題ガ國內市場ノ供給ニアル限りニ於テハ專賣制ニ依リ再ビ排除サル、モノニシテ此ノ代リニ戰時經濟的規定ヲ伴フ專賣ノ爲メノ對價的、有價的製粉業現ハルベシ。此ノ狀態ノ下ニアリテハ今後工業的製粉所設置ノ爲メニ個人的資本ヲ得ルハ不可能ナルベク從ツテ之ニ依リ專賣局自體ガ新ナル製粉所設置ニ關與セザル以上發達ハ停止スルニ至ルベシ。戰時經濟中小規模及ビ中規模經營ノモノハ大規模經營ノモノニ比シテ如何ニ不經濟的ニ作業セルカ、特ニ明瞭トナリ、此ノ結果小規模ノモノ、經營ヲ維持シ他方大規模經營ノモノニハ相當ナル利益ヲ保證シ得ンガ爲メ製粉賃銀ニ等級ヲ附スルヲ必要トシタルガ如キ事情ナルヲ以テ尙更專賣ノ實施ニ當リテハ大規模製粉所即チ一般ニ全製粉營業ノ技術的完成ノ必要ノ益々切ナルモノアルヲ見ルナリ。製粉業ヲ取引專賣ニ依リテ換置セシムベキ一般ノ形勢ハ財政的理由ニ基キ時代ト共ニ必然的ニ總テノ

經營ノ國有ヲ招來スルニ至ルベシ、

(六) 穀物價格經濟政策的及社會政策的價格

穀物專賣ヲ實施スルニ當リテハ價格形成ノ問題ハ根本的ノ意義ヲ有ス。自由交易ノ場合ニ於テハ價格決定ハ供給及ビ需要ノ相互的作用ニ依リテ決定セラル。交通技術ノ異常ナル發達ヲ爲セル場合ニハ地方的關係ハ可成リ除外セラレ、方向ハ世界の供給及ビ世界の需要ニ依リテ決定セラル、ナリ。需要ノ何レカノ方面ニ及ボス偶然的及ビ人爲的作用ニ依リテ市場狀態ニ影響ヲ與ヘ從ツテ一時的ニ價格ノ變動ヲ生ゼシメ得ルモ而モ實際的ニハ此ノ變動ハ確固タル基礎ヲ有スルモノニ非ズ。

穀物專賣ノ實施ノ場合ニハ獨逸ニトツテ需要ガ一手ニ集中スル結果需要側ニ於ケル競争ハ除去セラレ從ツテ收穫物ノ取引ニ對シテ幾何ノ價格ヲ支拂フベキカハ專賣局ノ判斷ニアルニ至ル。

而レドモ此ノ場合農産物ノ僅カ一部分ノ、即チ此ノ場合ニ於テハ穀物ノ價格關係ヘノ干涉ハ全生産ノ方向ニ影響ヲ及ボストアルベキヲ顧慮セザル可カラズ。故ニ示サレタル價格ハ常ニ自由市場ガ總テノ其ノ他ノ農業生産物ニ對シテ規定セル價格ト一定ノ關係ヲ有セザル可カラズ。他方ニ於テ一ツノ而モ最モ本質的ナル一ツノ農産物ニ對スル價格政策ニ依リテ生産上ノミナラズ又其ノ他ノ生産物ノ價格上ニモ亦間接ニ影響ヲ及ボスヲ得ルモノナリ。故ニ若シモ專賣ガ原料生産品トシテ穀物ニ制限セズシテ穀粉及ビ麩ヲモ其ノ中ニ包括スルニ於テハ特ニ此ノ方向ニ於ケル影響ハ容易ニ起リ得ベキモノナリ。

故ニ專賣ハ適當ナル處置ヲ講ズルニ於テハソレニ依リテ異常ナル仕事ヲ創造シ且ツ成シ遂ゲ得ル道具ヲ提供スルモノナリ。而シテ專賣ノ價值モ亦實ニ此ノ點ニ存スルモノニシテ此ノ價值タルヤ國庫の利害ノ眼界ヲ超越スルモノニシテ專賣ニ社會的、經濟的意味ヲ與ヘ其ノ實施ヲ合目的ナラシメ且ツ國民及ビ國家經濟的見地ヨリシテ專賣是認ノ基礎ヲ與フルモノナリ。

穀物專賣ノ意義ノ正シキ且ツ完全ナル了解ハ之ニ伴フ價格政策ニ對スル道標ナリ。外國穀物ハ只專賣制ヲ通ジテノミ消費ニ導カル、ガ故ニ專賣ハ一般ニハ國內生産トハ何等ノ關係ナキ且ツ國內需要トモ殆ンド關係ナキ價格決定ノ法則ニ從フ世界市場價格トハ獨立ニ且ツ無關係ニ一定ノ方向ニ活動シ得ベク、獨逸ニ於ケル穀物耕作ヲ消費者ノ利益ノ許ス程度ニ於テ保護シ且ツ獎勵スルヲ得ベシ。

此ノ限リニ於テ專賣ハ從來ノ穀物保護關稅ニ最モ完全ニ代替スルモノナリ。從來ノ穀物保護關稅ハ一般ニ內國的ニハ世界市場價格ニ加重サル、負擔ヲ意味シ其ノ固定的ナルコトノ爲メ此ノ不完全ナル狀態ヲ表示シ之ニ依リテ往々一般者ヲ犠牲ニシ企業家ニ計リ知ル可カラザル利益ヲ齎スモノナリ。生産ニ於ケル時々ノ事情殊ニ生産ノ費用ハ生産者ニ保證サルベキ價格ノ高サニ對シテ標準ヲ與フルモノナリ。

此ノ着眼點ニ依ル穀物價格ノ統制及ビ確定ニ對シテハ以前ヨリ主トシテ二ツノ提案ガ存シタリ。「カニツツ」伯ガ國營穀物專賣ノ設置ニ關スル一八九四年及ビ一八九五年ノ彼ノ動議中ニ提案セル方法即チ

平均生産費ニ基ク長期固定價格ノ方法ハ此ノ目的ニハ合理的ナラザル觀アリ。之ニ依レバ不作或ハ其ノ他ノ不幸ナル結果ニ依リテ個々ノ收穫期ニ現ハルベキ收穫不足ニ對シテハ生産者ハ自己保證或ハ第三者ノ保證ニ依リ自己ヲ保護スルノ止ムナキニ至ルベク斯クテハ企業家ノ大部分ノ堪ヘザル經濟遂行上ノ混亂ヲ惹起スベシ。其ノ他價格ノ高サノ中ニハ損害保險料ガ含マレザル可カラズ。而シテ損害保險料ハ經驗上常ニ高率ノモノニシテ且ツ其ノ價格ハ將來起ルコトアルベキ事實上ノ損害除去額ヨリ多額ナルヲ要ス。

之ニ反シテ「カニツツ」伯ガ提議ヲ國會ニ提出セシ時ト略々同時代ニ佛蘭西ノ議院ニ提出サレシ穀物專賣動議ノ基礎ヲ作りシ提案ハ卓越セル點ヲ有セリ。此ノ案ニ依レバ年々價格ハ收穫不足及ビ生産費ヲ基礎トシ法律ニ依リテ確定サルベキモノトセリ。ソレ自體理想的解決ヲ表示セル所ノ此ノ提案ニ反對セシ議會ノ見解ハ毎年ノ穀物價格ハ更ニ黨派の政争ノ機會ヲ作り其ノ結果穀物價格ハ結局事實上ノ經濟的關係ニ依ラズシテ反ツテ議會ノ時折ノ構成及ビ個々ノ黨派ノ勢力ニ依リテ定メラルベシト言フニアリキ。

此ノ意味ニ於ケル完全ナル解決ニ近ヅカンガ爲メニハ一般の經濟狀態ニ依リテ定メラルベキ長キ期間ヲ限リテ單位面積ノ土地ガ穀物ノ耕作ノ場合及ビ最モ集約的耕作ノ場合ニ毎年齎スベキ貨幣收益ヲ確定スルヲ以テ十分ニシテ毎年法律ニ依リテ穀物價格ヲ決定スルハ全然必要ナキ事ナラン。此ノ收益額

確定ノ爲メニハ人ハ全經濟狀態ニ相應スル收益額ハ之ニ穀物ヲ栽培スル事ガ全經濟的利害關係ニ於テ眞ニ尙ホ價值アリト思ハル、ガ如キ質ノ土地ノ耕作費ニ等シカラザルベカラズト言フ理論ヨリ出發シ得ベシ。國家ノ收穫調査ヲ基トセバ專賣ニ依リ保證サルベキ穀物價格ノ高サハ自ラ決定セラレ得ベシ。此ノ價格ハ實ニ收穫減少其ノモノガ全然地方ニ依リテ異ナルト同様ニ全經濟區域ニ對シテ平均的ニ確定サレズシテ反ツテ往々分離的ニ個々ノヨリ大ナル收穫區域ニ對シテ確定セラル、トキ最モ合理的ナルベシ。斯カル場合ハ經驗上收穫區域ノ北方ト南方トガ相異ル場合ニ於テ屢々起ル所ナルベシ。價格ヲ斯クノ如ク確定スル場合ニハ農業的經營ニ對スル經濟條件ハ確實ニ農夫ニ收穫ヲ保證スベキ根底ノ上ニ置カルベシ。殊ニ作物ガ地方的氣象關係ニ對シテモ亦電氣保險ノ助ケニ依リ保護セラル、場合ニハ特ニ然リトス。經驗上農業ノ場合ニ於テハ他ノ企業ノ場合ヨリ比較ニナラザル程大ナル生産者ニ對スル各危険ヲ之ニ依リテ除去シ得タル場合ニ於テハ全危険ガ生産者ノ双肩ニ繋リ從ツテ著シキ保險料ガ價格ノ中ニ含マレザル可カラザル穀物保護關稅ノ場合トハ異ナル價格標準ガ生ズルナルベシ。然レドモ理論ヲ實際ニ應用スルニ當リテハ正道ヲ選ビ而シテ常ニ危険ノ一部分ハ生産者ノ双肩ノ上ニ置キ以テ生産者ノ利益ヲ増加セシメ出來得ル限り不幸ナル影響ヨリ回避セシムルカ或ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ補償スルヲ合理的ナリトス。

之ニ依リテ專賣ハ同時ニ不作ノ場合ニ於ケル農業保險ノ性質ヲ幾分有スルニ至ルベシ。不作ニ依リテ

生ズベキ保險額ヲ直接及ビ間接ニ消費者ニ及ボサシメザランガ爲メニハ毎年ノ收穫販賣價格ノ高サニ從ツテ等級ヲ附セラレシ穀物ヲ保險設備トシテ蒐集シ以テ消費者ガ非常ニ煩ハシク穀物價格ノ動搖ヲ若干平均セシムベキ事ガ合理的ナルベシ。

穀粉並ニ麩——此等ニ付テ初メテ自由取引行ハル、ヲ以テ——ニ對スル消費者價格ハ收穫物ノ全販賣價格、收穫減少ニ從ヒ消費者ニ對スル全販賣價格ノ騰落ニ作用スル保險額、經營費ヲ生産者團(組合)ニ割リ當テズ從ツテ販賣價格ニ影響ヲ與ヘザル様ニスル以上此ノ費用ヲ支出スベキ專賣稅及ビ加工賃銀(製粉賃)ヨリ構成セラル、ガ故ニ消費者價格ハ個々ノ地方ニ於ケル收穫減少及ビ減收ニ依リテ相異ヲ生ズベキ個々ノ地方ニ於ケル穀物販賣價格トハ自ラ何等ノ關係ヲ有セザルベシ。而シテ同様ニ全帝國ニ對スル統一的消費價格ハ帝國ノ個々ノ地方ニ於ケル相異セル經濟條件ニ適合スルモノニ非ズシテ寧ロ個々ノ供給區域ノ性狀ニ依リ而シテ又第一ニ他ノ食料品ノ價格ヲモ定ムベキ農業地區ニ對スル位置及ビ運賃ニ依リテ規定サル、消費者價格ニ差異ノ存スルガ當然ノ事ナルナリ。

平均消費者價格ノ高サノ計算特ニ大戰以前ノ自由交易ニ於ケル價格トノ比較ハ極メテ困難ナルベシ。外國及ビ內國ノ穀物價格ノ相異ヨリ生ズル差引利益及ビ人間ノ直接ノ營養ノ爲メニ將來消費サルベキ約一億四千萬「ドツベルツェントナー」ノ穀物ヲ除キ專賣ニ依リテ約五億「マルク」ノ豫定總收益ヲ得ンガ爲メニハ百疋ヨリ成ル「ドツベルツェントナー」ノ穀物ニ對シ三、五「マルク」ノ附加稅ヲ必要トス

ベシ。保險額ハ價格ノ騰貴ニ著シキ影響ヲ及ボサルベシ。之保險額ハ平作ノ場合ニハ最低ニ見積ラレ且ツ豐作年度ニ於テ販賣價格ガ比較的低廉ナル場合ニ意義ヲ生ジ他方豐年度ニ蒐集サレタル豫備ハ凶作及ビ販賣價格ノ騰貴セル場合ニ凶作ノ場合ノ消費者價格ヲ調節スルヲ得ルガ故ナレバナリ。加工賃銀ハ最初ハ製粉業ノ經營ガ純利益ヲ齎ラス助ケトナル程度マデ漸次大工業化サレ且ツ部分的ニ國家化サレタル以後ニ於ケルヨリモヨリ著シキ額ニ達スベシ。

專賣ノ全構造ヨリ見テ吾人ハ次ノ如キ結論ヲ得ベシ即チ專賣附加稅ハ消費者價格ガ專賣制下ニアリテハ自由交易ノ場合ニ於ケル一般の價格ヨリモ附加稅額ダケ高キガ如キ影響ヲ決シテ價格ニ與フルモノニ非ズト。消費及ビ農業特ニ製粉業ハ總テ專賣ノ効果ニ裨益スル所アラザルベカラズ。然シ他方之等總テハ專賣ニ依リ自由競争下ニ於ケル價格ニ對スル負擔ヲ平均スルト云フ利益ヲ得ベシ。

消費者ハ適當ニシテ常ニ同一ニ止マレル一度ノ價格ノ引上ニモマシテ價格ノ不斷ノ變動ヲ感ズルコト強キモノナルモ而モ消費者價格即チ穀粉及ビ「パン」ノ價格ノ騰貴ノ場合ニハ常ニ穀物價格ハ追隨シ行クモ他方後者ノ下落ノ場合ニハ之等ノモノ、下落ハ常ニ漸進的ニシテ極メテ弱ク且ツ往々「パン」ノ價格ニアリテハ何等影響ヲ受ケザルガ如キ傾向ヲ特ニ認ムルコトアリ。

他方農民ハ從來不作及ビ價格下落ノ場合ニ於テハ常ニ覺悟ヲシ且ツ其ノ爲メニ各個人ガ經濟區域全體ヲ爲メニ爲サル、額ヨリモ相對的ニハヨリ大ナル豫備品ヲ貯ヘザルベカラザリシ損害ニ對シテ保護セ

ラルルニ至ル。之ニ依リテ從來生産品價格ノ中ニ必然的ニ含まレシ保險料ハ殆ンド不必要ナルカ或ハ保護關稅ニ依リテ作ラルベキ價格水準ニ對スル其ノ下落ヲ立證スル程度ニ減少スベシ。農民ニハ自己保險ハ斯カルモノトシテ全々自覺サレ居ラザリシガ故此ノ自己保險ニ依リテ生ズベキ利得ヲ彼レガ得ル能ハザリシ場合ニハ彼ハ最初ハ極メテ其レヲ不快トスベシ。何故ナレバ彼ハ習慣上豊富ナル收穫及ビ高キ價格ヲ神ヨリ授カリシ賜ナリト思惟シ之ガ再ビ來リ得ル不作及ビ低廉ナル價格ヲ平均サスニ役立つベキヲ顧慮セザルガ故ナリ。而レドモ農民ノ經濟上ノ頑迷サハ有利ナル結果ヲ享受スルニ至リテ時ト共ニ醒メ斯克テ彼ハ從來ヨリ計畫的ニ彼ノ利益ノ増加ニ向ツテ努力スベキ状態ニ置キ換ヘラレシ自己ヲ見ルニ至ルベシ。

商業專賣施設ノ場合困難ナル立場ニ置カル、モノハ商業界ナリ。國營取引獨占ノ中ニ餘地ト行爲ヲ許スベキ事ハ不可能ニシテ商業ノ性質上取引ノ自由及ビ相互的競争ハ商業ニトリテ効果多キ行爲ヲ形成スベキ本質的ノ要素ナルヲ以テ企業者合同ニ依リテ商業ヲ專賣ノ支持者ト爲サント試ミモ亦無益ノ事ナルベシ。商人合同組合ハ各個人的獨立ガ奪ハレ且ツ其ノ成績ハ賣上高ノ百分率ニ依ル國家的「ビユーロクラシー」ノ他ノ新ナル形式ヲ表示スルニ過ギザルベシ。

第六 諾威ニ於ケル穀物專賣ノ研究

諾威ニ於ケル穀物輸入專賣ハ一九一七年十月ヨリ決定的ニ實施セラレ一九二七年七月一日穀物輸入特許ニ關スル新法律ノ施行迄行ハレシモノナリ。「オットウ、スベルリツヒ」氏ハ「專賣ノ機構及活動」
「成績」專賣問題ト政府」ノ諸項ニ分チ「エルスター」ノ經濟統計年報第百二十六卷ニ於テ諾威ノ穀物專賣ニ關シ大要次ノ如ク論ゼリ。

一 機構及活動

諾威ハ瑞西ト等シク「バン」用穀物ノ供給ハ之ヲ外國ニ仰ゲリ。七十年代ノ終リニ於テハ其ノ自國生産ハ尙ホ總需要ノ約三五乃至四〇%ヲ滿シ得タルニ大戰前ニ於テハ大豐作ノ時ニ於テスラ國內ノ穀作ヲ以テシテハ需要ノ僅カ二〇%ヲ滿シ得ルニ過ギザル状態ナリキ。

如斯諾威ハ瑞西ニモ勝シテ極メテ緊急ナル状態ニアリシニモ不拘瑞西ト異リ穀物輸入專賣ノ要求サルルコト極メテ稀ナリシハ（即チ一八九八年及一九〇一年）兩國ニ於ケル地理、政治及文化的差異ニ因ル處大ナリトス。

諾威ニ於テモ亦世界大戰ノ勃發スルヤ初メテ穀物供給ノ問題ハ世人ノ注目ノ的トナルニ至レリ。即チ一九一四年八月四日國家ハ一ツノ食糧委員會ヲ設立シ且之ニ特別ノ權力ヲ賦與シ爾後事情ノ變遷ニ應ジテ之ヲ擴張セリ。一九一五年八月法律ニヨリ穀物輸入ト輸入量ノ消費トハ國家ノ管理下ニ置カレ又既ニ輸入サレタル穀物ノ差押ト引受ニ關スル規定ノ定メラル、アリ。同年十二月勅令ヲ以テ委員會ヲ招集シ該委員會ハ國內穀物供給ノ確保、穀作ノ振興、穀物及穀粉輸入專賣ノ創立ニ關スル提議ヲ爲シタリ。實際議會及農林省ニハ尙多クノ提議ノ爲サル、アリタルモ政府ハ斷乎トシテ一定ノ決定ヲ爲スニ至ラズ、寧ロ穀物管理ハ現存ノ異常ナル權力ニ基キテ國家ニヨリ續行セラレタリ。一九一六年九月食糧委員會ハ廢セラレ其ノ職能ハ新ニ設ケラレタル食糧管理部ニ移レリ。一九一七年經濟事情ノ逼迫スルヤ之ニ對應スル規則ノ制定サル、アリ。同年五月總括的ナル全權委任法布告サレ之ニ基キ十月先ノ穀物及穀粉專賣ハ終局的ノ實施ヲ見ルニ至レリ。

多量ノ國內穀物ノ交付ヲ得ルベク、國家ハ既ニ一九一五年諾威穀物ノ申込量ヲ引受クル義務ヲ負ヒ且農民ニ一定ノ價格ヲ約束セリ。穀物專賣ノ實施ト共ニ引受ニ關スル規定ハヨリ確固タル基礎トヨリ廣汎ナル擴張トヲ見出シタリ。

一九一七年七月戰時食糧局ハ價格決定ノ唯一ノ權能ヲ賦與サレ斯克テ今ヤ事態ノ全統制ハ中央官廳ノ手中ニ歸スルニ至レリ。

一九一七年ノ二月迄ハ國內穀物ノ引渡ハ多少自發的ニ行ハレ居タルモ一九一七年產及次年度產ノ穀物ニ付キテハ國家ヘノ強制的引渡命ゼラル、ニ至レリ。十一月ニハ穀物及穀粉貯藏品ノ差押ヘ行ハレタルモ之ヨリ先キ國家ノ輸入、專賣ノ範圍ハ殆ンド凡テノ穀物及穀粉製品ニ及ビタリ。次ノ年ノ六月飼料ノ專賣品ト爲サル、アリ。

之以上ノ事實ニ亘ルハ此ノ際之ヲ避クベキモ大戰ノ終熄ト共ニ強制規定ノ大半ハ漸次消滅セルモ「パン」用穀物及穀粉ノ輸入專賣ハ残り其ノ存續ハ政府ノ物議ニヨリ永續的ニ確保サレタリ。

一九二〇年十月末戰時食糧局ハ廢止サレ其ノ仕事ハ農林省ト社會省トニ依リテ繼受サル、ニ至レル限リニ於テ形式的ナル變遷アリタリ。即チ今ヤ價格統制ハ社會省ニ屬シ其他ノ凡テノ事務ハ農林省ト特ニ其ノ爲ニ設立サレタル食糧部ノ事務トセララル、ニ至レリ。

「パン」用穀物及穀粉(小麥、黑麥、大麥、食糧製品)ノ買上及輸入ハ國家ノミニ許サレタル處ニシテ其ノ權限ハ農林省ニ屬シ國內穀物ノ引受自體ハ議會之ヲ決定ス。

引受價格ハ形式的ニハ農林省ニ依リ提案サル、モ實質上ハ農林省ノ確定スル處ナリ。

輸入外國產穀物及引受國內產穀物ハ農林省ノ食糧部ノ手ニ依リ磨碎ノ爲私人ノ製粉所ニ供給サレタリ一九一六年十二月以降國家ハ「バスダール」ニ自己ノ製粉所ヲ所有シ居タルモ近キ將來ニ於テコレヲ改良シ近代化セント企テ居レリ。製粉所ハ隨意契約ニヨリ一定ノ價格ヲ以テ引受ケ相當代價ト引換ニ貯

ノシ之ヲ磨碎ス。

食糧製品ハ製粉所ニヨリ消費者ニ販賣サレ而モ自己ノ計算ト危険トニ於テ販賣サル。此ノ際製粉卸賣業ニ對スル保險料ハ國家之ヲ支拂フ。輸入食糧品ハ一部ハ國家ノ製粉所、一部ハ公共團體及ビ其ノ他ノ組織ニ依リ又若干ノ場合ニ於テハ私商人ニ依リテモ亦消費者ニ供給サル。全商業的製粉所ノ契約上ノ結合ノ結果殆ンド專賣(國家化)ニ近キ一ツノ製粉所經營形式ノ發生セルアリ。

輸入穀物ニ支拂フ價格ハ所與ノ價值トス。國內ノ州ノ小麥黑麥、及大麥ノ引受價格ハ既述ノ如ク農林省之ヲ決定ス一般ニコノ引受價格ノ根本要素ハ輸入品ノ價值ニシテ之ニ加フルニ適當ナル割増(割増價格及費用)ヲ以テス。終局價格ハ食糧省ノ製粉所製品ノ販賣價格ニ相當スルナリ。標準價格ハ瑞西同様只良好ニシテ純粹ナル商品ニ對シテノミ之ヲ支拂ヒ品質不良ナルモノニ對シテハ相當額ノ割引ヲ爲ス。穀粒及製粉所製品ノ販賣價格ハ國家(食糧管理部長)ガ凡テノ臨時費用ヲ顧慮シテ之ヲ決定シコハ全國ヲ通ジテ統一のニ適用サル、モノトス。價格決定ハ專賣規則ニ依リ世界市場ノヨリ大ナル變動ニ相應シテ行ハル、モ只必要ニシテ且望マシキ限りニ於テノミ若干ノ修正ヲ行フモノトセリ。原則上國家ハ收支相償フベキモノトセリ。故ニ食糧管理部長ハ販賣價格ノ規定ニ際シ強大ナル自由裁量ノ權限ヲ有セザルナリ。

二 成績

(一) 栽培面積及收穫高

「バン」用穀物ノ栽培面積ノ最近ニ於ケル變遷次ノ如シ。

年 度	栽 培 面 積 (單位ヘクタール)	
	小 麥	「ライ」麥
一九〇九—一三	五、〇二一	一五、〇五五
一九一四	五、〇二四	一五、一六三
一九一五	五、五〇七	一九、五〇八
一九一六	五、五二六	一九、七二三
一九一七	八、七二〇	一〇、八三三
一九一八	一六、五六六	一四、八三七
一九一九	一六、五八六	一四、八三六
一九二〇	一六、三七〇	一四、七〇六
一九二一	一六、四〇一	一四、七一五
一九二二	一〇、〇〇七	一一、〇二六
一九二三	一〇、三六九	一〇、九九六

一九二四	八、六四六	一〇、二七二	五五、一三三
一九二五	八、九二四	八、九五六	五六、二一一

一九〇九—一三三年ニ對スル栽培面積ノ變遷(一九〇九—一三三||一〇〇)

年 度	小 麥	「ライ」麥	大 麥
一九〇九—一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一五	一一〇	一三〇	一一〇
一九一六	一一〇	一三一	一一一
一九一七	一七四	七二	一三二
一九一八	三三〇	九八	一七六
一九一九	三三〇	九八	一七六
一九二〇	三二六	九八	一七五
一九二一	三二七	九八	一七五
一九二二	一九九	八〇	一四九
一九二三	二〇六	七三	一四〇
一九二四	一七二	六八	一五三
一九二五	一七八	五九	一五六

小麥ノ栽培面積ハ戰前(戰前最新ノ調査ハ一九〇七年ナリ)ニ比シテ一九二五年ニハ約七八%、大麥

ノソレハ約五六%ノ増加ヲ示セルモ黑麥ノ栽培面積ハ四一%ノ減退ヲ示セリ。

一九一八—一九一九年ノ頂點タリシ時ニ比シテ穀物ノ總栽培面積ハ著シキ減少ヲ爲セルモ、コノ状態タルヤ異常ナル事情ノ漸次剝落スルニ從ヒテ生ゼルモノナルヲ以テ總體的觀察上ハサシテ重要ナルモノニ非サルナリ。

收穫高ノ比較次ノ如シ

一九〇九—一三—一九二五年ノ諾威ノ「バン」用穀物收穫高 (in lbs)

年 度	小 麥		「ライ」麥		大 麥	
	總 額	ヘクタール當	總 額	ヘクタール當	總 額	ヘクタール當
一九〇九—一三	八三二九六	一六・六	二四七一八六	一六・四	六五六六八	一八・三
一九一四	七三一八八	一四・六	二六五五二〇	一七・五	五六四一七八	一五・六
一九一五	七七三六〇	一四・〇	二一〇四五五	一〇・八	六一四二八五	一五・六
一九一六	八六〇六三	一五・六	二三九一五六	一二・一	七八二一五六	一九・七
一九一七	一一七三三四	一三・四	二九四三二七	一八・〇	八七五三四四	一八・五
一九一八	二九五八三八	一七・九	二五七〇〇八	一七・三	一二二四〇二五	一九・四
一九一九	二九一五〇五	一七・六	二四九五八三	一六・八	一一四八三七六	一八・二
一九二〇	二七一九三〇	一六・六	二四六四六二	一六・八	一一七一七六八	一八・六

年 度	小 麥	「ライ」麥	大 麥
一九〇九—一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四	八八	一〇七	八六
一九一五	九三	八五	九三
一九一六	一〇三	九七	一一九
一九一七	一四一	一一九	一三三
一九一八	三五五	一〇四	一八六
一九一九	三五〇	一〇一	一七五
一九二〇	二二六	一〇〇	一七八
一九二一	三一七	一〇七	一四二
一九二二	二一〇	八九	一四九
一九二三	一九二	七六	一〇九
一九二一—二五年ニ對スル收穫高ノ變遷(一九〇九—一三—一〇〇)			
一九二一	二六四四五二	一六・一	二六四八四二
一九二二	一七五〇三九	一七・五	二一八九二八
一九二三	一五九七五六	一五・四	一八八四七四
一九二四	一三四二五六	一五・五	一六一七二八
一九二五	一三三四五三	一五・〇	一五五八七六
一九〇九—一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四	八八	一〇七	八六
一九一五	九三	八五	九三
一九一六	一〇三	九七	一一九
一九一七	一四一	一一九	一三三
一九一八	三五五	一〇四	一八六
一九一九	三五〇	一〇一	一七五
一九二〇	二二六	一〇〇	一七八
一九二一	三一七	一〇七	一四二
一九二二	二一〇	八九	一四九
一九二三	一九二	七六	一〇九

一九二四	一六一	六五	一五六
一九二五	一六〇	六三	一七二

小麥及大麥ノ栽培面積ノ擴張ニ應ジテ兩者ノ總收穫高ハ戰前ニ比シテ増加セリ。而モ一九二五年ニ就キテ見ルニ小麥ニ付テハ約六〇%、大麥ニ於テハ約七二%ノ増加ヲ示セリ。

「ライ」麥ノ收穫高ハ約三七%ノ減退ヲ爲シ居レリ。一九二一年乃至二五年ノ平均ハ小麥ニ付キテハ約一一〇%ノ騰貴ヲ示シ大麥ニ付キテハ四五%ノ騰貴、「ライ」麥ニ付キテハ二〇%ノ減退ヲ示セリ。是等三種ノ穀物ヲ綜括シテ見ルニ其ノ栽培面積ノ増加ハ戰前ノ一九〇九年乃至一三年ニ比シテ一九二五年ニハ約三二%、一九二一年乃至二五年間ニハ約三九%ニシテ國內收穫高ノ増加ハ一九二五年ニハ約四三%、一九二一乃至二五年間ニハ約三四%ナリ。

諾威ニ於ケルニ、三ノ山間地方ニ於テハ燕麥モ亦人ノ食物ニ供セラル、ヲ以テ吾人ハ燕麥ヲ全然無視スルヲ得ザルナリ。

燕麥ノ耕作面積ハ戰前五箇年平均(一九〇九乃至一三年)ニ於テハ一〇六、二七九「ヘクタール」ニシテ戰後五箇年平均(一九二一乃至二五年)ニ於テハ一一〇、八三〇「ヘクタール」ナリ。比較數ニテ示セバ兩期間ノ割合ハ一〇〇對一〇四タリ。一九二三乃至二五年ノ栽培面積ハ確ニ一九〇九乃至一三年間ノ平均栽培面積以下ナリキ。統計ニ依ルニ一九〇九年乃至一三年間ノ平均收穫高ハ一、七三三、〇〇

八ニシテ一九二一年乃至二五年間ノソレハ一、六五五、五五四dzニシテ之ヲ比較數ニテ示スニ兩者ノ割合ハ一〇〇對九五タリ。

燕麥ヲモ含メテ計算センカ全表ニ次ノ如キ變化ヲ生ズベシ。即チ是等四種ノ穀物ノ栽培面積ハ約一六%方増加シ收穫高ハ九%方ノ増加ヲ示スニ至ル。コノ見地ヨリ之ヲ觀スルニ栽培面積ノ擴張ハ同期間内ニ一%ノ増加ヲ爲セル人口増加ヲ超過セルモ收穫高ノ増加ハ人口増加率ニ達セザルナリ。

(二) 輸入

統計ノ示ス輸入狀態次ノ如シ。

年 度	小 麥	小 麥 粉	「ライ」麥	「ライ」麥 粉
一九〇九—一三	二〇七、八三〇	五四三三九一	一九七五三三三	四二〇—二三
一九一四	五〇二、五〇七	七二三〇二〇	一四八三二九四	三三九一六五
一九一五	六九三、二五五	六九二、〇〇五	一七〇四六六三	一七三九六六
一九一六	七三五七〇四	九一三五六二	一七二九三七七	七七—五一
一九一七	七一九九五五	五二七一九二	一二〇〇三〇七	五四七四四
一九一八	七七二五二四	二八〇八四三	二九〇二四五	二八九三二〇
一九一九	一四〇〇六六五	四四二五六四	一一八三二二二	二二七〇六〇
一九二〇	一〇四九七九七	三六七六〇七	一六九〇六七六	二五四五六五

一九一三—一九二五年間ノ「パン」用穀物及穀粉輸入狀態(ton)

一九二一	七四六三二〇	二九〇七九九	一一六〇一三〇	五九五
一九二二	九八〇八六五	三九八四五—	一六三四九七一	二一
一九二三	八〇〇五三八	五六九六〇八	一八八二六五八	一六七
一九二四	九九三一八〇	五八〇一三三	二二五四一〇四	七
一九二五	八二五六三〇	五二二二九〇	一九〇四五三〇	一

一九〇九—一三年ニ對スル輸入ノ變遷(一九〇九—一三—一〇〇)

年 度	小 麥	小 麥 粉	「ライ」麥	「ライ」麥 粉
一九〇九—一三	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一九二〇	五〇五	六八	八六	六一
一九二一	三五九	五三	五九	—
一九二二	四七二	七三	八三	—
一九二三	三八五	一〇五	九五	—
一九二四	四七八	一〇七	一一四	—
一九二五	三九七	九六	九七	—

之等穀物ノ輸出入量ハ尠少ニシテ輸入量ノ比ニ非ズ。小麥ノ輸入ハ所與ノ材料ニ依ルニ著シキ増加ヲ示セリ。コノ増加率ハ一九二一年乃至二五年ノ平均輸入量ヲ比較ニトランカ約三一八%トナル。此ノ現象ノ原因ハ諾威ノ生活標準ガ變化シ穀物ノ一般消費ハ減退セルニ小麥ノ消費ハ激増セルニアリ。小麥粉ノ輸入ハ戰前ノ狀態ハ別トシテ一九一七年以後ハ常ニ戰前ノ輸入量(一九〇九年乃至一三年ノ平均)

以下ニアリ。但シ一九二三年及一九二四年ハ之ガ例外ヲ爲ス。

一九〇九乃至一三年間ノ平均ト一九二一乃至二五年間ノソレトヲ比較スルニ一三%ノ輸入減退ヲ示セリ。「ライ」麥粉ハ一九二一年以後ハ最早ヤ云フニ足ル輸入量ナク寧ロ若干ノ輸出超過ヲ示シ一九二一乃至二五年間ノ平均約六、五〇〇dzヲ算セリ。勿論相競合セル他ノ原因ノアリト雖モ、穀粉輸入ノ減退ノ原因ハ大部分之ヲ國家ノ管理ニ歸スベキモノナリ。「ライ」麥輸入ニ就テ戰前、戰後ノ各五箇年ヲ比較センカ約一〇%ノ減少ヲ示スモ、輸入ハ最近ノ年ニ於テ再ビ相對的ニ上騰ノ傾向ヲ示シツ、アリ。自國消費ノ素材ヲ提供スルモノハ收穫高ト純輸入ナリ。諾威ニ就テ此處ニ爲セルコノ研究ノ結果ハ人口ノ變動トハ無關係ニ約六、七%ノ減退ヲ示セリ。人口變動ヲ考慮センカ其ノ結果ハヨリ不利ト爲ルベシ。大麥及燕麥ヲ除外セバ消費ノ減退ハ約三%ニ減ズルモ之等ヲ完全ニ除外スルハ無制限ニ加算スルト同様不當タルベシ。從テ「パン」用穀物ノ自國消費ノ減少歩合ハ大略六%ナリト云ヒ得ベシ。

(三) 價格變動

栽培ニトリテ根本的ノ意味ヲ有スル穀物價格ノ變動狀態次ノ如シ。

小麥、「ライ」麥及大麥ノ市場價格 (in Kr, Per 100kg)

年 度	小 麥	「ライ」麥	大 麥
一九〇六—一〇	一六、九九	一四、八二	一四、〇二
一九一四	一九、二〇	一六、四九	一六、一八
一九一五	—	二二、九八	二一、三二
一九一六	—	二六、六六	二四、〇〇
一九一七	—	三七、八四	三四、六四
一九一八	—	五六、六三	四八、一〇
一九一九	五〇、九一	五六、三二	四七、七四
一九二〇	五八、七五	五八、七五	四八、二五
一九二一	五八、九八	五三、四七	四四、三〇
一九二二	四四、〇四	三九、七三	三四、八五
一九二三	三六、四八	三二、二七	三〇、〇〇
一九二四	四〇、二一	三五、三八	三五、〇六
一九二五	四四、七二	三八、三〇	三六、〇三

一九〇六—一〇年ニ對スル變遷(一九〇六—一〇—一〇〇)

年 度	小 麥	「ライ」麥	大 麥
一九〇六—一〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四	一一二	一一三	一一五
一九一五	—	一五五	一五三
一九一六	—	一八〇	一七一
一九一七	—	二五五	二四七

第六 諾威ニ於ケル穀物專賣ノ研究

年 度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
一九一八	一											
一九一九	三〇〇	三八二	三四三									
一九二〇	三四六	三九〇	三四〇									
一九二一	三四七	三九六	三四四									
一九二二	二五九	二六八	二四九									
一九二三	二一五	二一八	二二四									
一九二四	二三七	二三九	二五〇									
一九二五	二六三	二五八	二五七									

諾威ニ於テモ瑞西ト同様ナル關係ヲ求メ得ベシ。

即チ二、三ノ年ヲ除外セバ價格低落ノ際ニ於テハ程度ノ差コソアレ栽培面積ノ減少著シキモノアリ。之ヲ「アメリカ」ニ於ケル小麥及「ライ」麥價格ト對比シテ見ルニ瑞西ニ於テ觀察シ得タルト同様ノ變動ヲ見ル。諾威ニ於ケル價格ハ「アメリカ」市場ノ變動ニ直チニ追隨セルモノニアラズシテ其ノ價格構成ハ只歩一步ト生ゼシナリ。

而レドモ他方諾威ノ價格曲線ハ戰時中「アメリカ」ニ於ケルガ如キ不安ナル經過ヲ示スモノニ非ザルナリ。

諾威及合衆國ニ於ケル小麥及「ライ」麥ノ價格

小 麥

年 度	諾 威 (in Kr Pro 160kg)		合衆國(市俄古) (in Cts Pro bushel)	
	一	二	一	二
一九一三	一七八一	一九一三=一〇〇	九〇	一九一三=一〇〇
一九一四	一	一	一	一
一九二〇	五八・七五	三三〇	二六五	二九四
一九二二	五八・九八	三三一	一四一	一五七
一九二三	四四・〇四	二四七	一一一	一三四
一九二四	三六・四八	二〇五	一一二	一二四
一九二五	四〇・二一	二二六	一二五	一三九
	四四・七二	二五一	一六六	一八四

「ライ」麥

年 度	諾 威 (in Kr Pro 100kg)		合衆國(ミネアポリス) (in Cts Pro bushel)	
	一	二	一	二
一九一三	一四・六八	一九一三=一〇〇	五六	一九一三=一〇〇
一九一四	一	一	一	一
一九二〇	五八・七五	四〇〇	一七九	三二〇
一九二二	五三・四七	三六四	一一四	二〇四
一九二三	三九・七三	二七一	八三	一四八
一九二四	三二・二七	二二〇	六九	一二三

第六 諾威ニ於ケル穀物專賣ノ研究

一九二四	三五・三八	二四一	八五	一五二	二五四
一九二五	三八・三〇	二六一	一〇七	一七〇	

若シ今少シク國際的ノ資料ヲ擴張センカ吾人ハ次ノ如キ表ヲ得ベシ。

諾威及海外諸國ノ穀物價格

年 度	小 麥 (in M je 50 kg)		丁 抹		獨 逸		英 國		合衆國	
	諾威	瑞典	(ノツペン)	(ハーゲン)	(柏林)	(ロンドン)	(紐育)			
一九一三	一〇〇・一	九・一六	七・四九	九・七六	九・四二	一〇・二六	一〇・三五	八・〇二		
一九二二	一六・一七	一一・一六	一〇・九二	九・四二	八・二二	九・三一	一〇・〇八			
一九二三	一二・七八	一一・三一	九・六一	八・二二	九・二四	一〇・四一	一一・〇〇			
一九二四	一一・七五	一二・四六	一〇・七六	九・二四	一二・一八	一二・一九	一四・五五			
一九二五	一七・一四	一四・一七	一二・九七	一二・一八	一二・一五	一六・四	一八一			
一九一九年ニ對スル小麥價格ノ變遷一九一三—一〇〇										
一九一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇			
一九二二	一六一	一二二	一四六	九六	一三八	一二九				
一九二三	一二八	一一三	一二八	八四	一二五	一二六				
一九二四	一一七	一三六	一四四	九五	一四〇	一三七				
一九二五	一七一	一五五	一七三	一二五	一六四	一八一				

「ライ」麥 (in M. je 50 kg)

年 度	諾威		瑞典		丁 抹		獨 逸		合衆國	
	(國內平均)	(ノツペン)	(ハーゲン)	(柏林)	(紐育)					
一九一三	八・二五	七・四八	六・三〇	八・一三	五・四五					
一九二二	一一・五九	一	一〇・五一	七・六六	八・三三					
一九二三	一一・二八	八・八二	八・八九	七・一五	六・四四					
一九二四	一〇・三四	一〇・九九	一〇・三六	八・〇八	八・三二					
一九二五	一三・八九	一一・一三	一一・一三	一〇・〇〇	九・九九					
一九一三年ニ對スル「ライ」麥價格ノ變遷(一九一三—一〇〇)										
一九一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇					
一九二二	一八九	一	一六七	九四	一五三					
一九二三	一三七	一一八	一四三	八八	一一八					
一九二四	一二五	一四七	一六四	九九	一五三					
一九二五	一六八	一七五	一七五	一二三	一八三					

諾威ノ小麥價格ハ一九二二年以後ハ比較セル他ノ凡テノ國ヨリモ高シ。唯一九二四年ニ瑞西ガ此ノ例外タルノミ。他ノ凡テノ國ノ相場ニ比シテ諾威ノ爲替相場ノ不利ナルコトハ諾威ノ小麥價格ヲシテ尙ホ事實上成立セル不調和ヲ存續セシムベシ。「ライ」麥ニ付テモ同様ノ結果ヲ確メ得ベシ。然レドモ上

來屢々爲シ來レルガ如キ比較ヨリシテ徹底的ナル結論ヲ抽出スルハ不可ナルベシ。何故ナラバ貨幣ノ對外購買力(爲替相場)ハソノ事實上ノ對內購買力ト一致スルモノニ非ザレバナリ。尙ホ此ノ際吾人ハ諾威ニ於ケル絶對的ニ高キ卸賣指數並ニ其レニヨルニ國內ニ於テハ穀物價格ノ變動ハシカク深刻ニ表現サレ居ラザル生計費調査トヲ考慮セザルベカラズ。而レドモ極メテ慎重ニ事態ヲ考察スルトスモ尙吾人ハコレヲ兩種穀物ノ價種變動ハ或意味ニ於テ、之ヲ瑞西同様通常ノ價格變動ニ干涉セル專賣ノ結果ト爲シ得ベシ。專賣問題ニ關スル公ノ議論ニ於テハ常ニ重大ナル役目ヲ演ジ又將來モ演ズベキ穀粉及「パン」價格ノ諾威ニ於ケル變動狀態次ノ如シ。

諾威ニ於ケル穀粒穀粉及「パン」ノ價格 (in Oere Per Kg)

年 度	小 麥	小 麥 粉	「ライ」麥	「ライ」麥 粉	パン(黒パン)
一九一三	一八	三三	一四	二一	二二
一九一四	一九	三四	一六	二五	二六
一九一五	二九	四四	二七	三九	三五
一九一六	二九	四八	二七	四二	三九
一九一七	四七	七八	四三	七一	六五
一九一八	六〇	九一	五九	八八	一
一九一九	五九	七六	五八	七四	七四

一九二〇	五八	一〇九	五八	八四	八二
一九二一	五八	九九	五三	七二	七四
一九二二	四四	六六	四〇	五二	五六
一九二三	三六	五八	三二	四五	四七
一九二四	四〇	六六	三五	五二	五三
一九二五	四四	七一	三五	五八	五八

一九二三年ニ對スル穀粒穀粉及「パン」價格ノ變遷(一九二二—一〇〇)

年 度	小 麥	小 麥 粉	「ライ」麥	「ライ」麥 粉	黒「パン」
一九一四	一〇七	一〇三	一一二	一一九	一一八
一九一五	一六一	一三三	一八四	一八六	一五九
一九一六	一六五	一四五	一八五	二〇〇	一七七
一九一七	二六三	二三六	二九五	三三八	二九五
一九一八	三三九	二七六	四〇八	四一九	一
一九一九	三三一	二三〇	四〇二	三五二	三三六
一九二〇	三三〇	三三〇	四〇二	四〇〇	三七三
一九二一	三三〇	三〇〇	三六六	三四三	三三六
一九二二	二四七	二〇〇	二七二	二四七	二五四
一九二三	二〇四	一七六	二二〇	二二四	二一四
一九二四	二二五	二〇〇	二四二	二四七	二四一

此ノ結果ハ瑞西ノソレトハ異レリ。瑞西ニ於テハ穀粉及「パン」ノ價格ハ本質的ニ穀物價格ノ變動ノ背
 後ニ隱レ居タリシニ、諾威ニ於テハ穀物價格ノ比較數ハ穀粒價格ノ比較數ニ近似シ且「パン」ノ價格ハ
 「ライ」麥ノ價格ニ密接ニ依存セリ。國民ニ對スル「パン」ノ供給ハ穀物ノ世界市場ニ於ケル變動ヲ共ニ
 考慮シテ規定サレタル價格ニ於テ爲サレタルモ諾威ノ專賣ハ瑞西ノ專賣ノ如ク或ル一定ノ平衡狀態ハ
 之ヲ生ゼシムルコト能ハザリキ。

之ヲ各國ノ穀粉及「パン」ノ價格ト比較スルモ吾人ハ同様ノ結論ヲ正當ニ下シ得ベシ。
 統計的ノ比較ヲ可能ナラシムル爲、此處ニ於テモ亦比較數ヲ使用シ且各國ノ最モ一般的ナル「パン」ノ
 供給地ヲ出發點トシテ選擇セリ。

各國ニ於ケル穀粉及「パン」ノ價格（一九一四、一九二一—一九二五年）
 （各國ノ貨幣單位ヲ比較數ニ換算セリ）（一九一四—一〇〇）

國	小 麥 粉				
	一九一四年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
諾威	一〇〇	三〇〇	二〇〇	一七六	二〇〇
瑞西	一〇〇	一七六	一五二	一四九	一八〇
瑞典	一〇〇	二二九	一六八	一四五	一五五

國	「パン」		「ライ」	
	一九一四年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
丁抹	一〇〇	三五四	一八七	一八七
和蘭	一〇〇	一九〇	一四〇	一三〇
獨逸	一〇〇	—	—	九八
英國	一〇〇	二二七	一五三	一五〇
諾威	一〇〇	三三六	二五四	二二四
瑞西	一〇〇	二〇〇	一六六	一六一
瑞典	一〇〇	二六三	二一〇	一八三
丁抹	一〇〇	二〇七	二〇七	一八九
和蘭	一〇〇	二二一	一八六	一七一
獨逸	一〇〇	—	—	一四三
英國	一〇〇	二二八	一七四	一六一

此ノ研究ノ基礎トセル各年ニ於テ諾威ノ小麥粉價格ハ常ニ他ノ各國ノ騰貴平準以上ノ騰貴ヲ爲セリ
 唯丁抹ノミガ一九二一、一九二二、一九二四及一九二五ノ各年ニ於テ諾威ノ騰貴率以上ニアルノミ、
 「パン」價格ニ關シテハ事情之ト異リコノ場合一般騰貴率ハ諾威ヲ以テ最大トス。

一九一四、一九二四及一九二五ノ各年ヲ比較スルニ「パン」價格ノ騰貴率ハ次ノ如シ。

年 度	諾威	丁抹	瑞典	瑞西
一九二四	(約)一四一%	一〇三%	七八%	五七%
一九二五	—	—	—	二五九

一九二五

(約)一六四%

一二八%

八八%

七二%

二六〇

從ツテ吾人ハ諾威ニ於ケル穀粉及「パン」價格ノ實數ノ騰貴モ相對數ニ相應スル方向ヲ示スモノト考フルモ大過ナカルベク、況ンヤ穀物價格ノ研究ニシテコレニ類似ノ結果ヲ示スノ事實アルニ鑑ミルニ於テヲヤ。

而モ此ノ場合ニ於テモ亦統計ソノモノノ不確實ニシテ各國ノ統計的報告ヲ比較スルコトニヨリ正確ナル事實ヲ得ルノ不可能ナルヲ記セザルヲ得ザルナリ。

(四) 專賣ト財政的結果

國家ノ穀物管理ヨリ生ゼル財政上ノ結果ヲ正確ニ舉示スルハ至難ナリトス。何故ナラバ使用シ得ル材料トシテハ僅ニ食糧部ノ報告ノ存スルアルノミニシテ而モ此ノ報告ノ正當性ヲ確定スルハ極メテ困難ナルヲ以テナリ。

故ニ此ノ際吾人ハ食糧部ニヨリ與ヘラレタル素材ヨリソノ最モ本質的ナルモノヲ抽出シ其レニ依リ極メテ概括的ニソノ結果ヲ舉示スルニ止メントス。

先ヅ國內產穀物ノ引受ニ就テ見ルベシ。

國家ノ穀物專賣ハ一九一七乃至一九二五年間ニ次ニ示スガ如キ量ノ國內產穀物ノ引受ヲ爲セリ。

一九一七—一九二五年間ニ於ケル國家ニヨル諾威「パン」用穀物

ノ引受量 (トナ)

年次	小麥	「ライ」麥	大麥	總計
一九一七	一六三〇	一四四九	一一三五七	一四四三六
一九一八	五四一四	四三七六	二二四九〇	三一二八〇
一九一九	四五三一	三六〇八	一四九三三	二二〇七二
一九二〇	一一三三九	一八九〇	五八〇六	八九三五
一九二一	一〇二〇〇	二五五九	四七二八	八三〇七
一九二二	九八一	二九四七	八四〇五	一二三三三
一九二三	二四三	五五六	四九四	一二九三
一九二四	三五二	七七五	六八九五	八〇二二
一九二五	—	—	—	約一五七〇〇

一般ニ瑞西ニ比シテ其ノ量ハ少シ。諾威食糧部ノ穀物引受價格ハ既述ノ如ク議會ニ依ツテ決定サル。一九一五年五月八日ノ決議ニヨリ國家ハ先ヅ農民ニ對シテ諾威產穀物ノ最低價格ヲ保證シ、而モ一九一五年七月一日ヨリ一九一六年七月二十日迄ノ間ハ小麥及「ライ」麥ニ付テハ百「キロ」宛十六「クロ」ネン」ノ最低價格、大麥及燕麥ニ付テハ百「キロ」宛十四「クロ」ネン」ノ最低價格ヲ確保セリ。一九一六年產ノ穀物ニ對シテモ亦同様ノ價格ガ農業ニ對シテ保證サル、アリ(一九一六年七月二十一日ノ決議)。農林省ガ一九一五年二月議會ニ提出セル滑準關稅案ハ否認サレタリ。最低價格ハ先ヅ一九一七年

産ノ小麦「ライ」麥、大麥ニ付テハ百「キロ」宛十一「クローネン」方、燕麥ニ付テハ九「クローネン」方増加サレ、而モ其後（一九一七年九月二十二日）變化セル穀物市場ノ市況ニ應ズル爲、尙ヨリ高價ナル最低價格ノ定メラル、アリタリ。即チ國家ハ一九一七年産ノ小麦、「ライ」麥ニ付テハ百「キロ」宛六〇「クローネン」大麥ニ付テハ五〇「クローネン」、燕麥ニ付テハ四五「クローネン」ノ價格ヲ保證セリ。同様ノ最低價格ハ一九一八年産ノモノニ付テモ約束サレ、且同ジ決議ニ依リ一九一九年産ノ穀物ニ付テハ百「キロ」宛五「クローネン」ノ減價ヲ是等三種ノ穀物ニ付テ爲スコトヲ豫定セリ。（一九一八年六月十九日ノ決議）。

最低價格ノ確定ヲ除キテハ、一九二〇年ノ收穫年度ニ於テモ同様ニ引受ヲ爲スコトヲ農民ニ約セルモ、引受價格ハ其ノ後ニ於テハ外國穀物ノ輸入價格ニ倚依セリ。

斯クテ一九二〇年産ノ小麦ノ引受價格ハ七〇「クローネン」、「ライ」麥ハ六二「クローネン」、大麥ハ五〇「クローネン」ト規定サレタリ。而レドモ最低價格ハ一九一九乃至二〇年ニ於テハ最早其ノ實際的ノ意味ヲ持續シ得ザリキ。何故ナラバ事實上支拂ハレタル價格ハ常ニ最低限界價格ヲ割リ居タルヲ以テナリ。穀物ノ世界市場價格ノ下落ニ從ヒ諾威ニ於テモ亦引受價格ヲ低下シ從ツテ一九二一年以後ハ議會ノ確定セル價格ガ其ノ上限ヲナスニ至レリ。

議會ハソノ時々ニ亘ル決議（註一）ニ於テ將來モ亦農民ニシテ一定量ヲ國家ニ引渡サント欲スル限り其

ノ收穫ヲ引受クルコトヲ農民ニ確保セルモ、瑞西ト異リ長期間ニ亘ル確定的ノ引受價格ニ拘泥スルコトナカリキ。

次表ハ包括的ニ諾威産穀物ノ平均引受價格ヲ示セルモコハ一般ニ瑞西ノソレヨリモ低シ。

諾威産「バン」用穀物ニ對スル國家平均引受價格（一九二〇—一九二五）

收穫年度	小麦	「ライ」麥	大麥
一九二〇（一〇月—一月）	六五・〇〇	五九・二五	四六・二五
一九二一（九月—四月）	四〇・五	三六・四	三三・六
一九二二（九月—五月）	三三・一	二六・九	二六・一
一九二三（九月—五月）	三三・一	二八・四	二八・九
一九二四（九月—四月）	五一・二	四三・五	四〇・八
一九二五（九月—二月）	三七・八	二七・二五	二六・九
（註一）一九二二年産收穫ニ對スル一九二二年七月十三日ノ決議			
一九二二年同	一九二二年七月二十二日同		
一九二三年同	一九二三年五月十四日同		
一九二四年同	一九二四年八月九日同		
一九二五年同	一九二五年五月二十三日同		

諾威産穀物ニ支拂ヒタル直接割増價格ハ百「キロ」宛二、四〇「クローネン」乃至四「クローネン」ノ間ヲ上下セリ。（註二）。輸入價格ノ算定上ハ國內穀物ノ引受ニ要スル諸費用（最近ニ於テハ百「キロ」宛約四

五〇「クローネン」ノ上述割増金ニ加算セラル、ヲ以テ(註三)内外兩穀物ノ價格ヲ平均セシムル爲ニハ輸入穀物ニ約七乃至八・五〇「クローネン」ノ割増ヲ爲スヲ必要トセリ。

扱テ今ヤ問題ノ核心タル國家ノ穀物專賣ニ因ル損益計算ニ就テ見ルベシ。

一九一七乃至二〇年ノ恐慌年ニ於テ國內穀物ノ引受ニ因リ國家ノ蒙リシ帳簿上ノ總損失ハ千九百九十九萬「クローネン」ニシテ、諾威穀物ノ追増金ノ勘定ハ食糧部長ノ計算ニ依ルニ一九二〇年十二月三十一日ニ於テハ如上ノ差額ヲ以ツテ終レルヲ見ル。一九二一年ノ上半期ニ於テハ負債側ハ尙二十一萬二千五百三十三「クローネン」ヲ示セルモ一九二二年ノ下半期以後ニ於テハ計算報告ハ收入殘額ヲ示シ其ノ一九二五年迄ニ於ケル總計百六十萬「クローネン」ヲ算セリ。故ニ國內穀作ノ爲國庫ヨリ支拂ハレタル總額ハ最低約千八百六十萬「クローネン」ト見テ大過ナカルベシ。勿論此ノ際何等カノ形態ニ於テ間接ニ農業ニ注入セル金額ハ考慮ノ外ニ置ケリ。

(註二) 百「キロ」ノ割増價格ハ

年 月 日	
一九二一、一〇、一	三、五〇「クローネン」
一九二二、二、一	三、〇〇同
一九二二、一〇、一	二、七五同
一九二三、二、一	二、四〇同

一九二三、一〇、一 二、七五同

爾後ハ約 四、〇〇同

(註三) 引受費用ハ總計(百「キロ」宛)

一九二〇年度	七・九四「クローネン」
一九二一年度	五・四九同
一九二二年度	四・四二同
一九二三年度	四・九〇同
一九二四年度	四・三八同

外國產穀物ノ買上及内外產穀物並ニ食糧製品ノ販賣ノ場合ハ之ト事情異リ、原則トシテハ國家ハ穀物專賣ノ實行上支收相償フベキモノタリ。而モ專賣廳ガ此ノ原則ニ反シテ利益餘剩ヲ得ルベク努メタルヲ承認スルハ敢テ理由ナキニ非ザルナリ。

故ニ食糧部長ノ報告ニ依レバ一九一四年八月乃至一九二四年十二月迄ノ間ニ於ケル「バン」用穀物及穀粉ニ關スル國家專賣上ノ損益計算ハ次ノ如シ。

國家ノ穀物及穀粉專賣ニ依ル損益額總計(一九一四—一九二四)

	總餘剩額(千)	總損失額(千)
小 麥	二〇五四一四九四	—
「ラ イ」 麥	七〇五〇二七八	—

大 麥	一八六七七〇四一	九六八七六一
小 麥	一八六七七〇四一	一七〇四八〇一
「ライ」麥	一	一
粉	八一五四〇八	一
大 麥	四七〇八四二二	二六七三五六一
粉	四七〇八四二二	二六七三五六一

故ニコレラ三種ノ穀物及其ノ製品ノミニ付テ四千四百四十一萬六千五百五十九「クローネン」ノ總餘剩ノ生
セシヲ見ル。

小麥及小麥粉ノ販賣ヨリ生ゼル高キ餘剩額ハ特ニ專賣行政ニ對スル銳利ナル批判ヲ誘起セル一要素ナ
リトス。純餘剩額ハ正確ニ之ヲ計算スルハ不可能ナリトス。何故ナラバ穀物及穀粉販賣ノ爲メノ支出
ハ其レノミ別ニ記入サルル處ナキヲ以テナリ。同様ニ特別勘定——政府資金、打歩資金及豫側セザル
支出ノ爲ノ資金(註四)——モ亦純然タル穀物及穀粉取引ヨリシテ生ゼル金額ノ程度ヲ把捉スベキ支持
點ヲ與フルモノニ非ザルモ而モ此等如上ノ資金ハ主トシテ穀物專賣ノ利益ヨリ供給サレタルモノト見
ルヲ得ベシ。專賣左祖者ハ屢々主張シテ曰ク帳簿上ノ利益餘剩ニモ拘ラズ、有利ナル買上ト專賣廳ノ
熟練ナル措置トニ依リ諾威ノ消費者ハ間接的ニ專賣ヨリ利益ヲ受ケ、尙又專賣廳ガ常ニ必ズシモ一般
市場格價ニ從ハザリシ結果、國家及消費者ハ少カラザル利益ヲ蒙リ居レリト。(註五)。而レドモコレラ
凡テノ計算ハ頗ル疑問ニシテ、況ンヤ是等ノ計算ニハ多少ナリトモ正確ナル基礎スラ缺クル所アルニ

於テヲヤ。

(註四) 總計次ノ如シ (單位百萬「クローネン」)

年 度	政府資金	打歩資金	不時支出資金
一九一九	四〇、七	三、〇	一
一九二二	六、一	八、三	一、〇
一九二三	一一、九	五、三	一一、一
一九二四	一五、三	六、二	一一、二
一九二五	一八、七	六、二	一一、二

(註五) 一九一九乃至二一年間ノシテ計算上ソレニ依リ二千四百四十萬「クローネン」ノ金額ガ穀物及穀粉ニ付テ節約サレシト云フ。

(五) 專賣ト利害關係者

專賣ニ關係セル個々ノ團體ノ態度ハ大體ニ於テ瑞西ニ於ケルト同様ナルモ農業者ハ之ガ例外ヲ爲ス。
瑞西ニ於テハ農業者ハ專賣維持ノ賛成者ナリシモ諾威農業者ハ——議會ニ於ケル其ノ代表者ハ農民黨
ナリ——國家專賣ノ永續的實施ニハ反對セリ。個々ノ特別ナル場合ハ之ヲ除外シ彼等ノ願望トシテハ
諾威ノ農民ハヨリ狹隘ナル制度ニ賛成スル。即チ彼等ハ專賣ヲ望ムニ非ズ寧ロ彼等ガ販賣ノ申込ヲ爲
セル國內產收穫物ヲ「パン」用穀物ノ栽培ヲ可能ナラシムル程ノ價格ニヨリ無條件ニ政府ニ於テ之ガ引
受ヲ保證セラレンコトヲ望ムモノナリ。

諾威農業ハ瑞西農業トハ異リ二個ノ問題——即チ一方ニ於テハ國家ノ輸入專賣、他方ニ於テハ國內產

穀物ノ引受強制及價格保證——ノ根本的分離ヲ試ミ目的ヲ達セントスル努力ハソノ最モ手近ナル事物ニノミ向ケラレタリ。

農業ノ要求ヲ支持セル議論ハ瑞西農民ガ等シク利用セル處ノモノニシテ、國防ノ確保、穀物栽培ノ振興及其レニ依ル十分ナル「バン」ノ供給、單ニ消費者利益ノミナラズ經濟的及政治的關係ニ於ケル一般利益ノ保護即チコレナリ。製粉業者ニシテ國家ト結合シ專賣穀物ノ磨碎ヲ行フ限リ彼等ニハ何等深刻ナル不平原因ハ毫モ存在セザルベシ。而レドモ其ノ他ノ製粉所ハコノ專賣制度ニ銳利ナル批判ノ鋒ヲ向ケ一方彼等ノ競争者ノ特權ヲ指摘スルト共ニ他方專賣ニ於ケル非商人的買上ノ實行ニ因ル穀物粉及「バン」價ノ騰貴ヲ非議セリ。

而シテ例バ諾威製粉所組合ノ爲セルガ如キ若干ノ聲明ヨリ之ヲ推スニ輸入專賣ノ永續的維持ハ製粉所ニトリテモ望マシキモノニ非ズ、又國家ノ爲ニモ不利ナリト云フ結論ヲ下スヲ得ベシ。何故ナラバ既ニ一九二三年四月製粉所組合ニ屬スル製粉所ハ農林省ニ對シテ永續的穀物專賣實行ニ關スル抗議ヲ爲セルヲ以テナリ。

一九二六年二月ニ開カレタル會議ニ於テモ亦製粉工業ノ代表者ハ國家ノ輸入專賣ノ維持ニ反對ノ提案ヲナセル「クリステンゼン」案ニ付テハ後ニ之ヲ再述スベシ。

「クリステンゼン」案ニ付テハ後ニ之ヲ再述スベシ。

瑞西ト等シク穀物商人ハ其ノ全體ノ組織上價格ヲ騰貴セシムル仲介者ニシテ、コノ事實タルヤ大麥、燕麥ノ取引ガ多少ナリトモ完全ニ彼等ヨリ奪ハレタル時ニ於テ殊ニ明ナリトス。廣大ナル範圍ニ互ル管理ヲ困難、事務ノ形式の清算、專賣的買上ニ於テスラ危險排除ハ之ヲ不可能トスル事、他人ノ費用ニ於テスル一小部分ノ人民ノ優先等ハ彼等ノ主張セル論點ノ一小部分ニ過ギズ。

彼等ハ亦商工業ノ代表者ト等シク、コノ社會化及集中ノ時期尙早ナルヲ強調スルモノタリ。商工業代表者ハ商人ト同様ノ標語ヲ使用ス。即チ曰ク現存專賣ハ其ノ無用ナルヲ證明セリト。斯クテ彼等ハ滑準關稅ノ實施ヲ以テヨリヨキ解決策ト爲シ、自由競争制限ノ結果ハ價格ノ騰貴ヲ招來シ、コ

ハ例ハ他ノ財貨ノ運賃ニ比シテ穀粉運賃ノ騰貴ト爲リ明白ニ表現サル、モノトナセリ。

組織サレタル消費者ノ代表タル勞動黨ハ政治上ノ理由ヨリシテ現在ノ暫定的國家專賣ノ強固ナル確定ヲ要望シ此ノ點ニ於テ彼等ハ瑞西ノ同志ト何等異ル處ナシ、專賣ガ消費者ニ與フル利益ヲ略述スレバ次ノ如シ。

(1)價格變動ノ平衡 (2)全國ニ互ル統一ナル價格構成 (3)統一アル貨物運送ニ依ル贅費ノ節約 (4)中間商人ノ排除 (5)製粉經營ノ集中ニ依ル最モ合理的ニシテ廉價ナル磨碎 (6)最後ニ社會思想ノ實現コレナリ。

此ノ簡單ナル解説ハ諾威ニ於ケル世潮ノ概觀ヲ示スニハ十分ナルベシ。此ノ點ニ付テハ六二頁ニ於ケ

ル説明ヲ參照サレタシ。吾人ハ其處デ個々ノ政黨ノ主張ヲヨリ詳細ニ論ゼントス。

三 政府ト專賣問題

戰後國內穀作ハ瑞西同様諾威ニ於テモ亦既往ニマシテ一般ノ注目ヲ惹クニ至レリ。暫定的穀物專賣モ實ニ又妥當ナル解決ヲ要望セルモノニシテ從ツテ年ノ經過ト共ニアラユル方面ヨリシテ國內ノ穀物供給ニ關スル幾多ノ提案及計畫ノ作成且ツ提出サレタルハ何等怪シムニ足ラザルナリ。尙ホ又此ノ點ニ關シテハ穀作振興ノ可能性ニ關スル研究ノ爲メ九乃至十一人ノ委員ヨリナル委員會ヲ設定セル一九一五年十二月及一九一九年八月ノ勅令モ間接的ニ關係ヲ有スルモノナリ。一九一八年一月九人ヨリ成ル委員會ハ次ノ如キ三個ノ提案ヲ含ム答申ヲ政府ニ提出スル所アリタリ。即チ(一)國家ハ一回限り財政的ノ保護ヲ與ヘ以テ穀物ノ排他的輸入及輸入穀物ノ磨碎ノ特權ヲ有スル私法上ノ會社ヲ設立スルコト(十一人ノ社員中、理事三人、顧問一人)。コノ會社ハ凡テノ販賣申込ノ諾威產穀物ヲ引受クル義務アルモノトシ且引受價格ハ本質上輸入穀物ノ輸入價格ニ倚依スルモノトス。交付ハ全國同一價格ヲ以テ之ヲ爲ス。

二、會社ハ輸入穀物ノ十分ナル豫備的貯藏ヲ保持セザルベカラズ。

保管料ハ(百「キロ」約一・五「クローネン」ト評價ス)國家ノ負擔トス、但シ公共團體及私的倉庫ノ貯

藏ニハ一定ノ賠償ヲ支拂フモノトス。(約一「キロニエーレ」)。

三、耕作補償金ハ國庫之ヲ支拂ヒ、ソノ讓渡量ニ應ジ小麥、「ライ」麥、大麥ニ付テハ二乃至一「クロ

ーネ」、燕麥、雜穀ニ付テハ一・五〇乃至〇・五〇「クローネ」迄ノ間ニテ等級ヲ附スルモノトス。

一九一八年當時議會ニ於ケル自由黨總裁「ハーコン、ファイブ」氏ハ穀粒及穀粉ノ純國家的專賣ヲ提議セリ。實ニ「ファイブ」氏ノコノ提案ハ穀物專賣ガ其ノ後トリタル形態ニ關シテハ決定的ノモノナリキ。

一九一九年八月ニ設立サレタル委員會ハ一九二〇年二月ソノ提案ヲ提出シタリ。ソノ要點次ノ如シ。

一、諾威產穀物ノ買上義務ヲ伴フ穀粒及穀粉輸入專賣制度ノ創定。

二、小麥、「ライ」麥、大麥ニハ百「キロ」四、五〇「クローネン」、燕麥、雜穀ニハ百「キロ」三、五〇「クロ

ーネン」ノ生産補償ヲ支拂フモノトス。

三、諾威產務物ノ貯藏ニモ相當ノ補償ヲ爲スモノトス、但シ國家ハ多量ノ豫備貯藏ヲ保持スベキモノニ非ズ。

農民側ハ專賣ノ速ニ結了サレンコトヲ盛ニ主張セルニモ不拘、ソハ政府ガコレヲ諸提案ニ對シ一定ノ態度ヲ採ルニ至ル迄ハ持續セリ。一九二二年八月長キ期待ノ的タリシ法案ハ終ニ議會ニカケラル、ニ至レリ。

コノ草案ハ——樞密院議員「ファイブ」氏ノ製作ニ係ル——前ノ委員會案トハ反對ニ一長官、七顧問及

顧問中ヨリ選ブ二人ノ庶務ヨリ成ル純然タル國家專賣ヲ豫想セルモノナリ。即チ國內ノ穀物供給ハ小麥、「ライ」麥、大麥、燕麥及製粉製品ノ輸入獨占權ヲ有スル國家ガ之ヲ爲スモノトセリ。

輸入獨占ノ外ニコノ法案ハ製粉業ノ國家化ヲ企圖セルモ國內ニ於ケル食糧製品ノ專賣的管理ハ之ヲ除外スベキモノトセリ。穀物及穀粉ノ販賣ハ無賃ニシテ凡テノ買手ニ同一値段ニヨリ之ヲ行フモノトス。尙ホ國家ハ十分ナル豫備貯藏ニ——少クトモ消費ヲ節約セバ一箇年間ハ十分ナル——意ヲ用フベキモノトセリ。而レドモ此ノ案ハ議會ニ於テ多數ヲ得ルコト能ハザリシヲ以テ實質上コノ案ノ存在ハ議會ニ於ケル討議ト共ニ消滅セルモノト言ヒ得ベシ。

一九二一年特ニ一九二二年ニ於テ農業生産品ノ價格ガ甚ダシク下落スルヤ、專賣思想ハ瑞西ニ於テ然リシガ如ク徐ロニ背景中ニ没シ穀物專賣法ハ最早殆ンド論ゼラル、コトナク人ハ寧ロ他ノ方法ニ依リ問題ヲ解決セント試ミタリ。政府ハ其ノ豫備行爲ヨリ推定スルニ疑モナク非專賣的形態ヲ念頭ニ思ヒ浮ベ居タルナルベシ。即チ一九二三年四月政府ハ樞密院ニ於テ彼等ノ前任者ガ提出セル國內穀物供給ニ關スル案ハ凡テ之ヲ撤回スルノ決議ヲ爲セリ。斯クシテ暫クノ間ハ事態再ビ平穩ナリシモ一九二三年ノ秋ニ至リ專賣問題ニ關係アル一政黨ニ依リテ新ナル建議ノ議會ニ提出サル、アリ。即チ右黨ハ暫定的ナル穀物專賣ノ廢止ヲ要求シ政府ノ認可ヲ受ケタル各人ノ自由ナル穀物取引ヲ要求シ、外國穀物輸入ノ許可ニハ國家ガ生産者ヨリ外國價格以上ノ一定價格ニヨリ（百「キロ」ニ付約四「クローネン」）

買上タル國內産穀物ノ一定量ヲ引受クル義務ヲ伴フモノトセリ。穀物貯藏ハ製粉所、輸入業者、及自治團體ノ倉庫ニ於テ之ヲ爲シ且ツ國家ノ管理ニ服スルモノトセリ。

自由黨ハ純然タル國家的專賣ヲ維持シ、且ツ、事情ニ由リテハ國家ノ管理ヲ製粉經營ニモ亦及ボサントシ、專賣以外ノ輸入ハ凡テ之ヲ禁ズベキモノト爲セリ。尙ホ專賣ニハ販賣申込ノ凡テノ諾威産穀物ヲ穀物委員會ノ決定スル價格ヲ以テ買上グル義務ヲ伴フモノトシ時宜ニ適セル糧食經濟ハ國家ヲ未曾有ノ偶然事ヨリ救フヲ得ベシト主張セリ。

農民黨ハ國家的專賣ニ反對ノ立場ヲ持シ之ニ代フルニ穀物ノ輸入ハ之ヲ特許權者ニ委ルベキモノトセリ。

尙ホ此ノ特許ニハ、省ノ一定ノ分離計畫ニ從ヒ販賣申込ノ諾威産小麥、「ライ」麥、大麥及一部分ハ燕麥ヲ過去數個年ノ良質穀物ノ平均價ヨリ約二〇%方高キ價格ヲ以テ買上ル義務ヲ伴フモノトセリ。特許權利者ハ時々議會ニヨリ決定サレ、國庫ヨリ支拂ハルベキ費用賠償ヲ受クル代リニ、十分ナル豫備貯藏——消費ヲ節約スルニ於テハ約一年間ノ——ヲ爲スベク意ヲ用フベキモノトセリ。政府ノ立場ハ内地農民ニ對シテ諾威産穀物ノ價格及賣却ニ關スルヨリ確固タル基礎ヲ保證セザルベカラズト言フニアリキ。

而モ政府ハ自國生産者ニ若干ノヨリ強固ナル條件ヲ保證スル問題ト國內供給ヲ外國穀物ヲ以テ充ス問

題トノ間ニハ次ノ如キ內的干渉ノ成立セルヲ即チ自國ノ穀物栽培ヲ顧慮センカ外國穀物ノ輸入ヲ專賣化スルノ必然的ナルヲ認メザルモノナリ。

從ツテ政府ハ專賣ノ實施ヲ排斥シ且ツ論ジテ曰ク農業ハ全體トシテ穀物取引及製粉業ガ再ビ解放サレ私人ノ營利生活ニ委ネラレ、只自國產穀物ノ販賣ヲ確保スル制限ノミヲ維持スル時ニ於テ最モ益スルナルベシト。

而モ此ノ際政府ハ穀物專賣ノ經營ハ政治的活動ニ歸スルノ傾向著シク、然ル時ニハ經濟的利益ハ政治的利益ニ依リ排除サレ、且ツ國家專賣ニシテ若シ同時ニ消費者ニハ廉價ナル「パン」ヲ、農業ニハ補助ヲ與ヘントセンカソノ間垂離ノ生ズル處アルベシトノ事實ハ之ヲ認ムルモノナリ。

右黨ノ案ニ倚依セル跡歴然タル政府案(註五)(一九二三年九月)ノ内容次ノ如シ。

一、穀物及穀粉ノ販賣ハ自由トス。諾威產穀物ノ買上及分配ハ創定サルベキ國家的穀物事務所之ヲ行ヒ、穀物事務所ハ一人ノ所長及四人ヨリ成ル顧問(二人ノ穀物生産者及二人ノ輸入業者)ノ指導ノ下ニ立ツモノトス。

二、小麥、「ライ」麥、及大麥ノ輸入業者ニハ彼等ガ穀物事務所ノ決定スル相當量ノ自國穀物ヲ引受クル場合ニ於テノミ輸入許可ヲ與フルモノトス。

自國生産者及輸入業者間ノ媒介ハ國家之ヲ行ヒ國家ハ其レヨリ生ズル運送費ヲ負擔スルモノトス。

三、良質諾威產穀物ハ(小麥、「ライ」麥、大麥)世界市場價格「プラス」百「キロ」三「クローネン」ノ價格ヲ以テ引受クルモノトシ、品質不良ナルモノニ付テハ割引ヲ爲ス。自國產穀物ヲ輸入業者ニ交付スル場合ニ於テハ同量ノ輸入穀物(諾威國境迄ノ運賃ヲ含マス)ノ交付價格ト同一ノ價格ヲ以テス。燕麥ニ付テハ別ニ規定ヲ設クルモノトス。割増價格ハ之ヲ豫想セズ。

四、穀物ノ貯藏ハ國家ノ負擔ニ於テ之ヲ爲シ、而モ農民ノ倉庫及設立サルベキ國立倉庫ニ於テ之ヲ爲スモノトス。

五、實費ヲ補フ爲次ノ如キ課稅ヲ爲スモノトス。即チ百「キロ」宛小麥、三「クローネン」、小麥粉六「クローネン」、燕麥二「クローネン」、燕麥粉五「クローネン」トス。

(註五) 諾威產穀物ノ買上及貯藏ニ關スル法律案。

此ノ政府案ニ對スル終局の表決ハ其ノ成立ヲ見ズシテ寧ロ現存專賣ノ延期案ガ兩院ヲ通過セリ。同様ノ結果ハ次年度ノ討議ニ依ツテモ窺ハル、處ニシテ、此ノ際ニ於テモ亦本質上前案ニ倚據セル提案ハスベテ上下院ニ於テ多數決ヲ得ルコト能ハザリキ、從ツテ當時ノ國家專賣ニ關スル決定ハ新選舉迄延期サレ人ハ政黨關係ノ變化ヲ期待セリ(註六)。

(註六) 秋ノ選舉ニ於テハ專賣ノ熱烈ナル代辯者タル自由黨(Venstre)ノ勢力衰ヘ右黨及農民黨ニ有利ナリキ。

一九二五年二月以降農業委員會ハ個々ノ計畫ノ起案ニ特ニ從事シツ、アリシモ一九二六年ノ初頭ニ至

ル迄ハ事態ハ判明セザリキ。コノ年四月始メテ議會ニ於ケル農業委員會ノ諸案カ新ニ討議ニ上ルニ至レリ。此ノ農業委員會ノ内部ニ於テハ前議員ニシテ現樞密院議員タル「クリステンセン」ノ妥協案ガ特ニ注目シテ惹キ從ツテ之ガ委員會ノ態度決定上斷定的ノモノトナレリ(註七)

(註七)「クリステンセン」案ニハ右黨及農民黨賛成シ自由黨及勞動黨ハ之ニ反對セリ。

「クリステンセン」氏法案ノ要項綱次ノ如シ。

小麥、「ライ」麥、大麥、燕麥及ソノ食糧製品ノ輸入ハ國家及國家ノ輸入許可ヲ得タル者之ヲ行フ。兩者ニハ同一ノ規定ヲ適用ス(第一條)

小麥、「ライ」麥、大麥及其ノ食糧製品ノ輸入許可ハ一定量ノ諾威穀物ヲ引受ケタル事ヲ證明シ(燕麥ハ加算セズ)又ハ將來一定量ノ引受義務ヲ負フ者ニ與フルモノトス輸入許可期間ハ一年トス(第二條) 燕麥及其ノ食糧製品ノ輸入ハ原則上之ヲ許可セズ(註八)。此ノ制限ハ諾威產燕麥ガ相當外國燕麥ノ輸入價格以下ノ價格ニテ十分ニ手ニ入ラザル場合ニ於テノミ之ヲ撤廢スルモノトス。(第三條)

(註八) 諾威ノ燕麥ノ生産ハ自國主要ノ大部分ヲ充スニ足ル。

特別ノ原因アルニ於テハ(例ハ凶作)國王ハ燕麥ニ關スル規定ヲ廢シ得ベク、若シ輸入業者トノ契約ニ依リ國家ノ買入義務ニ屬スル穀物量ノ引受ガ確保サル、ニ於テハ「ライ」麥、小麥、大麥ニ關スル規定(第二條)ニ關シテモ同様ナリトス。

小麥、「ライ」麥及大麥ノ製粉加工品ノ輸入業者ハ買入義務ヲ製粉業ニ課スルガ適當ナルガ如キ場合及製粉業ガ輸入業者ニ比シテ買入義務ノ負擔ヲ補フ保護ヲ享有セルガ如キ場合ニ於テハ買入義務ヲ免除サレ得ルモノトセリ。

穀種及飼料苗ノ輸入ハ是等規定ニ關係ナク自由ナルモノトス。

特別ノ事情アルニ於テハ政府ハ輸入許可ノ規定(第二條)ヲ輕減シ又ハ全ク廢シ得ベシ(第四條)

人間ノ食料タリ得ベキ諾威產穀物(「ライ」麥、小麥、大麥)ニシテ販賣申込ノモノハ國家ニ於テ之ヲ單ニ法律ヲ以テ定ムル價格ニヨリ買上グルモノトス(註九、註一〇)

尙國家ハ同一條件ニ於テ年々少クトモ一五、〇〇〇噸ノ燕麥ヲ引受クルモノトス。

(註九) 農民黨ハ一〇五、〇〇〇「キログラム」ノ買上義務ヲ要求シ且ツ、燕麥ニ付テハヨリ少量ノ引受ヲ要求セリ。

(註一〇) 農民ハ最近三箇年平均收穫高ノ八分ノ一ノ引受ヲ要望セリ。然ルトキハ一九二五年度ニ於テハ一九、三〇〇噸一九二六年度ニ於テハ一八、五〇〇噸トナルベシ。

國家ハ良質ノ小麥、「ライ」麥、大麥ニハ同價值ノ輸入外國穀物(諾威國境迄ノ運賃ハ含マズ)ト同一ノ價格ヲ支拂ヒ品質不良ナルモノニハ相應ノ割引ヲ爲スモノトス。即チ小麥、「ライ」麥、及大麥ニ關シテハ此ノ價格ニ一「キログラム」宛四「エーレー」ノ割増ヲ爲シ、燕麥ニ付テハ割増ハ命令ニ依リ之ヲ定ム(註一一、一二)。

(註一一) 農民 要求ハ之ニ反シ全年ヲ通ジテ約二〇% (最初ハ二五%) ノ同一ノ割増ヲ過去數年ノ平均價格ニ爲スベシト爲シ而モ小麥、「ライ」麥、大麥ノミナラズ一定ノ場合ニハ燕麥ニ對シテモ亦之ヲ爲スベシト言フニアリ。黨ノ計算ニ依ルニ若シモ一九二六年五月ノ着值ヲ基礎トセバ小麥ニ付テハ六「エーレー」、「ライ」麥ニ付テハ四一五「エーレー」、大麥及燕麥ニ付テハ四「エーレー」ノ割増ヲ意味スルモノナリ。

著者ハコノ割増ハ低キニ失スト爲スモノナリ。同様ノ割増ハ穀物ノ自家消費者ニモ許與サルベキモノナリ。

一般ニ農民 議論ノ餘地アル歩合的割増ニ固執セズ相當ノ價格狀態ニ倚據スルニ於テハ一定ノ定價ノ確定ニ同意ノ旨聲明セリ。

(註一二) 農民黨ノ提案ハ燕麥價格ニ二月乃至五月迄ノ間ニ於テハ五乃至一五%ノ段階的割増ヲ爲スト言フアリ、即チ着值ニ二月乃至一月迄ハ五%二月乃至三月迄ハ一〇%四月乃至五月迄ハ一五%ノ割増ヲ附シコレ等以外ノ月ニ於テハ特別ニ割増ヲ附スルコトナシトスルニアリ。

買上ノ義務ハ穀物生産者又ハ政府ノ認メタル農業組合若クハ農業聯合ガ其ノ穀物ヲ提供シタル時ニ於テノミ存スルモノトス(註一三)。

販賣價格ハ輸入穀物價格(諾威國境迄ノ運賃ハ含マズ)「プラス」關稅總額ニ從フモノトシ(註一四)。地方團體ノ製粉所ハ割引ヲ受クルモノトス(第六條、第七條)。

國家ニ依リ引受ケラルベキ諾威產穀物ハ同一ノ引受價格ニ於テ停車場所在及定期汽船若クハ「モータ」ボート」ノ淀泊所々在ノ國有倉庫ニ收納ス。

生産者ヨリ積出地迄ノ輸送ニハ一定ノ補償金ヲ確定シ支拂フヲ以テ事實上ノ運賃ハ國家之ヲ引受クルニ至ル(註一五)。運賃補償ニ關スル詳細ナル規定ハ議會之ヲ定ム(第七條及第十一條)。

生産者ガ自家用ニ磨碎シ消費スル諾威產穀物(小麥、「ライ」麥、大麥、或ハ沿岸地方ニ於テハ場合ニ依リ燕麥)ニ對シテハ要求ト證明トニ因リ家族ノ一員毎ニ「キロ」及一年宛四「エーレー」ノ割増ヲ行フモ、年及一人當二百「キロ」ヲ越ヘザルモノトス(註一六、註一七)。

(註一三) 農民モ同様ノ提案ヲ爲セリ。即チ國家ノ介入ヲ受クルコトナク、生産者又ハ組合ガ特許權利者ニ爲ス直接販賣ニ關シテハ——國家機關ノ介入自體ハ漸次排除セラルベキナルモ——販賣人ハ間接及直接引受價格トノ差ニ相當スル額ノ賠償ヲ受クルモノトスト言フニアリ。

(註一四) 農民ハ公定販賣價格ヲ欲セザリキ。

(註一五) 農民黨ハ七五%丈ノ運賃賠償ヲ要求シ以テ特許權利者ナシテ最廉ニシテ且ツ最モ近キ輸送路ヲトラシメムトセリ。國家ノ計算ニヨリ買上ゲ且ツ國家ノ倉庫ニ貯藏スベキ穀物ノ輸送費用ハ完全ニ償還サルベシ。

穀粉輸送ハ農民ノ願望ニ依リ運賃賠償ノ點ニ於テ穀物輸送ノ場合ヨリモ若干不利ニ手心ヲ加フヘキモノトセリ。

(註一六) 農民ハ二五〇「キログラム」ノ限界ヲ欲セリ。

(註一七) 右翼黨ハ國家ニ引渡サル、穀物ニ付テノ割増ノミヲ保證セントセリ。農民黨ノ要求ニ關シテハ四九頁乃至六三頁參照。

栽培、パン用穀物中販賣サル、ハホンノ小部分ニ過ギズ(約三乃至五%)且穀作ハ國ノ二三ノ僅少部分ニ限ラル、事ノ事實ヲ考慮スルトキ(オストラランド、オフランデネ、ソルランドハ諾威生産ノ小麥及「ライ」麥ノ九五%ヲ、大麥ノ六〇%以上ヲ供給ス)。

自家消費者ニモ亦割増ヲ支拂フコトノ決定ハ特種ノ意味ヲ有スルニ至ルベシ。

割増ハ國庫ヨリ支拂ハル、モノニシテ農林省ハ不正ナル要求ニ對スル豫防法ヲ制定スルモノトス(第八條)。

主トシテ諾威產穀物ヨリ成ル豫備貯藏ヲ爲スニ當リテハ之ヲ全國ニ平等ニ分配シテ行ヒ且ツ次年度ノ

收穫ト私人ノ在庫品トテ顧慮セバ節約サレタル消費ノ下ニ於テハ一年ノ需要ヲ充スニ足ル程ノモノタラシム(註一八)。燕麥ニ關シテハ別ニ規定ヲ設クルモノトス(第九條)。

(註一八) 豫備貯藏ノ状態次ノ如シ。

	1 Jan 1911	1 Jan 1912	1 Jan 1913	1 Jan 1914	1 Jan 1915	1 Jan 1916
穀物	t	t	t	t	t	t
穀物及碎粒	七二〇〇	七六二〇〇	六四〇〇〇	九一六〇〇	五六七九〇	
合計	二五三〇〇	一六六五	三一五〇	二二五〇	一六六一〇	
	九六五〇〇	七七八六五	六七一五〇	九三八五〇	七三四〇〇	

凡テノ規定ヲ實施スル爲メ國家的穀物事務所ヲ設立シ (Sins Oslo) 所長一人ト四人トヨリ成ル顧問トガ(二人ノ穀作者及二人ノ穀物輸入業者)其ノ指導ニ當ルモノトシ所長及顧問ハ國王之ヲ任命ス。顧問ハ四年ノ任期ニシテ所長ニハ短期ノ解職豫告期間(六箇月)アリ。二年目毎ニ抽籤ニ依リ二人ノ顧問(一人ノ穀作者及一人ノ輸入業者)ハ其ノ地位ヲ退キ新ナル者之ニ替ル(第十二條)。

下級官吏ハ政府又ハ政府ノ委任ヲ受ケタルモノ之ヲ任命ス。穀物事務所ノ人員ハ一九一八年二月ノ官吏法ノ支配ヲ受ケザルモノトシ、所長ハ日常事務ノ速辦ノ義務アルモノトス。

顧問ハ諾威産穀物ノ引受割合ノ確定及買上穀物ノ分配ヲ決定シ買上及販賣ニ關スル詳細ナル標準ヲ作成シ、品質等級ヲ規定シ、價格及其ノ個々ノ品質ニ對スル通用期間ヲ確定シ、諾威收穫ノ販賣申込ヲ

爲スベキ時期ヲ定ムベキモノタリ。(第十三條及第十四條)。

各政黨間ニ生ズルコトアルベキ鬭争ノ調停上國王ハ無任期ノ三人ノ仲裁人ヲ任命ス(第十五條)。「クリステンゼン」案ノ財政計畫次ノ如シ。

- (一) 穀種ヲ除キ制限ヲ顧慮セズ年一一〇〇〇tノ穀物ニ對スル
一「キロ」四「エーレ」ノ割増金 } 四四四〇〇kr
 - (二) 輸送支出、出張費、販賣事務所ノ爲メノ支出 } 七〇〇〇〇
 - (三) 燕麥買上及時國家ト契約ヲ爲セル公共團體ノ製粉所へ販賣時
ニ於ケル管理費 } 三〇〇〇〇
 - (四) 他ノ行政上ノ支出 } 三〇〇〇〇
- 計 五七四〇〇〇

此ノ支出ノ補充ニハ相當ノ増額ヲ爲シタル關稅收入ヲ以テス。故ニ收入計算ハ次ノ如シ。

收入ノ部	
百「キロ」三「クローネン」ノ小麥(九〇〇〇〇t)關稅(註一九、二〇)	二七〇〇〇〇〇
百「キロ」六「クローネン」ノ小麥粉及小麥(四四〇〇〇t)碎粒關稅	二六四〇〇〇〇
百「キロ」五「クローネン」ノ大麥芽(一〇〇〇〇〇t)關稅	五〇〇〇〇〇

計

五八四〇〇〇

(註一九) 諾威ノ稅目表ニ於ケル稅額次ノ如シ(單位百キロ)

大麥	〇・二二	碎粒	〇・六〇	穀粉	〇・五〇
燕麥	〇・四〇	同	一・〇〇	同	一・〇〇
小麥	〇・六〇	同	一・〇〇	同	二・〇〇
「ライ」麥	無稅	同	—	同	〇・五〇

(註二〇) 右黨ハ小麥、小麥粉ニ關シテハ同様ノ稅額ヲ主張シ燕麥及燕麥碎粒ニ關シテハ若シ輸入禁止ガ解除サル、曉ニ於テハ百「キロ」宛ニ乃至五「クローネン」ノ稅額ニテ十分ナリトセリ。

自由黨及労働黨ハ關稅ガ「ライ」麥及「ライ」麥粉ニ迄擴張サレ從ツテ生計費ノ高マルヲ憂慮セリ。兩黨ハ議會ノ討論中費用ノ填補ヲ(割増及豫備貯藏)關稅ニ依ラズシテ財產稅及所得稅ノ増率ヲ以テセントスル案ノ提出ヲ留保セリ。

故ニ決算尻ハ「プラス」十萬「クローネン」トリ居レリ。而モ此ノ際輸入制限ノ撤廢サル、ヤ課セラルベキ燕麥及其ノ碎粒(百「キロ」宛ニ乃至五「クローネン」ヨリノ關稅收入ハ顧慮サレ居ラザルナリ。麥芽關稅ノ相當ナル増額モ等シク收入ノ部ニ算入サルベキナリ(註二一)。

(註二一) 農民ノ計畫次ノ如シ。

支出ノ部

燕麥共年一二〇、〇〇〇トノ穀物ニ對スル割増金(一「キロ」宛六・四五kr及四「エーレ」)

五、一一五、〇〇〇

七〇〇、〇〇〇

五、八一五、〇〇〇

行政買下運賃保管諸掛

計

收入ノ部

百「キロ」宛二、八krノ小麥(九〇〇〇〇t)關稅

二、五二〇、〇〇〇kr

百「キロ」宛四、八五krノ小麥粉(五〇〇〇〇t)關稅

二、四二五、二五〇

百「キロ」宛九、三krノ麥芽(一一五〇〇t)關稅

一、〇六九、五〇〇

百「キロ」宛五、六krノ大麥芽(一〇〇〇〇t)關稅

五六〇、〇〇〇

六、五七四、七五〇

差引 +

七五九、七五〇

豫備貯藏量ノ貯藏費用トシテハ年及噸宛約一〇乃至一二「クローネン」ヲ以テ十分ナリト考ヘラレタリ。從ツテヨリ多量ノ豫備貯藏ヲ爲スニハソレ相想ノ國庫負擔ヲ生ズベキ理ナリ。コノ案ハ三萬噸ノ穀物買上ノ際ノ支出費用ハ約七百萬「クローネン」ト計算シ居レリ。穀物事務所ノ經營資本ハ二百五十萬「クローネン」ト見積ラレ其ハ食糧部資金——部ノ報告ニ依ルニ一九二五年七月ニハ其ノ總計二千二百五十萬「クローネン」ナリ。——ヨリ流用サルベキモノトセリ。

既往ノ年ノソレト同様ナル右黨及農民黨案ナルモノハ「クリステンゼン」案ト反對ノ立場ニアルモノナリ。而シテ其ノ「クリステンゼン」案ト異ル重要ナル點ニ付テハ既ニ論及セルヲ以テ個々ノ點ニ於ケル較量ハ之ヲ除カントス。

二十三名ノ辨士ガ此ノ問題ニ就テ自己ノ立場ヲ表明セル議會ノ討論ノ後「クリステンゼン」案ハ下院ニ於テハ五七票對五五票ヲ以テ承認サレ上院ニ於テハ僅カ一票ノ差ガ勝利ヲ決定セリ。コノ草案ハ下院ニ於ケル再吟味ノ際ニハ一章ノ些細ナル形式の變更ヲ受ケタル後辛ウシテ多數ヲ得タリ。(五六票對五五票)。

斯クシテコノ案ハ法律トナリ一九二七年七月一日ヨリ實施サル、コト、ナレリ。割増制——政府ノ決議ニ依レバ一九二七年一月一日以前ニハ實施サル、コトナキ——ヲ租税ニ依リ行フカ又ハ關稅ニ依リ行フカハ一九二七年ノ初頭ニ於テ始メテ決定サレ、同様ニ運賃補償ノ規定ニ關シテモ尙ホ十分ニ審議ヲ盡スベキモノトセリ。國家穀物專賣ノ廢止問題モ亦判然セズ、農林大臣ノ一聲明ニ依ルニ專賣廢止ノ一定時期ハ尙ホ未詳トス。

然レドモ近キ將來ニ於テ此ノ暫定的穀物專賣ハ他ノ形式ノ穀物管理ニ席ヲ讓ルベク其ノ終末ヲ見ルベシ。

瑞西ト等シク諾威ニ於テモ亦專賣問題ハ國家專賣ヨリ非專賣的解決策へ、非專賣的解決策ヨリ再ビ低

度ノ專賣へト循環運動ヲ爲セルモノナリ。何故ナラハ「クリステンゼン」案ノ採用自體ハ或程度ニ於ケル經濟生活ノ強キ干涉ヲ意味セルヲ以テナリ。

諾威ノ現存經濟機構ニ對スルコノ干涉ガ如何ナル範圍ニ於テ基礎ヅケラル、ヤ將又一部ノ戰時心理ガ尙作用シツ、アリヤ否ヤハ此ノ際研究スルハ之ヲ止メン。

「スチエダ」教授ガ其ノ端西ノ穀物專賣ニ關スル論文ニ於テ專賣ハ國民經濟的關係ニ於テハ其ノ重責ヲ果シタリト結論セシハ蓋シ尙早ノ嫌アリ。

教授ノ期待セシ如クニハ栽培面積及收穫ハ發展セザリキ。價格變動ハ必ズシモ常ニ國民經濟的見地ヨリシテ歡迎スベキ過程ヲ採ルコトナク「スチエダ」教授ニ從ヘバ特ニ獨逸ニ於テ屢々訴ヘラル、トコロノ、カノ厭フベキ虛禮——例ヘバ「パン」用穀物ヲ家畜ノ飼料ニ充ツルガ如キ——ハ專賣ノ實施中端西ニ於テスラ免レザル處ナリキ。

國庫ガ穀物專賣實施ノ爲メ蒙ラザルヲ得ザリシ現實ノ損失ヲ確ムル事ハ蓋シ至難ナルベシ。然レドモ專賣ニ因リ穀物供給ノ或ル確實性ガ生ジ、農業ニ對シテ少カラザル補助手段ノ與ヘラレタルノ事實ハ之ヲ認メザルヲ得ザルナリ。

諾威穀物專賣ニ對シテモ同様ノ見地ヲ採リ得ベシ。諾威ニ於テモ亦國民經濟的ニ厭フベキ價格變動、事務清算上ノ困難及國庫ノ日常ノ損失、管理ノ不可能性等存ゼシナリ。專賣ノ長所ハ瑞西ニ於テ概論

セシト同一方向ニ存シタリ。尙ホ諾威ノ小麥作ノ増加シタルハ之ヲ專賣ニ歸シ得ベシ。威程專賣經濟ノ國民經濟的長所ハ其ノ短所ヲ相殺シ得ルモノニ非ズト爲スハ誤レリ。然レドモ事情ヲ包括的ニ觀察セシガ此處ニ吾人ノ研究セルニケ國ニヨリ、其自體實ニ疑問ナル改革ノ、注目スベキ事例ハ與ヘラレタルモ、而モ外國穀物貿易專賣制ノ實施ニ依リ、國內生産ノ調節ヲ、總國民經濟ニ有利ナル方法ニ於テ爲サントスル思想ノ正當性ニ對スル證明ハ決シテ與ヘラレタルモノニ非ズト云ヒ得ベシ。

經濟政策ノ此ノ領域ニ於ケル兩國ノ經驗ガ獨逸ニトリテ價值アリヤ否ヤ及如何ナル範圍ニ於テ價值アリヤニ就キテハ——糧食及農業省ノ記錄ノ既ニ取扱ヒタル問題——他日之ヲ論述スベシ。

第七 諾威ニ於ケル國內穀物ノ供給ニ關スル

一九二六年六月二十五日ノ法律

朕諾威國王「ハーコン」ハ一九二六年六月十六日王國議會ノ決議ヲ經タル左ノ法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 穀物及其ノ製粉產物ノ輸入

第一條 小麥、ライ麥、大麥、燕麥並同上製粉製產物及其ノ一種又ハ二種ヲ主成分トスル穀物又ハ製粉產物ノ混合物ハ國及本法ニ依リ其ノ輸入特許ヲ得タル者ノ外ハ之ヲ王國內ニ輸入スルコトヲ得ズ。輸入業者ニ關シ本法ニ依リ又ハ本法ニ從ヒテ定メタル同様ノ規定ハ亦之ヲ國ノ穀物及製粉ノ輸入業務ニ適用ス。

第二條 小麥、ライ麥、大麥並同上製粉產物ノ輸入特許ハ本法ニ依リ其ノ輸入希望ノ數量ニ相當スル諾威產穀物(燕麥ヲ除ク)ノ數量ヲ國ヨリ購入シタル證明ヲ有スル者又ハ輸入ニ依リテ生ズル購入義務ニ付認定ノ保證ヲ有スル者ニ對シテ之ヲ與フルモノトス。

若シ特別ノ事情ニ依リ更ニ其ノ條件ヲ必要トスルトキハ國王之ヲ規定ス。

第三條 燕麥及其ノ製粉產物ノ輸入ハ一般ニ之ヲ許可セズ但シ當該官廳ガ輸入燕麥相當量ノ諾威港渡シ關稅込價格ヨリモ著シク高價ヲ以テスルニ非ラザレバ諾威產燕麥ノ所要量ヲ購入シ難シト思惟スルトキハ其ノ輸入禁止ヲ解除スルコトヲ得。

第四條 國王ハ凶年ノ如キ特別ノ事情アルトキハ第三條規定ノ效力ヲ一時停止スルコトヲ得、國ノ購入義務中ニ含ム當該種類ノ諾威產穀物ノ數量ニ對シ輸入業者トノ協定ニ依リ其ノ販賣ニ付安全ノ保證ヲ得タルトキハ更ニ第二條規定ノ效力ヲモ一時停止スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ協定ノ期間ヲ超過スルコトヲ得ズ。

國王ガ便宜購入義務ヲ製粉業者ノミニ課シ得ベシト思惟シ且製粉業者ガ製粉産物ノ輸入業者ニ比シテ其ノ購入義務ノ負擔以上ニ於テ保護ヲ享クルモノト思惟スルトキハ國王ハ前同様小麥、ライ麥又ハ大麥ノ製粉産物輸入業者ニ對シ諾威産穀物ノ購入義務ヲ免除スルコトヲ得。

當該官廳ハ第二條及第三條ノ規定ニ拘ハラズ種子用穀物及油粕ノ輸入ヲ許可スルコトヲ得。

其ノ他ノ場合ニ於テモ官廳ハ特別ノ事由ニ依リ必要トスルトキハ第二條ノ規定ニ依ル購入義務ノ要求ヲ變更若ハ全廢スルコトヲ得。

第五條 第一條乃至第三條ノ規定ハ國王ガ更ニ定ムル所ニ依リ同條ニ掲ゲタル商品カ通過貨物トシテ王國內ノ通過輸送セラル、コトヲ妨ケズ。

國境貿易ニ關シテハ國王ハ前條項ニ掲ゲタル輸入ニ關スル規定ノ變更ヲ爲スコトヲ得。

第二章 國ノ内國産穀物ノ購入

第六條 國ハ本法ニ依リ毎年定ムル所ノ期間及價格ハ於テ其ノ申込ヲ受ケタル小麥、ライ麥及大麥ノ食糧ニ適スル總テノ諾威産穀物ヲ購入スベシ。

尙本法第三條中燕麥ノ購入ニ關シ定メタル價格ニ依リ本法ニ從ヒ良品質ノ燕麥ノ申込ヲ受ケタルトキハ國ハ更ニ國王ノ定ムル所ニ諾リ毎年諾威産燕麥一五、〇〇〇噸以上ノ購入ヲ爲スベシ。

國カ諾威産小麥、ライ麥及大麥ノ購入ヲ爲ストキハ其ノ一等品ニ對シテハ本法ノ規定ニ依リ少クモ輸入一等品ニ對スル關稅ヲ込メザル諾威港渡シ價格ヲ以テ支拂フベシ、一等品以下ノモノニ付テハ其ノ價格ニ對シ相當ノ割引ヲ爲ス。

尙同上穀物每珎ニ付四「エーレ」ノ穀物補助金ヲ與フベシ、購入義務ハ穀物栽培者又ハ當該官廳ノ認可ヲ得タル定款ニ依リテ設立シタル穀物生産者組合カ穀物ノ申込ヲ爲シタル場合ニ限り發生ス。

第七條 國ノ購入シタル諾威産穀物ハ總テノ國立倉庫、各鐵道驛及汽船又ハ發動船ノ各定期寄港地ニ於テ同一價格ヲ以テ之ヲ受入ル、モノトス。

遠隔ノ地ヨリ此等ノ場所ニ至ル運送ニ付テハ更ニ國王ノ定ムル規則ニ依リテ補給金ヲ支拂フ。

第三章 自家用穀物栽培者ニ對スル穀物補助金

第八條 栽培者ガ自家用ノ爲其ノ食糧ニ適スル様搗キタル諾威産小麥、ライ麥又ハ大麥ニ對シテハ所要ノ規定ニ依リテ請求スルトキハ國庫ヨリ每珎ニ付四「エーレ」ノ穀物補助金ヲ交附スルモノトス但シ其ノ家族一人ニ付一箇年二〇〇珎ヲ超過スルコトヲ得ズ。

穀物栽培者ハ更ニ當該官廳ノ定ムル規定ニ從ヒ其ノ作物及家族ノ數ニ關シ所要ノ報告ヲ爲スノ義務ヲ有ス。

穀物補助金ハ當該官廳ノ認メタル製粉所ニ於テ搗キタル證明ヲ有スル者ニ限り之ヲ支給ス。
尙同支給金及管理並家族數ノ構成ニ關スル規定ハ國王之ヲ定ム。
穀物補助金ハ當該年度末ヨリ三箇月以内ニ於テ支拂ノ請求ヲ爲サバルトキハ無効トス。
他ノ穀類ノ栽培特ニ困難ナル特定地方ニ於ケル燕麥ニ對シ本條項ニ從ヒ穀物補助金ノ適用ヲ爲スベキ條件ニ付テハ國王之ヲ規定ス。

第四章 穀物ノ貯藏

第九條 內國ニ於ケル收穫豫想高及個人持高ヲ考慮シ且ツ戰時ニ於テハ嚴ニ消費ヲ節約スルノ方法ニ依リ常ニ一箇年ノ需要ヲ充實スルノ目的ヲ以テ諾威產穀物ヲ主トスル穀物倉庫——國內ニ互リテ適當ニ分布セシメタル——ヲ漸次建設スルノ計畫ヲ爲スベシ。
貯藏穀物ノ一部ハ種子用トシテ精選セル種類別ニ於テ之ヲ保存スベシ。
王國議會ハ本法ニ於テ豫メ指定シタル所ニ依リ其ノ一箇年ノ需要高ヲ定ムルノ方法及貯藏ノ件ヲ如何ニ處理スベキヤヲ決定スベシ。

第五章 國ノ穀物販賣及運送費ノ調節

第十條 諾威產一等種ノ小麥、ライ麥及大麥ハ輸入穀物一等品種ノ諾威港渡シ價格ヲ以テ國ヨリ之ヲ穀物及其ノ製粉產物ノ輸入業者ニ販賣スルモノトス、同上價格ハ關稅込トシ且一般ニ於テハ同時ニ買入ル、總テノ購買者ニ對シテ同一價格トス、之ヨリモ劣等品ニ對シテハ相當ノ割引ヲ爲ス、地方ノ製粉所ニ對シテハ輸入業者ヨリモ多少低價ヲ以テスベシ、燕麥ノ販賣ニ關スル規定ハ國王之ヲ定ム。

第十一條 諾威產小麥、ライ麥及大麥ハ一般ニ於テハ別ニ運賃ヲ增加セズシテ購入者ノ最寄ノ鐵道驛又ハ汽船若ハ發動船ノ定期寄港地ニ於テ國ヨリ其ノ引渡ヲ爲ス、特別ノ場合ニ於テハ當該官廳ノ定ムル所ニ依リ前記以外ノ場所ニ於テモ亦同一價格ヲ以テ之ガ引渡ヲ爲スコトヲ得、小麥、ライ麥及大麥ノ製粉產物及同上種類ノ輸入穀物ノ鐵道驛又ハ汽船若ハ發動船ノ定期寄港地ニ至ル內國運賃及此等ノ場所ヨリ其ノ以外ノ地方ニ至ル同運賃ニ付テハ更ニ王國議會ノ定ムル規定ニ從ヒ之ヲ定ムベシ。

第六章 國立穀物局

第十二條 國立穀物局ハ之ヲ「オスロ」ニ置ク、同局ハ局長及理事會其ノ職務ヲ行フ、局長ハ國王之ヲ任命シ其ノ相互解職ノ豫告期間ハ六箇月トス、理事會ハ理事長タル局長ノ外四名ノ理事ヨリ成リ內二

名ハ熟練ナル穀物農業者及他ノ二名ハ熟練ナル穀物輸入業者ニシテ國王之ヲ任命シ其ノ一任期ヲ四箇年トス、當初任命ヲ受ケタル者ノ内二名ハ二箇年ノ經過後抽籤ニ依リテ退職ス、其ノ内一名ハ穀物農業者、他ノ一名ハ穀物輸入業者トス、各理事代理ノ任命及退職ハ同様ノ方法ニ依ル。

第十三條 國立穀物局日常ノ事務ニシテ特ニ緊急ヲ要セザルモノハ局長其ノ必要ナル局員ノ補佐ニ依リテ之ヲ處理ス。

局員ハ當該官廳又ハ其ノ權限ヲ委セラレタル者之ヲ任命シ其ノ解職ノ豫告期間ハ三箇月以内トス。局員ノ俸給及理事會ノ報酬ハ王國議會之ヲ定ム、同局ノ職員ハ一九一八年二月十五日ノ官吏職務法ノ支配ヲ受ケザルモノトス。

第十四條 國立穀物局理事會ノ職務ハ左ノ如シ。

- 一 當該官廳ガ穀物及其ノ製粉產物間ニ定メタル數量の割合ニ從ヒ國ノ輸入スル穀物及其ノ製粉產物ト國ノ購入スル諾威產穀物トノ割合ノ基礎的數量ヲ定メ且購入穀物ノ輸入業者間ニ於ケル分配ノ規則ヲ定ムルコト。
- 二 其ノ規定ヲ爲スヲ可トスルトキハ國立穀物局ニ於テ行フ各購入及販賣ノ最小數量ヲ定メ且輸入業者ニ見込メル割當數量ト同局ノ販賣スル穀物數量トヲ適度ニ充實スルコト。
- 三 更ニ國ノ諾威產穀物ノ購入及販賣ニ關スル規定ヲ設クルコト——穀物引渡ノ時期、方法及場所

ヲ茲ニ規定スルコト。

四 品質等級、其ノ各種價格及價格適用ノ期間ヲ確定スルコト。

五 國立穀物局ニ穀物ノ購入義務ヲ負ハシムル爲同局ニ對スル諾威產穀物ノ申込ヲ爲スベキ期間ヲ定ムルコト。

六 其ノ他ニ付テハ國王ノ發スル訓令ヲ遵守スルコト。

第七章 上訴ノ場合

第十五條 本法ニ掲ケタル物品ノ輸入、又ハ諾威產穀物ノ賣買ニ依ル品質ノ査定及價格ノ割引若ハ穀物補助金ノ件ニ關シ國立穀物局ト輸入業者、穀物販賣者又ハ穀物購入者トノ間ニ起リタル爭議ヲ決定スル爲國王ハ三個以上ノ常設控訴裁判所ヲ設ク、同裁判所ハ三名ヨリ成リ一名ハ法律家ニシテ裁判長トシ他ノ二名中一名ハ熟練ナル穀物農業者、一名ハ熟練ナル穀物取引業者トス、前記三名ノ各代理ハ同一ノ方法ニ依リテ任命ス、控訴裁判所ハ「オスロ」「スターヴァンガー」及「トランエム」ニ各一個ヲ置ク、國立穀物局ト輸入業者間ノ爭議ハ「オスロ」控訴裁判所ノ管轄トス。

國王ハ控訴裁判所ノ事務及其ノ各管轄區域ヲ定ム、控訴裁判所ニ提出セントスル國立穀物局又ハ其ノ理事會ノ決定書ハ當事者ニ交附セラレタル後四週間以内ニ於テ之ヲ裁判長ニ差出スコトヲ要ス、

捺訴裁判所ノ報酬ハ國王之ヲ定ム、其ノ職務ノ執行ニ關スル費用ハ普通國王ヨリ之ヲ支給ス但シ相當ノ事由ナクシテ控訴裁判所ノ判決ヲ求ムル者ニ對シテハ事件ノ審理ニ關スル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得。

第八章 雜 則

第十六條 各製粉所及海外ヨリ穀物又ハ其ノ製粉產物ヲ輸入スル者ハ國立穀物局ノ請求アリ次第之ニ其ノ輸入、及穀物又ハ其ノ製粉產物ノ各自在荷高ニ關スル報告ヲ提出スルノ義務ヲ有ス。

前項ニ依リ提出シタル報告ハ穀物局及其ノ他本法執行ノ責任ヲ有スル官廳（此等ノ内ニハ前記ノ控訴裁判所ヲ含ム）以外ニ於テ之ヲ利用スルコトヲ得ズ。

該報告ヲ知リタル者ハ其ノ秘密ヲ守ルノ義務ヲ有ス。

前項ニ拘ハラズ該報告ハ之ヲ統計ノ目的ニ使用シ且統計様式ニ於テ公表スルコトヲ得。

第十七條 國王ハ本法ノ監督及執行ニ關シ必要ト思惟スル規定——又必要トスル經過規定——ヲ定ム

第九章 罰 則

第十八條 本法第一條、第八條又ハ第十六條若ハ本法ニ從ヒ定メタル總テノ規定ニ違反シタル者ハ其

ノ事反ニ對シ他ニ本罰則ヨリモ重キ條項ノ適用ナキ場合ハ一〇〇、〇〇〇・〇〇〇「クラウン」ノ罰金又ハ三箇月以内ノ禁錮ニ處ス。

本法又ハ本法ニ從ヒ發布シタル規定ニ違反シテ輸入シタル物品又ハ其ノ相當金額ハ違反者又ハ其ノ行爲ヲ爲シタル代理者ヨリ之ヲ沒收ス。

第十章 附 則

第十九條 本法ハ一九二七年七月一日以前ニ於テ國王裁可ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ズ。

第八 瑞西ニ於ケル穀物專賣ノ研究

瑞西ニ於テハ戰時中穀物專賣實施セラレ戰後モ引續キ行ハレ來レルガ一九二六年末ニ至リテ國民投票ノ結果之ヲ廢止スルニ至レリ。「オットウ・スペルリツヒ」氏ハ「エルスター」ノ經濟統計年報第百二十五卷ニ於テ瑞西ニ於ケル穀物專賣ニ關シ戰前戰時及戰後ノ專賣問題及專賣ノ成績ニ付大要左ノ如ク論述セリ。

一 戰前ニ於ケル專賣問題

國家ノ穀物專賣ノ思想ハ十九世紀ノ末葉瑞西ニ於テ屢々現ハレシ所ナルモ此等ノ思想並ニ建議ノ遂ニ

實行ヲ見ルニ至ラザリシハ一ニハ其ノ動機が薄弱ニシテ經濟生活ニ對スル、カ、ル干涉ヲ正當ナラシムルニ足ラズ、又一ニハ、シカク永續のナラザリシニ因ルモノナリ。

「パン」ノ價格ニ關スル政争ノ爲メ聯邦事務ノ難澁ニ陥ルヲ避ケンガ爲メニ聯邦政府ニ於テモ亦多クノ場合穀物專賣ノ實行ニハ意識的ニ反對シ來レリ。

然レドモ總テノ、カ、ル疑惑ハ戰爭ノ勃發以後瑞西國民ニ對スル「パン」供給ノ甚大ナル不安ガ生ズルヤ一掃セラレザルベカラザリシナリ。況ンヤ戰前十年間逐年増加シツ、アリシ外國穀物ノ輸入ニ頼リ居シ瑞西ニ於テオヤ。

事實上ノ推移ノ理解ニ資センガ爲メ專賣並ニ其ノ結果ヲ論述スルニ先チ一九一四年前ノ状態並ニ專賣思想ニ關スル思潮ヲ説明スベシ。穀物ノ耕作面積ノ總計左ノ如シ。

一八八八年	約二三八、〇〇〇ヘクタール
一九〇〇年	約二二二、〇〇〇ヘクタール
一九〇五年	約一三四、〇〇〇ヘクタール
一九一四年	約一〇〇、〇〇〇ヘクタール

穀物ノ栽培ハ一八八八年ヨリ一九一四年ノ間ニ約五七、九%ノ減少ヲ見タリ。「パン」用穀物ノミノ栽培面積ヲ見ルニ其ノ減少尙ホ甚ダシキモノアリ。瑞西ノ自國生産ハ一九世紀ノ中葉ニ至ル迄ノ間ハ二九〇日乃至二九五日間自國內ノ需要ヲ充タシ得タルニ係ラズ二〇世紀ノ初頭十年ニ於テハ自國生産ノ

供給ヲ以テシテハ唯僅カニ六〇日乃至七〇日間ノ需要ヲ充タシ得ルニ過ギザル状態ナリキ。(註一) 故ニ瑞西ハ其ノ需要ノ約六分ノ五ハ之ヲ外國ニ仰ガザルベカラザリシヲ以テ「パン」ノ供給ニ關シテハ恰モ英國、「ベルギー」並ニ和蘭ト同一ノ状態ニ在リキ。

(註一) 瑞西ノ農民秘書課ハ次ノ如キ事實ノ報告ヲナシホレリ。

瑞西ニ於ケル穀物ノ消費、輸入、國內生産(單位 Doppelzentner = 100 kg)

年	平均	全消費	輸入	Proz	國內生産	Proz
一八七六—一八八五年	四、八一四、〇〇〇	二、六八四、〇〇〇	五五・七五	二、一三〇、〇〇〇	四四・二五	
一八八六—一八九五年	五、〇五九、〇〇〇	三、三五五、〇〇〇	六六・三	一、七〇四、〇〇〇	三三・七	
一八九六—一九〇五年	五、五二六、〇〇〇	四、二二〇、〇〇〇	七五・〇	一、四〇六、〇〇〇	二五・〇	
一九〇六—一九〇七年	五、九六四、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	八三・八	九六四、〇〇〇	一六・二	

瑞西國內ニ於ケル「パン」供給ノ不安ガ重大ナル形態ヲトルニ至リ穀物供給ノ問題ハ殊ニ聯邦ヲ惱スニ至レリ。最モ緊要ナル需要、殊ニ軍隊ノ爲メノ需要ハ倉庫ノ貯藏品ヲ以テ之ヲ確保セント試ミタリ。尙ホ供給問題解決ノ爲メ諸種ノ方法ノ提案サル、所アリタリ。

一九一二年ニ於ケル此ノ一般的不安ナル状態ヨリシテ六月ノ國民會議ニ於テ議員「バーマー」氏ハ左ノ如キ動議ヲ提出スルニ至レリ。即チ、曰ク「瑞西ノ増加セル穀物供給ニ對シテ吾人ハ如何ナル方策ヲ採ルベキカニ關シ可及的ニ早ク調査シ建議スル爲ニ聯邦參議院ヲ招集スベシ」此ノ動議ハ猛烈ナル討論ヲ惹起セルモ實際ニ於テハ左ノ諸提案ノ討議セラレタルナリ。

- (1) 交通路ノ改良
- (2) 國內ニ於ケル穀物及穀粉貯藏ノ獎勵
- (3) 聯邦ノ貯藏ノ増加
- (4) 穀物專賣ノ實施
- (5) 保護關稅又ハ獎勵金ニ依ル國內生産ノ振興

戰前二年前ニ於ケル此ノ問題ニ對スル瑞西國民ノ態度ヲ知ルハ蓋シ無意味ノ事ニ非ザルベシ。(1)、(3)、(5)、ノ諸案ハ此ノ際之ヲ省略セン。

國內ニ於ケル穀物並ニ穀粉ノ貯藏ノ獎勵ニ關シテハ其ノ實行ハ大略次ノ如クニ考ヘラレタリ。即チ聯邦ハ全國ニ平等ニ分配サレタル一定數ノ製粉所ト契約ヲ締結シ此等ノ製粉所ハ利子上ノ損失及保管料ノ賠償ヲ受クル對價トシテ常ニ一ツノ穀物及穀粉ノ最小倉庫ヲ保有スベキ責任アルモノトスト言フニアリ。此ノ案ノ實現ニ因リ同盟倉庫ニアリテハ高キ保管料ハ避ケ得ラレ又取引機關ヲ排除スルノ結果運賃ハ節約セラレ戰時ニアリテハ時間ノ節約ヲ期シ得ベシト主張セラレタリ。

尙又財政上ノ點ヨリ謂フモ此ノ案ハ有利ナリトセラレタリ。穀物專賣ト言フ特ニ興味アル問題ニ就テ一九一二年ニ至ル迄ハ如何ニセバ最モ合目的のニ之ヲ完成シ得ルカニ關シ十分ナル觀察ノ存スルナク寧ロ各政黨ハ單純ナル態度モテ満足シ一見從前ノ提案殊ニ一九〇八年「ミレー」教授ノ爲セル提案ヲ支

持セルガ如クナリキ。即チ之ヨリ先キ聯邦參議院ハ獨逸トノ穀粉關稅爭議(註二)ノ際ニ瑞西「アルコール」專賣局長官「ミレー」教授ニ穀物專賣法案ノ起稿ヲ委任セリ。

一九〇九年ノ初頭聯邦參議院ハ此ノ草案討議ノ爲メ農業、商業、製粉業、「パン」製造業及消費組合ノ各代表者ヨリ成ル專門家委員會ヲ任命シタルモ討論ノ結果タルヤ瑞西側ハ幾分不滿ナリシモ穀粉關稅問題ニ於テハ獨逸トノ調停成立セリト見ルノ外ナカルベシ。斯クテ專賣運動ハ自然消滅ニ歸セリ。

(註二) 獨逸商人ハ輸出獎勵金並ニ輸入免狀制度ノ結果瑞西ノ製粉所ヨリモ穀粉百「キロ」ニ付キ約五乃至六フラン方安價ニ供給スルヲ得タリ。

獨逸關稅ノ實施後殊ニ一九〇八年以後ハ瑞西ノ穀粉輸入ハ激増シ世論囂々遂ニ一九〇八年六月二〇日瑞西國民會議ノ處理セル、「シエラフエーレマン」ノ勸議ヲ見ルニ至レリ。

此ノ勸議ノ要旨ハ瑞西ノ「パン」供給ニ必要ナル穀物及穀粉量ヲ輸入スル絶對權ヲ聯邦ニ與フベシト謂フニアリキ(瑞西ノ立場ヨリセル穀粉關稅問題ノ詳細ナル説明ハ「エツチ、ジ、イグナー」ノ論述「チユウリツヒニ於ケル穀物取引所及瑞西ノ穀物貿易」參照)

「ミイレ」氏ノ法律草案ハ彼自ラモ強調セルガ如ク本質上社會民主的傾向ニ屬スルモノナリ。彼ハ穀物及製粉所生産品ノ純然タル國家的專賣ヲ要望シ大部分ノ穀物ヲ磨碎スベキ三個ノ國家製粉所ノ外私的製粉所ノ特許ヲ要求シ事業資本ハ之ヲ公債ヲ以テ充ツベシト爲セリ。然ラバ各利害關係者ノ事態ニ

對スル態度ハ如何、農業ノ代表者トモ云フベキ瑞西農民團體ノ見解ノ要旨左ノ如シ(註三)。

『農業者ハ專賣ノ新ナル實施ニ好意ヲ有スルモノニ非ズ。只重大ナル理由ノミ彼等農業者ヲシテ穀物專賣ノ味方タラシムベシ。(註四)即チ其ノ理由トハ(a)專賣ノ消費者ニ對シテ有スル意味(「パン」供給ノ確保)(b)專賣ニ因ル農業ノ向上(c)製粉業ノ維持之ナリ』一九一二年ニ於ケル農業ノ態度モ右ト何等異ル所ナシト云ヒ得ベシ。即チ專賣ニ因リ農業ガヨリ高キ價格ヲ獲得シ得ベシトセバ敢テ專賣ニ反對ハセザルベシト云フニアリタリ。』

(註三) 農民團體ノ報告(一九〇八年)「瑞西穀物並ニ製粉專賣ノ實施ト農業」

(註四) 一八九三年瑞西農業組合中ノ「バーセルスタット、リーエン、アーレシヤイム」及「バーセルラント」ノ農業組合ガ動議ヲ提出シ聯邦長官ハ瑞西穀作ノ收力力ハ小麥ノ輸入並ニ製粉業ヲ國家化シ以テ「パン」ノ價格ヲ引上ゲザルモ増加サレ得ルモノナリヤ否ヤノ問題ヲ調査スベシト爲セルハ蓋シ興味深シ。加之「グートランド」ノ穀物生産者モ亦之ニ類似セル問題ヲ提出セリ。斯ケテ瑞西農民聯合ノ代表者會議ハ一八九五年二月最モ徹底的ナル糧食經濟、穀物專賣ノ實施、生産費ヲ補フ價格ニヨル瑞西收穫ノ買上ヲ要求セル決議ヲ一致可決セルモ此ノ動議ハ一八九六年聯邦議會ニ依リ否決サレタリ。農民ガ斯ル動議ヲ爲セル理由ハ一八九一乃至一八九五年ニ至ル穀物價格ノ法外ナル下落ニ之ヲ求メ得ベシ。何故ナラ穀物ノ價格ノ騰貴ト共ニ專賣運動ハ鎮靜ニ歸シ農民ハ聯邦議會ノ否決ト妥協セルヲ以テナリ。

一九〇八年ノ專賣運動ハ實ハ製粉所ヨリ生ゼルモノナリ。瑞西聯邦參議員ハ一九〇八年六月瑞西製粉所ニ穀物專賣ハ穀物專賣無クモ可能ナリヤ、又此ノ穀物專賣ハ之ヲ販賣ニノミ局限スベキモノナリヤ否ヤニ關スル意見ヲ求メタリ。

尙ホ又「パン」製造並ニ價格統制ノ問題ニモ觸ル、所アリタリ。同年九月次ノ如キ答申ノ聯邦ニ送達ナル、處アリタリ。即チ曰ク『製粉業者ハ決シテ專賣ヲ主張スルモノニ非ズシテ寧ロ獨逸ノ穀粉輸入ノ破滅的ナル結果ヨリ製粉業ヲ保護スル他ノ手段、例ヘバ適當ナル保護關稅ニ同意スルモノナリ。吾等ガ穀物專賣思想ヲ信任セシハ、一ツニ穀物ノ專賣ニヨリ從來存セシ非難即チ製粉所ノ「パン」ノ高利貸ナリト云フ非難ノ一掃サル、所アルガ故ナリトス。聯邦參議院ノ質問ニ對シテ團體ハ次ノ如ク答ヘテ曰ク『穀物專賣ト穀物專賣トハ同時ニ行フベキ制度ニシテ只賣買ヲノミ統制スベキモノナリトス。買上ハ買上委員會(專賣所ノ官吏、國立倉庫ノ監督官、及數名ノ製粉業者ヨリ成ル)ニ磨碎ハ現字ノ製粉所ニ各々適當ナル賠償ヲ爲シテ之ヲ讓渡スベキモノトスト「パン」製造並ニ「パン」價ノ統制如何ノ質問ハ否決サレタリ。』

製粉業者ハ二重ノ意味ニ於テ專賣ニ關係ヲ有ス。一ハ專賣ヨリ生ズル凡テノ利益ヲ有スル國家ノ供給者タリ得ルノ可能性ニシテ、他ハ穀物輸入ノ咽喉ヲ十分ニ扼シ得ルノ可能性之ナリ。就中後ノ要素ハ穀粉關稅爭議ニ關シテ一九〇八年ノ製粉業者ヲシテ穀物專賣ノ思想ニ親シマシメタル決定的ナルモノナリキ。何故ナラバ後ニ再ビ專賣問題ノ發生セル際ニ於テハ製粉業者ノ好意ハ著シク減少シ居ルヲ以テナリ。

穀物商人ガ專賣ノ明白ナル反對者タルハ當明ノ事タルベシ。何故ナラバ彼等ハ獨占經濟ノ實施ニ因リ

彼等ノ經濟的活動ハ大イニ局限セラレ彼等ノ存在ハ危殆ニ陥ルベシト思考セルヲ以テナリ。即チ曰ク「彈力性アル自由取引ノミガ最モ容易ニ國民經濟ニソノ必需品ノ凡テヲ供給シ得ベキモノナリト」而モ商人側ヨリシテ穀物取引ヲ特許スベシトノ提案ノ再度爲サレタルハ蓋シ注目ニ値スベシ。其ノ一ハ特許ニ「バン」供給確保ノ爲メ一定ノ穀物倉庫ヲ維持スルト云フ條件ヲ附スベシト云フ提案ニシテ他ハ國家ノ代リニ組合ニ專賣權ヲ與フベシトナスモノナリキ。組合ハ最早其レ以上擴張力ナキ一定數ノ商人及無制限ニ常ニ増加シ得ル生産組合並ニ消費組合ニ屬スベキモノトセリ。第一案ハ今ヤ成立セル專賣思潮ヲ時機ヲ失セズシテ承認センカ取引ノ賢明期シテ待ツベク自由取引ハ全ク廢止セラレ得ベシト云フ思想ヨリ生ゼルモノニシテ第二案ハ瑞西消費組合長「ベージヤギ」氏ノ提出セルモノナルモ專賣ト消費組合トノ對立ヲ橋渡シセントセル妥協ノ痕跡歷々タルモノアリ。農民製粉業者、商人等ガ各自ノ經濟的利益ヲ代表シ其ノ各自ノ組織ニ賴リ得ルニ反シ消費者ハ此ノ利益ヲ有セズ。故ニ數學上勞働者ニ依リ最モ強ク代表サル、消費者側ノ利益ガ自己ノ困窮又ハ願望ヲ陳情スル爲政黨ヲ利用スルニ至ルハ蓋シ當然ノ事タルベシ。

斯クテ專賣問題ハ社會民主黨ノ中ニ常ニ強キ反響ヲ見出シタリ。然リ穀物輸入ノ國家化ノ要求ハ瑞西ニ於テモ亦社會民主主義者ニ依リ最モ屢々爲サレタル處ニシテ、殊ニ勞働市場ノ狀態又ハ穀物若クハ「バン」價ノ變動ガ勞働者ニ不利ナル場合ニ於テハ常ニ然リトス（註五）。其ノ論據トシテハ常ニ餘リニモ高價ナル穀價及「バン」價ガ引用サレ其レハ商人ノ思惑及製粉者ノ獨占運動トニ歸スベキモノトセラレタリ。此等凡テノ要求ヲ爲スニ當リ國家的企業ノ作用ハ宣傳材料トシテ大イニ利用サレタリ。戰爭ハ專賣問題ニ關スル凡テノ理論的思考ヲ中斷シ問題ハ一氣ニ展開セラレズ。其ノ解答ハ最モ迅速ナル行動ヲ必要トシタルナリ。或方面ヨリハ憧憬サレ他ノ方面ヨリ不用ナリトセラレタル穀物專賣ハ遂ニ實現サル、ニ至レルナリ。

（註五） 就中一八七八年「チューリッヒ」州ニ於テ穀物取引ノ國家化ニ關スル動議提出セラレ一八七九年五月國家ハ穀物取引ヲ手中

ニ納ムベキヤノ問題ハ州ニ於テ投票ニ附サル、ニ至レリ。一六、六八九人ノ市民ハ賛成投票チ、二九八八四人ハ之ニ反對投票ヲ爲セリ。略同シ時ニ於テ「アベンチュエ」州ニ於テモ之ニ類似ノ動議ガ提出セラレタルモ亦否決セラレタリ。

二 戰時及戰後ノ穀物專賣

（一） 戰爭初期ニ於ケル措置

一九一四年八月三日聯邦參議院ハ瑞西ノ保全、清廉及中立ノ主張上及信用又ハ土地ノ經濟的利益ノ保護上、殊ニ生活維持ノ確保上必要缺クベカラザル規準ノ制定ニ關スル無制限ナル全權ヲ賦與セラレタリ。斯クテ聯邦參議院ハ穀物事務所ノ設置ヲ制定シ之ニ委任スルニ現存食糧貯藏品ノ管理及聯邦ノ計算ニ於テスル穀物ノ買入及販賣ヲ以テセリ。

一九一五年一月九日聯邦參議院ノ決議ニ依リ穀物ノ輸入ハ聯邦事務タル事ガ聲明サレ——コハ事實上既ニ成立セル輸入獨占ヲ形式的ニ確定セルノミ——同年八月ノ國家ノ管理ハ國內產穀物ニモ及ボサルルニ至レリ。一九一六年八月ニハ飼料材料輸入ノ專賣トセラル、アリ。戰時中ニ於ケル個々ノ強制手段、照準、企圖 意見ヲ枚擧スルハ此ノ際之ヲ廢シ只專賣問題ニ於ケル思想傾向ヲ大略指示セルモノト見ラベキ二個ノ提案ニ論及スルニ止ムベシ。

(二) 穀物專賣ノ提案

「チューリツヒ」ニ於ケル瑞西製粉業者團體ハ一九一五年一ツノ請願書ヲ起草セルモ之ハ聯邦參議院ニ提出サル、ニ至ラザリキ。此ノ請願書ニ於テハ製粉所及「パン」用穀物ノ輸入ノ特許制度ガ次ノ如キ見地ヨリ提案サレタリ。即チ小麥、ライ麥、及獨逸小麥ノ輸入ハ只特許ニ依リテノミ行ハル。

外國穀物ノ磨碎ハ或一定ノ年限ヲ限リ之ヲ適當ナル製粉所ノ權限ニ屬セシムルモノトス。製粉所ハ常ニ聯邦ノ管理ノ下ニ國內ニ於ケル年磨碎數量ノ少クトモ三分ノ一ハ之ヲ倉庫ニ維持スルノ責任アルモ瑞西ノ國立銀行ニ依リ財政的ニハ援助ヲ受クルモノトス。(穀物並ニ穀粉貯藏量價值ノ九〇「パーセント」迄ノ低廉ナル利率ニ依ル貸付)外國ノ競争ニ對スル負擔ヲ補償スル爲メ穀粉關稅ノ外ニ尙ホ特別特許料ヲ設クルモノトス。一九一五年ノ「ジャツギー、バーゼル」氏ノ草案ハ三千萬佛貨^{フラン}ノ創立資本ヲ有スル組合ノ設立ヲ要求セリ。其ノ資金ノ過半數ハ聯邦ニ於テ必ズ之ヲ引キ受クベキモノトセリ。一

九一四年八月一日以前ニ於テ既ニ穀物及穀粉生産品ノ購買、卸賣又ハ利用ニ從事セシ聯合州、地方、團體、生産者組合、消費者組合、尙進ンデハ個人ハ組合員タルベク又ハ組合員タリ得ルモノニシテ一般國民經濟ノ利益ノ爲メニスル合理的ナル穀物穀粉並ニ「パン」ノ供給ハ組合ノ指導動機タラザルベカラザルモノトス。扱テ次ニ事實ヲ述ブベシ。

(三) 一九一四年以來ノ國家的穀物專賣

既ニ説明セルガ如ク國家ハ戰爭勃發後直ニ土地生産品ノ供給ヲ確保スル爲メ經濟組織ニ干涉セリ。即チ諸種ノ事情ヨリシテ結局一九一五年聯邦參議院ノ決議ニヨリ形式的ニ確立ヲ見タル輸入ノ獨占ガ行ハレタリ。一九一八年九月此ノ陸軍省ニ屬セシ穀物事務所ハ戰時經濟的施設トシテ新設サレタル聯邦食糧局ノ所管ニ移サレタリ。一九二二年十二月ニハ此ノ食糧局ハ廢止セラレ一九二三年一月「パン」供給ノ職務ハ經濟省(農業部)ニ屬スル特別會計組織ノ管理部タル聯邦穀物所之ヲ行フニ至レリ。此ノ制度ハ一九二六年十一月ニ至ル迄存續セリ。假令概略的ニモセヨ組織ノ個々ノ相ニ互リ之ヲ説明スルハ此ノ研究ノ範圍ニ屬セザル處ナルヲ以テ戰時經濟的制度ノ分析ハ此ノ際之ヲ斷念シ只一九二一年三月三十一日ニハ王蜀黍及大麥ノ輸入(油渣餅^{アブラシメカス}及飼料材料ノ輸入ハ既ニ早ク解除サレタリ)及一九二一年八月一日ニハ燕麥輸入ハ完全ニ解放サレタルヲ謂フニ止ムベシ。小麥、ライ麥、「スベルツ」(穀粒獨逸小麥)ノ輸入及之等ノ穀類ヲ以テスル製粉加工品ノ輸入ハ依然トシテ專賣廳ノ事務ナリキ。(註六)

(註六) 一九二四年七月以後硬質小麥ノ輸入ハ之ヲ捏粉製造工業ニ直接使用スル義務ノ下ニ免除サレタリ。

(四) 活 動

瑞西穀物專賣ノ本質的ナ職能ハ輸入ノ監督及統制ニアリト考フ。從テ輸入數量ノ問題ガ必然的ニ之ト聯關セリ。何者ハ聯邦ハ一定量ノ内國產穀物ト共ニノミ外國產穀物ヲ製粉所及消費者ニ交付シタルヲ以テ内國產穀物ノ收納及管理ニ關スル凡テノ規準ガ強制的ニ專賣事務ニ屬スルモノトセラル、ニ至レリ。輸入ヲ最小限度ニ止メムトスル願望ハ一方ニ於テ國內農業ノ振興乃至維持ノ努力ヲ必ズ喚起セリ。斯クテ表面上直チニ現象トシテハ現ハレザルモ尙諸種ノ事柄ノ輸入獨占ニ伴ヘルヲ見ルナリ。多量ノ外國穀物ノ適當ナル時期ニ於ケル買上及管理可能ナル運送手段ノ利用ニ因リ聯邦ハ十分ナル貯藏品ヲ作ルヲ得タリ。一九一七年ノ半迄ハ專賣廳ハ自由市場ニ於テ其ノ穀物ノ需要ヲ充シ得タルモ一九一七年七月「アメリカ」ノ穀物市場ガ閉塞サル、ヤ、事態險惡ヲ告グルニ至レリ。世人熟知ノ如ク、「アメリカ」政府ハ同盟諸國及中立諸國ノ爲メニ穀物管理ヲ企圖シ爲ニ輸出ヲ監督スルニ至レリ。一九一七年十二月ノ巴里ヨリノ報導ニ依ルニ瑞西ハ一九一八年九月迄ニ二十四萬噸ノ「パン」用穀物ノ供給ヲ仰ガザルベカラザリキ。然レドモ船艙ノ缺乏ノ爲ニ供給ハ時トシテ中絶セリ。一九二〇年ノ四月以來專賣廳ハ再ビ自由市場ニ於テ購買ヲ行ヒ得ルニ至レリ。

一般ニ專賣廳ハ重大ナル理由——例ヘバ「アメリカ」ノ一九一七——八年ノ管理——ガ然ラシメザル限リ「パン」粉、小麥粉、穀粉ノ輸入ヲ避ケタリ。

瑞西國民ニ對スル「パン」供給ノ成功ハ單ニ——特ニ其ノ批判期ニアリテハ——專賣ニヨル購入作用ニ歸スベキモノニ非ラズシテ寧ロ專賣廳ニ對スル政府ノ外交的談判ガ屢々供給事業ノ進行ヲ容易ナラシメタルナリ。

輸入ニ關スル規律ノ外ニ國內穀物ノ獲得收納ノ事務ガ專賣官廳ノ所管ニ屬セリ。一九一四年ヨリ一九一七年ノ半ニ至ル迄ハ生産者ニ依ル國內產穀物ノ引渡ハ自發的ニ行ハレ居タルモ一九一七年橫暴ナル潛航艇戰ノ結果又「アメリカ」ノ世界大戰參加後ヨリ嚴格ナル規律ガ設ケラル、ニ至レリ。一九一七年八月二日一九一七年產内國穀物ノ總テハ差押ヘラレ尙ホ進ンデ處分權ハ奪ハレ私法上ノ契約ハ無効トサルニ至レリ。穀物ノ引渡ハ之ヲ地方團體ニ爲スベキモノトセルモ一九一九年七月以降ハ強制讓渡ノ代リニ再ビ自由意思ニ依ル讓渡生ジ、而モ農業組合又ハ組合聯合ニ之ヲ爲スニ至レリ。通常各組合ハ生産者ノ引渡ヲ出來ル丈容易ナラシムル爲メ十月ヨリ三月ニ至ル間ニ少クトモ二ツノ履行期間ヲ定メタリ。穀物ノ引受及課稅ハ專賣成立ノ最初ノ年ニ於テハ穀物事務所乃至ハ食糧局ノ専門家ニ依リ行ハレタルモ一九一九年——二〇年ノ收穫年度後自由意思ニ依ル讓渡ト共ニ此ノ點ハ次ノ如ク變化セリ。即チ引受並ニ課稅ハ通常關係組合聯合ノ委任専門家が出來ル丈製粉業者ノ立合ノ上之ヲ行フニ至レリ。國內農業ヲシテ穀物ノ集約的耕作ヲ爲サシムル爲メ專賣廳ハ栽培及收納ノ増加ヲ刺戟スルガ如キ價格

ヲ制定セザルベカラザリキ。故ニ聯邦ハ其ノ時々ニ於ケル輸入穀物ノ輸入價格ト同様に最低價格ヲ定メタリ。引受國內産穀物ノ價格決定ノ終局ノ標準ハ「パン」供給ノタメニスル輸入穀物ノ販賣價格ナリキ。海外市場ニ於ケル價格ノ暴騰期ニ於テモ聯邦ハ「パン」價ノ低廉ヲ期スル爲メ其ノ販賣價格ヲ同様ニハ上ゲ得ザリキ。其ノ際穀物ハ特別ノ認定價格ヲモツテ消費者ニ提供サレタリ。戰時中及戰爭直後ノ年々ニ於ケル價格曲線ノ絶間ナキ變動モ漸次減退スルニ至リ聯邦モ長期ニ互ル價格ヲ決定シ得ルニ至レリ。從ツテ專賣廳ハ穀物ニ對スル價格保障ノ擴張ヲ合目的ナリトスル各農業組合ノ願望ニモ亦適ヘルモノト言ヒ得ベシ。斯クテ一九二〇年七月ニハ一九二〇年、一九二一年及一九二二年産ノ小麥、ライ麥及「スベルツ」麥ノ價格ノ公定ヲ見タリ。(註七)

(註七)

小麥及脱穀玉蜀黍	ライ麥	(脱穀セザル)玉蜀黍
一九二〇年 六七フラン		五〇フラン
一九二一年 六〇同	五五・同	四五同
一九二二年 五七同	五二・同	四二同

(百キログラムニ付)

然レドモ一九二一年以後ニ於ケル世界市場價格ノ下落的變動ノ結果聯邦ハ一九二〇年ニ定メタル一九二二年産ノ小麥、ライ麥、大麥ノ標準價格ヲ七「フラン」方値下スルノ止ムナキニ至レリ。此ノ値下ノ

評議ノ折ニ農業ニ對シテハ次ノ如キ約束ガ爲サレタリ。即チ此ノ損失ハ合意ノ上一九二三年ノ穀物價格ヲ高カラシムルニヨリ賠償サルベキモノナリト。此ノ約束ニ基キ又長期間ニ互リ價格ヲ確保セヨトノ穀物生産者ノ要求ニ迫ラレテ聯邦ハ一九二三年ノ決議ニ依リ百「キロ」宛一九二三年産ノ小麥ニ付テハ十二「フラン」一九二四年産ノモノハ九「フラン」又瑞西國境迄ノ運賃拂濟ノ輸入穀物ト同量ノ平均價格ヨリ、高カルベキ價格ヲ國內産穀物ニ付テ制定スベキ責ヲ負フニ至レリ。(註八)

(註八) 一九二三年産ノ小麥價格ハ四七—五〇「フラン」ノ間チ、一九二四年産ノ小麥價格ハ四二—四五「フラン」ノ間チ上下セリ。

聯邦ハ小麥、ライ麥、スベルツ小麥相互間ノ價格ノ格差ヲ其後決定セリ。

一九二四年六月聯邦ハ一九二二年七月ノ決議ノ決定ヲ延期シ一九二五年及一九二六年産ノ小麥ニ對シテ百「キロ」八「フラン」ノ割増ヲ行ヘリ(註九) 一九一七年ヨリ一九二一年迄ハ收穫ハ通常聯邦決議ニ依リ保證價格ヲ以テ引受ケラレタリ。一九二二年以後ハ引受價格ハ其ノ都度一般投票ニ依ラザル緊急聯邦決議ニ依リ決定サレタルモ此ノ緊急決議タルヤ其ノ都度多少ノ異議アリタルモ過半数ヲ以テ常ニ承認サレタリ。勿論保證價格ハ品質上何等異議ナキ商品ニ對シテノミ支拂ハレタルモノニシテ尙磨碎ハ可能ナルモ品質劣等ニシテ乾燥不十分ナルカ又ハ精製不足ナル商品ニ對シテハ之ニ相當ナル減價ヲ行ヒ特ニ優秀ナル品質ノモノニハ適當ナル割増ヲ支拂ヘリ。(註一〇)

(註九) 小麥ノ標準價格ハ最初四二乃至四五「フランナリシ」モ一九二五年ノ初頭ニハ最低價格二八「フラン」ニ及ベリ、之既ニ甚ダシク騰貴セル世界市場價格以上ニ尙ハ「フラン」ノ割増ヲナスハ國內產穀物ノ引受價格ノ騰貴ヲ招來センコトヲ避ケンガ爲ナリキ

(註一〇) 百「キロ」宛小麥ニ付テハ一・五〇「フラン」迄、ライ麥及「スベルツ」小麥ニ付テハ一「フラン」迄、

聯邦ニヨル穀物ノ交付ハ其ノ都度聯邦參議院ノ定メタル價格ニヨリ前拂ヒノ方法ヲ以テ行ハレ購入者ハ輸入外國穀物ト共ニ一定量ノ(最初ハ一〇——二〇「パーセント」後ニ四〇「パーセント」迄高メラル)瑞西產穀物ヲ引受クル義務アリトセラレタリ。供給ハ製粉所所在ノ停車場迄ノ運賃先拂ニ依リ行ハレタルモ此ノ際運賃ハ均齊ニ賦課サル所アリタリ。

山間地方ニ於テハ停車場ヨリ製粉所迄ノ引繼運送費ノ一部分ハ聯邦ガ之ヲ引受ケタリ。次デ製粉業者乃至商人ノ自己ノ計算ニヨル引繼販賣行ハレタリ。(註十一)

(註十二) 三百以上ノ製粉所ガ一定ノ小麥ヲ穀物管理部ヨリ購求セリ。

穀物貯藏品ハ製粉所、聯邦鐵道保管所、陸軍省倉庫「タルシロス」及國立穀物倉庫ニ貯藏サレ、大量ノ穀物供給ノアリシ場合ニハ聯邦ハ運賃上有利ニ保管シ得ル限リニ於テ一時的ニ私的倉庫ヲモ使用セリ貯藏品ノ約三分ノ一時ニハ其レ以上ノモノガ「製粉所ニ貯藏サレタリ。製粉所ハ一定量ハ——三週間ノ磨碎必要量——無償ヲ以テ之ヲ保管シ其レ以上ノ殘額ニ對シテハ聯邦ハ保管料ヲ支拂ヒタリ。(註十三) 此ノ方法ニ依リ運賃及保管費用ノ節約行ハレタリ。實ニ國內食糧全供給ノ三分ノ一ハ製粉所小區

域ノ生産區域ヨリ發セルナリ。

(註十二) 一九二二——二三年ノ平均保管費用ハ(倉入及倉出保管料保險料)百「キロ」四三仙ヲ算シ一九二四年ノ會計年度ニ於テハ五二仙ナリキ。

本來穀作ノ振興ハ專賣ノ職能外ノコトニ屬スルモノナルモ次年ノ收穫穀物ニ對スル保證價格ノ實施ニ依リ專賣トノ間ニ或ル關聯ヲ生ズルニ至レリ。一九二四年六月聯邦ニ依リ決定セラレタル所謂磨碎補助金ノ實施ニ就テモ同様ノ事ヲ云ヒ得ベシ。コノ改良ニ依リ自給ノ範圍ハ擴張セラレ穀作ハ新ナル刺激ヲ受ケタリ。本來自給者ハ外國穀物ノ價格高ク從ツテ販賣價格ノ其レ以上ニ高キ時ニ於テノミ直接物質的ノ利益ヲ受ケ得ルモノトス。優良ニシテ豊富ナル供給ヨリ生ズル間接ノ利益ハ管理ノ廢止セラレ、ヤ否ヤ彼等ハ之ヲ喪失セリ。斯クテ自作ニ對スル刺激ハ大イニ減退シ殊ニ總收穫引渡シノ可能性ハ——殊ニ聯邦ノ引受價格高ク消費者ヘノ販賣價格低カリシ時ニハ財政上ノ利益ノタメ存在シタリシモ——一九二二年以來ノ法律的制限ノ結果最早存在セザルニ至レリ。今ヤ再ビ補助金ヲ以テ自作ヲ獎勵スルノ餘儀ナキニ至レリ。自作ニシテ磨碎可能ノ國內產穀物ヲ「パン」及穀粉ノ需要ニ充チツ、アリシ人ハ穀類(小麥、ライ麥、穀粒、雜穀、玉蜀黍、山地ニ於テハ大麥 (註十三) 百「キロ」ニ對シ五法^{フラン}ノ磨碎補助金ヲ與フベシト言フ要求ヲ有セリ。山地ニ於テハ此ノ補助金ハ之ヲ百「キロ」八法^{フラン}迄ニ高メ得ルモノトシ、穀物管理部ハ割増ノ段階ヲ決定セリ。毎年一回國庫ハ補助金ノ下付ヲ行フモノニシ

テ其ノ事務ヲ速カニ辯ズルハ穀物廳ノ義務ナリキ。(註十四)

最初ノ下付年度ハ一九二五年九月一日ニ始リ一九二六年八月三十一日ニ終レリ。

(註十三) 平等主義ニハ氣候上ノ關係並ニ家畜ニ適スル個々ノ種類ノ穀物ガ栽培サ、ルト云フ長所アリ。
(註十四) 必要金額ノ總額ハ聯邦大藏省豫算中ヨリ支出サル、モノトス。

三 專賣組織ノ成績概要

(一) 耕作面積及收穫量

戰爭ノ壓迫ノ下ニ瑞西ハ自國ノ田畑ニ出來ル丈多ク自ラ穀物ヲ栽培シ外國ニハ只必要不可缺ノ數量ノミヲ仰ガント試ミタリ。此ノ努力ハ明ニ耕作面積及收穫量ニ關スル統計ニ反映セル處ナリ。(註十五)

年次	小麥	ライ麥	獨逸小麥	大麥
一九〇九—一三	四二、三七三	二四、二七〇	二二、七〇六	五、一五三
一九一三	四二、三六五	二四、二五四	二二、七〇〇	五、一八二
一九一四	四一、六四〇	二四、七八〇	二二、六〇〇	六、〇〇〇
一九一五	四五、九五〇	二六、九〇〇	二五、〇〇〇	六、五〇〇
一九一六	五五、三〇〇	一七、八〇〇	二七、五〇〇	六、七五〇

一九一七	三八、九〇一	一七、〇二〇	一七、六〇〇	七、七一〇
一九一八	六一、〇一〇	二九、〇〇〇	二五、九〇〇	九、〇〇〇
一九一九	五二、七〇〇	二二、〇五三	二二、七〇〇	七、四五七
一九二〇	四八、〇〇〇	二〇、三〇〇	二〇、二〇〇	七、二〇〇
一九二一	四七、四六〇	二二、九六〇	一九、一〇〇	六、六〇〇
一九二二	四四、六〇〇	二二、三〇〇	一六、八〇〇	六、五〇〇
一九二三	四五、二〇〇	二二、三〇〇	一六、六〇〇	六、四〇〇
一九二四	四五、一〇〇	二二、三〇〇	一六、五〇〇	六、三〇〇
一九二五	四五、五〇〇	二二、一〇〇	一六、一〇〇	六、二五〇

一九〇九—一三年ニ對スル割合 (一九〇九—一三—一〇〇)

年次	小麥	ライ麥	獨逸小麥	大麥
一九〇九—一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四	九八	一〇二	九五	一一六
一九一五	一〇八	一一一	一〇五	一二六
一九一六	一三〇	七四	一一六	一三一
一九一七	九二	七〇	七四	一五〇
一九一八	一四四	一一九	一〇九	一七五
一九一九	一二四	九一	九六	一四五

一九二〇	一一三	八四	八五	一四〇
一九二一	一一二	九五	八一	一二八
一九二二	一〇五	九二	七一	一二六
一九二三	一〇七	九二	七〇	一二四
一九二四	一〇六	九二	七〇	一二二
一九二五	一〇七	九一	六八	一二一

收穫高 (單位百キログラム)

一九〇九—一三	九三八、〇〇〇	四七一、二〇〇	四七六、六〇〇	九五、九六〇
一九一三	九六五、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	四九〇、〇〇〇	九九、〇〇〇
一九一四	八九二、〇〇〇	四三八、〇〇〇	四三八、〇〇〇	一一五、〇〇〇
一九一五	一、〇七七、〇〇〇	五二三、〇〇〇	五三一、〇〇〇	一三五、〇〇〇
一九一六	一、一一一、〇〇〇	三二五、〇〇〇	五一三、〇〇〇	一二六、〇〇〇
一九一七	一、二一八、〇〇〇	三七三、〇〇〇	三三七、〇〇〇	一五一、〇〇〇
一九一八	一、四二四、〇〇〇	四七〇、〇〇〇	五七五、〇〇〇	一四五、〇〇〇
一九一九	九五九、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四二三、〇〇〇	一三六、〇〇〇
一九二〇	九七六、〇〇〇	四一二、〇〇〇	三七二、〇〇〇	一三五、〇〇〇
一九二一	一、〇三四、〇七〇	四五七、二五〇	三四三、〇〇〇	一二〇、一六〇
一九二二	六九四、〇〇〇	四三一、〇〇〇	二七七、〇〇〇	一〇七、〇〇〇

一九〇九—一三年ニ對スル割合 (一九〇九—一三—一〇〇)

年次	小麥	ライ麥	獨逸小麥	大麥
一九〇九—一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四	九五	九三	九二	一二〇
一九一五	一一五	一一一	一一一	一四一
一九一六	一一八	六九	一〇八	一三一
一九一七	一三〇	七九	七一	一五七
一九一八	一五二	一〇〇	一一一	一五一
一九一九	一〇二	八五	八九	一四二
一九二〇	一〇四	八七	七八	一四一
一九二一	一一〇	九七	九二	一二五
一九二二	七四	九一	五八	一一一
一九二三	一一一	一〇三	七八	一二九
一九二四	九七	七七	七九	一一八
一九二五	一〇九	一〇二	七六	一二一

一ヘクタール當收穫高 (單位—百キログラム)

年次	小麥	ライ麥	獨逸小麥	大麥
一九〇九—一三	二一・三	一九・四	二〇・一	二〇・一
一九一三	二二・八	一八・六	二〇・七	一九・一
一九一四	二一・四	一七・七	一九・四	一九・二
一九一五	二三・四	一九・四	二一・二	二〇・八
一九一六	二〇・一	一八・三	一八・六	一九・七
一九一七	三一・三	二一・九	二一・八	一九・六
一九一八	二三・三	一六・二	二二・二	一六・一
一九一九	一八・二	一八・一	一八・六	一八・二
一九二〇	二〇・三	二〇・三	一八・四	一八・七
一九二一	二一・八	一九・一	一七・六	一八・二
一九二二	一五・六	一九・三	一六・五	一六・五
一九二三	二三・一	二一・七	二二・五	一九・四
一九二四	二〇・一	一六・三	一九・三	一七・九
一九二五	二二・五	二一・八	二二・四	一八・五

(註十五) 一九〇九年—一九二五年ノ瑞西統計年報一九〇九年ヨリ一九二一年、一九二三年、一九二四年—一九二五年ノ國際農事統計年報及一九二六年ノ「ローマ」統計商業報告ニ依レリ。瑞西統計ノ示ス所ハ萬國農事協會ノソレト部分的ニハ大イニ異ル、故ニ一九二二年以後ノ小麥耕作面積及收穫高ニ關スル瑞西ノ統計ノ數字ハ農事協會ノモノヨリ大ナリ。ライ麥ニ付キテモ一九二

三年及一九二四年の耕地面積ヨリ大ナリ。一九二三年ノ收穫高ニ付キテモ亦同ツ大麥、スベルツ小麥ニ付テモ若干兩者一致セザル點アリ。個々ノ穀物生産地方ノ一ヘクタール當收穫高モ同様ニ多少ノ差異ヲ示セリ。此處テハ特ニ小麥ニ就テハヨリ大ナル瑞西ノ統計ノ數字ニ依リテ可ナリト信ズ。

瑞西統計ニ依レバ主要バン用穀物タル小麥ノ耕作面積ハ一九一七年ヲ除イテハ一九一五年ヨリ一九二五年ニ至ル迄ノ年ニ於テ戰爭前ノ一九〇九年—一三年ノ耕作面積ヲ超過セリ。ローマ農事協會ノ示ストコロニ依ルト一九二二年ヨリ一九二五年ニ至ル間ノ耕作面積ハ戰前(一九〇九—一三年)以下ニ下レリ。一九一五年ヨリ一九二五年ノ間ノ小麥ノ收穫高ハ一九二二年及一九二四年ヲ除イテハ一九〇九年ヨリ一九一三年ノ間ノ平均收穫高ヲ超ユ。

然レドモ收穫高タルヤ實ニ其ノ動搖甚ダシキモノアルヲ以テ戰後收穫高ノ状態ヲ示スニハ平均期間ヲ比較スルノ妥當ナルヲ覺ユルナリ。一九二二年ヨリ一九二四年ノ間ノ小麥ノ平均收穫高ハ九三一、〇〇〇ドツベルツェントナリナリ。(一九二二—二五年ノ間ノ平均收穫高九四、瑞七〇〇ドツベルツェントナリ)ナルニ反シ戰前五箇年ノ平均收穫高ハ九三八、〇〇〇ドツベルツェントナリ。國際統計ニ依レバコノ低減ハコレヨリ遙カニ大ニシテ一九二〇年ヨリ一九二四年間ノ平均收穫高ハ八九一、〇〇〇ドツベルツェントナリトナリ居レリ。(一九二一—二五年間ノ平均收穫高ハ九一四、二〇〇ドツベルツェントナリ、ライ麥ノ耕作面積モ一九一六年以後ハ一九一八年ヲ除ク限リ凡テ戰前ノ

耕作面積以下ニ低減セリ。一九二三年及一九二五年ノ超過年度ヲ除ケバ收穫高ニ關シテモ實ニ同様ノ事ヲ云ヒ得ベシ。戰爭直前ノ五箇年間平均收穫高四七一、二〇〇ドツベルツェントナーニ對シテ瑞西ノ統計ニ依ルニ一九二〇年ヨリ一九二四年ニ至ル平均收穫高ハ四二九、六五〇ドツベルツェントナー（一九二一—二五年ハ四四二、六五〇ドツベルツェントナー）ニシテ。ローマ農事協會報告ニ依ルニ四一六、四二〇ドツベルツェントナー（一九二一—二五年ノ平均收穫高ハ四一七、四八〇ドツベルツェントナー）ヲ示セリ。即チ双方ノ場合共ニライ麥ニツキテハ其ノ戰前ノ收穫高ニ及バザルヲ見ルナリ。スベルツ小麥ノ耕作面積及收穫減退ハ實ニ明白ナルヲ以テ之ニ關シテハ呶々スル必要ナカルベシ。

大麥ノ耕作ノ増加ハ蓋シ注目ニ値スルモノアリ。其ノ耕作面積及收穫高ハ繼續的ニ戰前ノ水準以上ヲ保テリ。然レドモバン用穀物ノ耕作及收穫ハ專賣ニトリテ最モ有利ナル平均的事實ヲ採リテ見ルモ漸次減退セルヲ見ルナリ。若シ事實上ノ價值ニ於テハ他ノ理由ヨリシテ却テ大ナリトモ云ヒ得ベキ專賣ニ不利ナル事實ヲ斟酌セバ人口ノ變動ヲ考慮セザルトスルモ戰前ト戰後トノ間ノ開キハ甚ダ擴大セラレ、處アルベシ。

(二) 輸入及總生産額

バン用穀物及バン粉輸入數量ハ實ニ不定ナリキ。聯邦穀物廳ニ依ル輸入高ニ關スル報告ノ示ストコロ

次ノ如シ。

穀物廳ニ依ルバン用穀物及バン粉輸入量(單位噸)

年次	小麥	ライ麥	穀粉
一九一四	三四六、八〇九		
一九一五	三三〇、五四七	六六〇	
一九一六	五七七、九九八	一、四三九	
一九一七	二〇一、二一九	一〇、六四九	
一九一八	五四、九三四	一五、四四六	一〇二、三三三
一九一九	三八八、三三一	三七、七一四	一七、〇九〇
一九二〇	四一七、〇九六		三、〇六一
一九二一	四二一、六〇二		
一九二二	三七一、三六〇	一、〇〇〇	八、四六六
一九二三	四五五、三四一	一六四	一五〇
一九二四	三七六、五五七	一、〇一〇	
一九二五	三四一、九六九	一、五七四	

一九一四年ニ對スル割合 (小麥、ライ麥、穀粉)(一九一四=100)

一九一四	100
一九二〇	111

一九二一	一一二
一九二二	一一一
一九二三	一一一
一九二四	一一九
一九二五	九九

戰爭直前五箇年間ノ小麥平均輸入額ト戰後五箇年一九二一—二五年間ノ輸入額トヲ比較スレバ次ノ如シ。

一九〇九—一三年及一九二〇—二五年ノ小麥輸入		
年次	量	
	價格	
一九〇九—一三	四、五〇六、四三八	一一二、〇七一
一九二〇	三、二九三、九二五	二六〇、一四一
一九二一	四、一一六、四八八	二一八、四七五
一九二二	三、七九九、八四一	一一六、三五七
一九二三	四、七二三、五五一	一三四、九六五
一九二四	三、八六九、〇八〇	一一五、九七五
一九二五	四、〇八四、〇〇〇	一四七、七五〇

(農事協會ノ報告ニヨル) (瑞西ノ報告ニヨル)
(單位「トツベルツェントナール」) (單位「〇〇〇フラン」)

瑞西統計ノ輸入ニ關スル報告ハ——上述ノ場合ト異リ——萬國農事協會ノ報告トハ一致スルモ穀物廳

ノ報告トハ異ル。戰時中ニ於ケル國內生産ノ増加及食糧經濟ハ一九〇九年ヨリ一九一三年ニ至ル間ニ於ケル程度ニハ外國穀物輸入ヲ必ズシモ常ニ必要トハセザリキ。批判的時期ニ於テハ勿論瑞西國民ノパンノ需要ノ可ナリノ部分ハ國內生産ニ依リ充タサレ居タリ。最大耕作年度タル一九一八年ニ於テハパン用穀物ノ總消費ノ概算約四五——五〇パーセントガ瑞西國內ニ於テ生産サレタルモ一九二五年ニ於テハ瑞西ハ僅カニ國內需要ノ一七、一パーセントヲ供給シ得タルニ過ギザリキ。(註十六)

(註十六) 農業部ノ報告ハ一九二五年ノパン用穀物ノ國內生産高ハ生産者ノ自家用量ヲモ加算セバ約三五パーセントニ達スルト評價セル、モノ數量ハ餘リニ高ク評價シ過ギタルノ感アリ。

(三) 收利力ノ問題

穀物專賣ノ全實施期間ヲ通ジテ瑞西穀物耕作ノ收利力ヲ研究スル事ハ殊ニ興味アル事ナルモ之ニ關スル正確ナル材料ノ極メテ少キ爲メコノ問題ニ關スル解答ハ之ヲ放棄スルノ止ムナキガ如シ。(註十七) 然レドモ尙ホ若干徴候的ナルモノナルモ此ノ點ニ關スル二三ノ報告存ス。

(註十七) 瑞西農民秘書課ノ公表セル收利力調査ニ於テハ家畜飼養、果樹栽培、葡萄酒ノ製造及森林培養ニ關スル算定ハ期間的ニ企テラレ居ルニ不拘穀物ノ總益ニ關シテハ例ヘバ何等特別ノ研究爲サル、處ナシ。穀作ガ全瑞西農業中ニ於テ演ズル役目ハ製乳業ニ比シテ實ニ微々タルモノニシテ前者ガ農業ノ總收益中占ムル割合ハ三乃至四パーセントニ過ギサルニ後者ハ約三五——四〇パーセントヲ占メツアリ。

斯クテ農業上ノ利用耕地ヘクタール當收穫穀物ノ賣却ニ因リ得ル總收益ハ戰後ニ於テハ戰前ノ總收益

ノ四倍ヲ示セリ。尙二三ノ事實ヲ示セバ次ノ如シ。

穀物販賣ニ依ル總收益 (ヘクタール當、單位フラン)

年 度	一八・二二	一八・三四	一七・五三	一七・七〇	一六・八八	一四・五六	一七・八六	一六・九九
一九〇八	一八・二二							
一九〇九	一八・三四							
一九一〇	一七・五三							
一九一一	一七・七〇							
一九一二	一六・八八							
一九一三	一四・五六							
一九一四	一七・八六							
一九一五	一六・九九							
一九一六	二九・二九	一七・二						
一九一七	三六・六九	二一・六						
一九一八	五六・二二	三三・一						
一九一九	一二五・〇〇	七三・六						
一九二〇	一〇七・四〇	六三・二						
一九二一	九二・〇二	五四・二						
一九二二	一〇八・四三	六三・八						
	五四・六七	三二・二						

一九〇九—一三年 一〇〇

一九二二	六八・三一	四〇・二
一九二四	四四・五九	二六・二
一九二五	五一・四三	三〇・三

穀作及總收益ノ割前ハ又土地ノ個々ノ利用方法ニ相應スルモノナリ。

年 次	改良三甫式	綠肥栽培	輪圃式牧草栽培
一九〇八一—一三	三六・三三	一〇〇	八・六四
一九一四	三七・八三	一〇〇	六・〇八
一九一五	五五・一九	一〇〇	一七・八四
一九一六	六五・五〇	一〇〇	二六・七四
一九一七	一〇三・四八	一〇〇	四〇・六八
一九一八	二二三・五四	一〇〇	一二二・三八
一九一九	一七六・七四	一〇〇	一〇五・八〇
一九二〇	一四八・一九	四〇・八	七三・〇三
一九二一	一六九・五七	四六・七	八六・一六
一九二二	九一・五一	二五・二	四八・二三
一九二三	一二四・二一	三四・二	四九・七五
一九二四	七七・〇四	二二・二	二四・二五
年 次	平原及山地ニ於ケル純牧草栽培	綠肥栽培	アルペンウイルトシヤフト
一九〇八一—一三	一〇・一一	一〇〇	一四・二四

一九一四	〇・四二〇〇	二・一七〇〇	二九・二三〇〇
一九一五	〇・八九〇〇	八・一〇〇〇	三八・〇九〇〇
一九一六	一・一一〇〇	一四・六七〇〇	三五・八三〇〇
一九一七	七・六六〇〇	三四・一八〇〇	五一・四一〇〇
一九一八	二四・五九〇〇	八四・〇三〇〇	九三・五二〇〇
一九一九	三五・二〇〇〇	一〇五・二〇〇〇	九四・三五〇〇
一九二〇	二一・九四〇〇	五八・八二〇〇	八八・三八〇〇
一九二一	二七・七二〇〇	五六・六七〇〇	八九・四五〇〇
一九二二	七・五四〇〇	三一・二四〇〇	四二・四五〇〇
一九二三	五・七七〇〇	三二・五二〇〇	六四・一一〇〇
一九二四	一・九六〇〇	一〇・八七〇〇	三六・四一〇〇

穀物ノ價格ニシテ高キ場合ニ於テハ栽培ハ現ニ穀作ニ利用サレツ、アル部分ノ極メテ少キモ猶一定ノ方法ヲ用フレバ收利的ニ耕作サレ得ベキガ如キ土地ニ迄擴張サレタルノ事實ヲ示ス點ニ於テ右ノ表ハ殊ニ興味アルモノトス。

吾人ハ此ノ表ニヨリ必要上五萬ヘクタールノ栽培面積ヲ強制的ニ増加スルニ依リ大抵ノ場合穀作ハ經營經濟上又ハ氣候上ヤガテ再ビ廢棄サル、ニ至ルベキガ如キ土地ニ迄モ及ボサレタルノ事實ヲ看取シ得ベシ。(註十八)

穀作ノ收利力ノ評價上農業生産品ノ價格變動ハ本質的ノ役目ヲ演ズルモノナリ。何者ハ穀價低廉ナル場合ニハ收利力ノ限界ノ低下スルヲ以テ耕作ハ減少シ家畜飼養ヘノ轉化生ズルモノトス。コハ瑞西ニ於テモ亦確證ヲ得タル一事實ナリ。

瑞西ニ於ケル穀物ノ卸賣價格 (in Fr Pro ct)

年次	小麥	ライ麥	獨逸小麥
一九一三	二二・六四	一九・八四	一七・五九
一九一四	二四・五三	二〇・九七	一八・七八
一九一五	三八・三四	三二・九六	二七・三九
一九一六	四四・六五	四一・七七	三五・四八
一九一七	六〇・一九	五八・八〇	五一・二五
一九一八	六四・〇〇	六四・〇〇	五二・〇〇
一九一九	六四・〇〇	六三・三七	五〇・〇〇
一九二〇	六五・二六	六二・一四	五〇・六九
一九二一	六三・〇〇	五七・七八	四八・二〇
一九二二	五三・五一	四八・六〇	四一・二〇
一九二三	四七・九四	四三・〇〇	三五・三五
一九二四	四四・四七	三九・二〇	三一・一八
一九二五	四四・三三	三七・五一	三一・九〇

(註十八) 一九一七年九月及一九一八年五月ノ聯邦參議院ノ決議。事實上ノ耕作ノ増加ハ冬穀ニ付テハ三一、八五七ヘクタール夏穀ニ付テハ七、〇〇〇ヘクタールヲ示セリ。

一九二二年以來穀物ノ價格ノ低落ニ依リ利益ノ程度ハ勿論甚ダシク減少セリ。穀作ハ家畜飼養ノ爲ニ等閑ニ附セラレタリ。小麥ノ價格ト牛乳ノ價格トノ比較ハ此ノ點ニ關シ明瞭ナル解明ヲ與フベシ。

瑞西ニ於ケル小麥及牛乳ノ卸賣價格 (Fr Pro 100 kg)

年次	Konsummlich ab stall	Weizen	小麥價格ト牛乳價格トノ關係(牛乳價格=1)
一九一〇—一三	一八・四一	二四・八五	一・三
一九一三	一八・三一	二二・六四	一・二
一九一四	一七・二〇	二四・五三	一・四
一九一五	一八・四四	三八・三四	二・一
一九一六	二〇・八三	四四・六五	二・一
一九一七	二五・八六	六〇・一九	二・三
一九一八	三〇・九〇	六四・〇〇	二・一
一九一九	三五・〇五	六四・〇〇	一・八
一九二〇	三七・七四	六五・二六	一・七
一九二一	三七・一九	六三・〇〇	一・七
一九二二	二五・八一	五三・五一	二・一
一九二三	二六・三一	四七・九四	一・八

一九二四	二九・五八	四四・四七	一・五
一九二五	二九・五一	四四・三三	一・五

小麥、價格ハ一九二四年及一九二五年ニ於テ尙ホ牛乳ノ價格ニ對スル農業ノ希望セル比率(一、四一一)ヲ超過シ且小麥價格ト牛乳價格トノ比率ハ戰前以上ニ有利ナリシニモ不拘小麥作ノ増加ハ戰前ノ状態ニ比シテ實ニ微々タルモノナリキ。而モ全體トシテ之ヲ見ルニ穀作ハ其ノ總テノ好條件ニモ不拘立チ行キ得ザルモノナリキ。

農業生産ノ收益ガ穀物ニ於テハ一九二三年ノ五千九百萬フランヨリ一九二五年ニハ五千三百萬フラン(一九二四年ハ四千萬フラン)ニ低落セルニ反シ牛ノ飼料ニ於テハ其ノ收益、二億七千八百萬フランヨリ二億九千九百萬フラン(一九二四年ハ三億一千四百萬フラン)牛乳及乳製品ニアリテハ五億二千三百萬フランヨリ五億八千二百萬フラン、一九二四年ニハ五億六千四百萬フランニ上レルハ何等怪シムニ足ラザル處トス。尙ホコレ以前ノ年ヲ比較センカ穀作ノ收益ノ減退ハ牛飼料及牛乳又ハ乳製品ノ收益減退ヨリ遙カニ甚ダシキモノアルベシ。試ミニ比較スルニ一九二〇——二一年ト一九二二年トヲ以テセンカ穀作ハ其ノ最終總收益ニ於テ五三パーセントノ減退ヲ爲セルニ及シ牛飼料ノ收益ハ三六パーセント牛乳及乳製品ハ二七パーセントノ減少ヲ示セルニ過ギザルナリ。如上ノ凡テノ説明ヨリ之ヲ綜合的ニ觀察スルニ瑞西ノ穀作ハ專賣ニヨリ繼續的ニハ何等有利ナル影響ハ之ヲ蒙ラザリシト云フ意見ハ

蓋シ正當ナルベシ。靜態的ナル經濟機構ト自由ナル價格構成トノ樹立ノ結果生ゼル穀作ノ收利力ノ漸落ノ爲メ穀作ニ對スル農業ノ利益關係ハ著シク減退セルナリ。

(四) 價格ノ變動

先ヅ主要バン原料品タル小麥及ライ麥ノ瑞西ニ於ケル價格變動ト北米ニ於ケル價格變動トヲ比較スベシ。

瑞西及北米合衆國ニ於ケル卸賣價格

年次	小麥		ライ麥	
	瑞西	市俄古	瑞西	市俄古
一九一三	二二・六四	九〇	一九・八四	六三
一九一四	二四・五三	一〇〇	二〇・九七	七六
一九一五	三八・三四	一三〇	三二・九六	一〇九
一九一六	四四・六五	一三七	四一・七七	一一一
一九一七	六〇・一〇	二二六	五八・八〇	一八八
一九一八	六四・〇〇	二二一	六四・〇〇	一九七
一九一九	六四・〇〇	二三五	六三・三七	一五二
一九二〇	六五・二六	二六五	六二・一四	一八七

(in Fr Per 100kg)(in Cts Per Bushel)(in Fr Per 100kg)(in Cts Per Bushel)

一九二一	六三・〇〇	一四一	五七・七八	一二三
一九二二	五三・五一	一一一	四八・六〇	八三
一九二三	四七・九四	一一二	四三・〇〇	六九
一九二四	四四・四七	一二五	三九・二〇	八五
一九二五	四四・三三	一六六	三七・五一	一〇七

一九一三年ニ對スル變動 (一九一三=一〇〇)

一九一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四	一〇八	一一一	一〇六	一一一
一九一五	一六九	一四四	一六六	一七三
一九一六	一九七	一五二	二一〇	一七六
一九一七	二六五	二五一	二九六	二九八
一九一八	二八三	二四五	三二三	三一三
一九一九	二八三	二六一	三一九	二四一
一九二〇	二八八	二九四	三二三	二九七
一九二一	二七八	一五七	二九一	一九五
一九二二	二三六	一三四	二四五	一四八
一九二三	二二二	一二四	二二七	一二三
一九二四	一九六	一三九	一九七	一五二
一九二五	一九六	一八四	一八九	一七〇

(註一九) Bushel = 60 lbs
(註二〇) Bushel = 56 lbs

此ノ表ハ一方瑞西ハ一九一五年——一六年ノ戰時中ハ屢々價格騰貴ノ先鞭ヲツケ而モ他方之ニ次グ年ニ於テハ殊ニ一九一七年——二〇年ノ批判期ニ於テハ或程度ノ價格ノ安定ヲ得タル状態ニアリシ事ヲ示スモノナリ。其後ノ年ニ於ケル價格ノ下落ハ世界市場タル市俄古ニ比シテ一般ニハ除々タルモノアリ。殊ニ一九二一年及一九二二年ニ於テハ正ニ遂次的ナル價格下落ノ傾向ヲ認メ得ルナリ。一九一三年並ニ一九二二年——二五年ニ於ケル瑞西ノ穀價ノ各國ノ穀價ニ對スル關係如何。

之ヲ以前ノ年ニ比スルニ全世界經濟ノヨリ統一的ナル發展ハ一九二四年ト共ニ初メテ始マリシモノト考ヘ得ベキカ故ニ尙一九一三年ト一九二四年——二五年トノ對照ハ注目ニ價スルモノアルナリ。

瑞西及外國ノ穀物價格 (in M. Pro 50 Kg)

年次	小 麥		英國		瑞典	合衆國
	瑞西	獨逸	(ロンドン)	(ゲローニンヘン)		
一九一三	九・一六	九・七六	七・四三	七・五三	九・一六	八・〇二
一九二二	二一・二七	九・四二	一〇・二六	六・七五	一〇・九八	一〇・一七
一九二三	一七・七六	八・二二	八・七六	七・九九	一〇・三七	九・二一
一九二四	一七・〇〇	九・二四	九・六八	九・二四	一二・四六	一一・二〇

一九二五 一七・九八 一二・一八 一一・一九 一〇・五九 一四・一七 一四・五五

一九一三年ニ對スル變動 (一九二三—一〇〇)

一九一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九二二	二三二	九六	一三八	九〇	一一〇	一二七
一九二三	一九四	八四	一一八	一〇六	一一三	一一五
一九二四	一八六	九五	一三〇	一二三	一三六	一三七
一九二五	一九六	一二五	一六四	一四一	一五五	一八一

ライ 麥

一九一三	八・〇三	八・一三	六・二七	七・四八	五・四五
一九二二	一九・二四	七・六六	—	—	八・三三
一九二三	一五・九一	六・七四	—	—	六・四四
一九二四	一四・九九	八・〇八	—	—	八・三二
一九二五	一五・二二	一〇・〇〇	—	—	九・九九

一九一三年ニ對スル變動 (一九二三—一〇〇)

一九一三	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九二二	二四〇	九四	—	—	一五三
一九二三	一九八	八三	—	—	一一八
一九二四	一八七	九九	—	—	一五三

一九二五 一八九 一二三 一五五 一七五 一八三

一目瑞西ノ高價ナルヲ知り得ベシ。瑞西ニ於テハ價格水準ハ保障價格ニヨリ人爲的ニ高ク維持サレ居ルナリ。既述ノ如ク一九二二年産ノ小麥百「キロ」ノ標準價格ハ五十「フラン」、一九二三年産ノモノハ四七—五〇「フラン」、一九二四年産ノモノハ四二—四五「フラン」、一九二五年産ノモノハ三八—四五「フラン」ヲ示シ、小麥ノ平均引受價格ハ一九二二年産五〇「フラン」、一九二三年産四七「フラン」、一九二四年産四二「フラン」、一九二五年及二六年産四二・五「フラン」タリ。ライ麥ノ引受價格ハ一九二二年産四五「フラン」、一九二三年産四二「フラン」、一九二四年産三六「フラン」、一九二五年及一九二六年産三五・五〇「フラン」ト決定サレタリ。國內産穀物ニ對スル補助金ハ一般的ニハ百「キロ」ニ付キ八「フラン」乃至一二「フラン」ノ間ヲ上下シツ、アリシモ個々ノ年度ニ於テハ一八「フラン」乃至二〇「フラン」ニ迄上騰セリ。穀物、穀粉、「パン」ノ卸賣及ビ、小賣價格ノ態様ノ概觀左ノ如シ

瑞西ニ於ケル穀物、穀粉及「パン」ノ卸賣及小賣價格

年 度	卸 賣 價 格		小 賣 價 格	
	小 麥	ライ麥	穀 粉	パ ン
一九一四	二・四五	二・一〇	四・五〇	三・五〇 (四月)
一九一五	三・八三	三・三〇	六・〇〇	四・五〇 (十二月)

(in Franken und Rappen für je 10 kg)

一九一六	四・四六	四・一八	六・五〇	(同)	五・四〇	(同)
一九一七	六・〇一	五・八八	八・四〇	(同)	七・〇〇	(同)
一九一八	六・四〇	六・四〇	八・四〇	(同)	七・三〇	(同)
一九一九	六・四〇	六・三四	八・四二		七・四四	
一九二〇	六・五三	六・二七	八・五〇		七・五四	
一九二一	六・三〇	五・七八	七・九一		六・九九	
一九二二	五・三五	四・八六	六・八二		五・八二	
一九二三	四・七九	四・三〇	六・七〇		五・六二	
一九二四	四・四五	三・九二	七・三八		五・五一	
一九二五	四・四三	三・七五	八・一〇		六・〇一	

一九一四年ニ對スル變動 (一九一四—一〇〇)

一九一四	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一五	一五六	一五七	一三三	一二八
一九一六	一八二	一九九	一四四	一五四
一九一七	二四五	二八〇	一八七	二〇〇
一九一八	二六七	三〇五	一八七	二〇八
一九一九	二六一	三〇二	一八七	二一二
一九二〇	二六六	二九六	一八九	二一五
一九二一	二五七	二七五	一七六	二〇〇

一九二二	二二八	二三一	一五二	一六六
一九二三	一九五	二〇五	一四九	一六一
一九二四	一八二	一八七	一六四	一五七
一九二五	一八一	一七九	一八〇	一七二

吾人ハ小麥並 ライ麥ノ價格ノ騰貴ニ相應ジテ必ズシモ穀粉並ニ「パン」ノ價格ハ變動セザリシヲ此ノ表ニ依リ看取シ得ベシ。

聯邦ハ世界市場ニ於ケル穀物價格ノ騰貴ヲ國內消費者ニ斯克モ明瞭ナラシメザル様ニ努力セリ。殊ニ戰爭ノ批判期ニ於テ然リトス。故ニ例ヘバ一九一六年十月ニハ瑞西ニ於ケル「パン」ノ價格ハ戰前ヨリモ約七〇「パーセント」高キニ反シ、小麥ノ世界市場價格ハ約一二七「パーセント」ノ騰貴ヲ示シツ、アリキ。

一九一七年ノ二月ニ就テ「ウイルツ」氏ハ次ノ事實ヲ示セリ。

小麥世界市場價格	約二一〇 Proz 高
聯邦ノ小麥販賣價格	約一三三 Proz 高
「パン」ノ價格	約 八八 Proz 高

一九一四年ニ對スル一九二二——二五年ノ小麥、ライ麥、穀粉及「パン」ノ價格ノ騰貴ヲ總括的ニ示セバ次ノ如シ。

小麥	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
ライ麥	一五七	一一八	九五	八二	八一
穀粉	一七五	一三一	一〇五	八七	七九
パン	七六	五二	四九	六四	八〇
	一〇〇	六六	六一	五七	七二

各國ニ於ケル小麥粉及「パン」ノ價格變動ハ次表ノ如キモ吾人ハ若干統計的價值ヲ有スル比較ヲ可能ナラシメムガ爲、此ノ表ニ於テハ唯比較數ノミヲ採ルニ止メタリ。

(註二) 一九一四、一九二一年——一九二五年ノ各國ニ於ケル小麥粉及パン價格

(各國貨幣單位ニ依ル比較數) (一九一四=一〇〇)

小麥粉	一九二四年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
瑞西	一〇〇	一七六	一五二	一四九	一六四	一八〇
獨逸	一〇〇	—	—	九八	九一	一一六
英國	一〇〇	一二七	一五三	一五〇	一五七	一七八
佛國	一〇〇	二七五	一一三	二七二	三〇五	三八七
瑞典	一〇〇	二二九	一六八	一四五	一四二	一五五
丁抹	一〇〇	三五四	一八七	一八七	二〇二	二四二

和	蘭	一〇〇	一九〇	一九〇	一三〇	一二五	一五〇
瑞	西	一〇〇	二〇〇	一六六	一六一	一五七	一七二
獨	逸	一〇〇	—	—	一四三	一一四	一三六
英	國	一〇〇	二二八	一七四	一六一	一六五	一八二
佛	國	一〇〇	三〇五	二六〇	二八八	三二〇	三九〇
瑞	典	一〇〇	二六三	二一〇	一八三	一七八	一八八
丁	抹	一〇〇	二〇七	二〇七	一八九	二〇三	二二八
和	蘭	一〇〇	二二一	一八六	一七一	一七一	一九三

(註二二) 素材トシテハ各國官廳ノ統計的報告ヲ使用セリ、「パン」ノ品質ヲ平均スル爲メ各國ニ於ケル最モ一般的ナル「パン」供給地ヲ選定セリ。

右ノ表ニ依ルニ二三ノ年ニ於テハ瑞西ノ消費者ニ對スル「パン」ノ供給ハ比較ノ爲メニ引用セル他ノ歐洲各國ニ比シ比較的廉價ニ爲サレタリ。例ヘバ「パン」ノ價格ノ騰貴ハ北方ノ二國家即チ丁抹、瑞典ニ比シテ少ナカリキ。此ノ二國家ハ瑞西ニ對シテ有利ナ比較ノ基礎ヲ與フルモノナリ。一九一四年ニ對シテ一九二四年ニハ「パン」ノ價格ハ丁抹ニ於テハ約一〇三「パーセント」、瑞典ニ於テハ七八「パーセント」、瑞西ニ於テハ僅カニ五七「パーセント」ノ騰貴ヲ爲セリ。一九二五年ノ比較數ヲ示セバ、一二八「パーセント」、八八「パーセント」及七二「パーセント」トナルベシ。他方二三ノ國ニ於ケル上述ノ

期間ノ價格騰貴ハ瑞西ニ於ケルヨリモ少ナク或ハヨリ短期間ニ留意センカ事態ハ瑞西ニトリ不利ナルモノアリ。故ニ二三ノ國ニ於ケル「パン」ノ價格ヲ比較シ之ヨリ得タル結果ヨリシテ決定的ナル結論ヲ引出シ或ハ專賣ニ對スル賛否ノ終局的態度ヲ決定スルガ如キハ之ヲ慎マザルベカラザルナリ。正確ナル判斷ハ貨幣ノ對内及對外購買力、生産關係、「パン」ノ品質等ヲ顧慮セルガ如キ世界ノ價格ヲ比較スルコトニ依リテノミ可能ナルベシ。(註二二)

(註二二) 例ヘバ一九二五年ノ一時期ナトレバ各國ノ普通ニ使用サルル「パン」ノ價格ハ次ノ如シ。

Rappen Pro Kg.		Raypen Pro Kg	
Bern	60	Paris	38
Basel	56	Brissel	37
Bolozna	48	Berlin	49
Frankfurt a. M	43	Prag	45
Rappen Pro Kg.		Rappen Pro Kg	
Mannheim	56	Mailand	57
Düsseldorf	50	Marseille	35
Wien	42	Bern	55

一九二六年四月——七月ニ於テハパンノ最大供給地ニ於ケル價格ハ次ノ如シ。

外國貨幣ハ瑞西貨幣ニ換算セリ。

(五) 專賣經濟ノ財政的結果

穀物供給ノ爲メニ官廳ヲ設定セントスルニ際シテ聯邦ノ金庫ニハ何等損益ヲカクルコトナク國家ハ國民ニ穀物ヲ供給スベシトスル意見存セリ。然レドモ世界市場ニ於ケル穀價ガ躍進的ニ騰貴スルヤ、此ノ計畫ハ國民供養ニ關シテハ最早ヤ實行シ得ラレザルニ至レリ。斯クテ聯邦ハ騰貴的變動ニ從フノ止ムナキニ至レリ。

一九一七年ニハ「パン」用穀物ノ輸入價格ハ高マリ聯邦ハ國內ノ販賣價格ヲ之以上騰貴セシムルヲ差シ控フルヲ決議スルニ至レリ。一九一七年六月三日ヨリ一九一九年ノ終リニ至ル迄國家ハ小麥ヲ其ノ眞ノ費用ハ更ニ高カリシニモ不拘買主ノ瑞西國受領停車場迄ノ運賃拂濟百「キロ」六八乃至六二「フラン」ヲ以テ販賣セリ。(註二十三)此ノ不合理ナル廉價販賣制ガ大ナル財政上ノ犠牲ヲ生ゼシメシハ蓋シ當然ノ事ナルベシ。

(註二十三) 輸入小麥ノ輸入價格ハ年平均瑞西ノ規定停車場迄ノ運賃拂濟百「キロ」宛次ノ如クナリキ。

一九一七年	七四・五一 Fr.
一九一八年	七七・〇七 Fr.
一九一九年	七二・七六 Fr.

聯邦參議院ノ報告ニ依ルニ、一九一四年ヨリ一九二一年ニ至ル期間ノ——此ノ期以後ニ於テハ穀物管

理部ハ略自存シ行ケリ——「パン」供給ニ關スル規定上ノ收入超過並ニ支出超過ノ總計次ノ如シ。

會計年度	收入超過	支出超過
一九一四——一六	五、八〇七、九九二・九五	—
一九一七	四、八八七、一五七・〇七	—
一九一八	—	五四、八六九、六六五・〇四
一九一九	—	五五、七七〇、一七二・二〇
一九二〇	—	五六、七〇四、七六一・〇四
一九二一	—	三八、五七三、五二七・五六
計	一〇、六九五、一五〇・二	二〇五、九一八、一二五・八四
一九五、二二二、九七五・八二「フラン」ノ純支出超過額中ニ包含サル、モノ次ノ如シ。即チ少收入階級ノ爲ニセル「パン」ノ廉價ニ依ル超過額(千二百八十萬「フラン」)世界市場價格ノ下落ニ依ル穀物在庫品ノ減價格及國內穀作ノ獎勵ニ要セル費用。		
一九二〇年迄ハ——既述ノ如ク恐慌期ノ例外存スルモ——聯邦ノ機關ハ國內ノ「パン」供給ノ爲メニスル外國穀物ノ販賣價格ト略々同様ノ價格ヲ國內產穀物ニ對シテ支拂ヘリ。引受價格ガ輸入穀物ノ輸入價格ヨリ低カリシ爲メ此ノ期間ニ於テハ聯邦ハ財政的ニハ責任ヲ解除サレ居タルモ世界市場價格ニシテ下落スルヤ否ヤ此ノ状態ハ變化セリ。今ヤ國內產穀物ニ支拂フ價格ハ外國穀物ノ輸入價格以上ニ上		

レリ。斯クテ一九二一年以後國內產穀物ニトリテ聯邦ノ平均販賣價格ヨリモ百「キロ」ニ付キ一〇乃至一五「フラン」方高キ特別價格ノ成立スルヲ見タリ。(註二十四)

識者ハ耕作及販賣關係ニ相應ジテ通常ノ状態ニ於テハ瑞西國境迄ノ運賃拂濟トシテ輸入ノ小麥ノ平均價格ニ百「キログラム」七「フラン」ノ割増ヲ行フヲ以テ瑞西穀作ヲシテ收利力アルモノタラシムルニ十分ナリト思考セリ。此ノ超過支拂ニ依リ聯邦金庫ニ及ボス損害ハ實ニ重大ナルモノアリキ。

(註二十四) 此ノ状態ハ利用サレタリ。即チ穀物生産者ハ自給ヲ斷念シ穀物總量ヲ高價ニ聯邦ニ讓渡自ラハ廉價ナル輸入「パン」及穀粉ニヨリ生活セリ。此處ニ於テ一九二二年六月政府ハ一ツノ決定ヲ爲シ之ニ對スル制限ヲ定メタリ。即チ穀物生産者ハ其ノ家ノ一般的需要ニ充當シタル殘部ノ自作穀物ノミヲ規定ノ特別價格ニヨリ讓渡スル權利ヲ有スルニ過ギザルモノト爲セリ。二三ノ報告ニ依レバ此ノ場合ニ於テモ尙ホ特別價格ヲ得ル爲メニ不正ノ方法ヲ用ヒラレタルヲ知リ得ベシ。

國家ノ穀物管理部ニ依ル收入超過及支出超過ノ計算ニ對シ種々之ヲ修正スル者ノ生ズルニ至レリ。「ベギン」博士ハ一九一七年ヨリ一九二三年ニ至ル間ノ穀物專賣ニ依ル損失ハ三千七百九十萬「フラン」ト計上セルモ同氏ノ此ノ損益計算ハ瑞西農民秘書部ノ激シク抗議スル處ナリ。即チ同氏ノ計算ニ對シテ瑞西農民秘書部ハ同期間内ノ對算ヲ行ヒシニ尙ホ二百四十萬「フラン」ノ加算ヲ要スト云フ決算ヲ得タリ。其ノ結果ハ大イニ異ルニモ不拘如上ノ兩計算ハ共ニ聯邦穀物管理部ノ報告ニ依レリトスルモノナリ。

聯邦參議院ハ一九二四年五月ノ聯邦議會ニ對スル報告中自己ノ立場ヨリ計算ヲ爲セリ。穀物管理部ノ

製作ニ係ル聯邦ノ報告及農民秘書部ノ報告ヲ此處ニ掲載セントス。但シ次表ノ一九二四年及一九二五年ハ兩者ヨリノ直接ノ報告ニ依リ修正サレタリ。

國家ノ穀物專賣ノ損益勘定(農民秘書部ノ報告)

年次	內國產穀物		外國穀物ノ平均價格		利	國內產穀物ニ對スル	
	收納量	平均支拂價格(運賃共) Fr	保	證 Fr		Fr	不利 Fr
一九一七	三七三、三〇〇	六七・三一	六七・五二	七八、三九三	—	—	
一九一八	九一〇、一二〇	六三・九六	七五・六九	一〇、六七五、七〇八	—	—	
一九一九	五八三、五〇〇	六三・七九	七三・一六	五、四六七、三九五	—	—	
一九二〇	二七八、二九〇	四六・七三	七三・九二	二、五五七、四八五	—	—	
一九二一	九三二、六〇〇	五八・二七	五七・八五	—	三九一、六九二	—	
一九二二	五〇一、六〇〇	四七・二七	三五・四〇	—	五、九五三、九九二	—	
一九二三	八九五、六〇〇	四三・四一	三二・二七	—	九、九七六、九八四	—	
一九二四	四三六、四六〇	四五・〇〇	三五・七四	—	四、〇四一、六二〇	—	
一九二五	十三〇、七五〇	四二・五〇	四一・六三	—	六三五、七五三	—	
合計	—	—	—	—	一八、七七八、九八一	二二、〇〇〇、〇四一	
差引	—	—	—	—	—	二、二二一、〇六〇	

國家ノ穀物專賣ノ損益計算(穀物管理部ノ計算)

收穫年度	内國產穀物		外國穀物		差引勘定 (國內產穀物ニ對スル) 利益Fr 不利益Fr
	收納量q.	保證價格Fr	輸入價格Fr	利	
一九一七	三七三、三〇〇	六六・五〇	六七・五二	三八〇、七六六	
一九一八	九一〇、一二〇	六六・五〇	七五・六九	八、三六四、〇〇三	
一九一九	五八三、五〇〇	六六・五〇	七三・一六	三、八八六、一一〇	
一九二〇	二七八、二九〇	六九・五〇	七三・九二	一、二三〇、〇四二	
一九二一	九三二、六〇〇	六二・五〇	五七・八五		四、三三六、五九〇
一九二二	五〇一、六〇〇	五二・五〇	三五・四〇		九、〇七八、九六〇
一九二三	九〇三、四六一	四九・五〇	三二・二七		一六、七六六、六三三
一九二四	四三六、四六〇	四七・五〇	三四・四六		五、六九一、四三八
一九二五	七三〇、九五〇	四五・〇〇	三八・二五		四、九三三、九二二
合計				一三、八六〇、九二二	四〇、八〇七、五三三
差引				二六、九四六、六一二	

一九二三年迄ノ計算ニ於テ「ベギン」氏ハ差引一三七、九三二、四四三Fr 穀物管理部ハ一六、三二一、二六二Fr 農民秘書部ハ十二、四五六、三二一Fr ト計算ヲ爲セリ。同様ニ一九二五年ニ於ケル最後ノ數字ニ開キアルハ明カナルベシ。

一九一七年ヨリ一九二三年ニ至ル間ノ政府計算ノ最終ノ結果ハ「ベギン」氏ノ計算ト一九二三年ノ瑞西農民秘書部ノ計算トノ略中間ニ位セリ。「ベギン」氏ハ依然トシテ自己ノ反對計算ノ正當ナルヲ主張セ

リ。氏ハ各年ノ年度會計ヲ證據トシテ引用シ内國產穀物ニ依ル帳簿上ノ總損失ハ一九一七年ヨリ二三年間ニ於テハ總計六千二百二十萬「フラン」、一九二〇年ヨリ二三年間ニ於テハ五千二百四十萬「フラン」ニ達スルト結論セリ。コハ例ヘバ聯邦參議院カ其ノ一九二二年八月十一日ノ報告中内國產穀物ニ依ル支出超過ハ一九二一年ノミニ於テ千九百七萬「フラン」ニ達スルト報告セル、又穀物管理部ガ國內產穀物自體ノ勘定ニ於テ其ノ支出超過額二千九百八十萬「フラン」ト計算セル事實ト怪シクモ一致スルモノナリ。

議員「バーマー」氏ノ計算ハ之レ以上ニシテ同氏ハ一九二五年九月國民會議ニ於ケル穀物專賣ニ關スル演說中專賣遂行ニ依ル國民經濟上ノ損失ハ(穀粉輸入ノ困難及其レニ依リ生ズル「パン」ノ價格ノ騰貴殊ニ中産及無産階級ニ對スル「パン」價格ノ騰貴)一九一八年ヨリ一九二五年間ニ於テ一億四千萬「フラン」ニ達スト評價セリ。然レ共吾人ハ斯カル計算ハ殊ニ割引シテ之レヲ考ヘザルベカラザルナリ。聯邦及農民秘書部ノ計算上ノ差異ニ關シテハ——農民秘書部ハ穀物管理部ノ計算ノ方法ノ誤謬ナルヲ主張セルモ——此ノ際是レ以上評論スルハ之ヲ避クベキモ上述ノ疑點ニシテ之ヲ顧慮セズンバ吾人ハ穀物管理部ノ計算ヲ以テ比較的最も正確ナル結果ト考ヘ得ルナリ。又不足量ニ對スル價格ノ割引ハ之ヲ計算ニ入レザルノ事實ヲ考慮スルモ最終ノ結果ハ本質的ニハ何等變ズル處ナカルベシ。國家財政ノ負擔ヲ餘リニ大ナラシメザル爲ニ一九二二年七月ノ聯邦會議ハ決議ヲ以テ製粉所ヘ引渡ス穀物ノ價格

ヲ(輸入穀物及内國産穀物)穀物供給ノ管理ノ爲メ何等聯邦ガ損失ヲ蒙ムラザル様ニ定ムル事ニ決定セリ。而モ其ノ爲メ「パン」價ノ騰貴ヲ生ズルガ如キコトナカラシメタリ。

一九二四年五月ノ聯邦參議院ノ報告ニモアル如ク一九二二年一月以來穀物管理部ハ獨立獨行シ斯克テ倉庫管理費、内國産穀物ニ對スル割増價格企業資本利子及管理費等ハ聯邦金庫ノ補助ヲ受クル事ナク之ガ支拂ヒヲ爲シ行キタリ。故ニ總費用ハ「パン」用穀物ノ價格ニ依存シ居タルヲ以テ間接ニハ「パン」ニ依ツテ負擔セラレ居タルナリ。換言スレバ穀物管理部ノ販賣價格ハ大低ノ場合平均市場價格以上タラザルベカラザリシナリ。斯克テ穀物管理部ハ四十八箇月間ニ(一九二二—一九二五年)只僅カニ十一箇月間ダケ其ノ各月ノ平均市場價格以下ニテ販賣ヲ行ヘリ。世界市場價格ニ對シテ管理部ノ販賣價格ハ高キニ過グルトノ批評屢々爲サレタルヲ以テ聯邦ハ費用ノ構成ヲ明カニシテ之ニ對シ辯明セント試ミタリ。

國家穀物管理部ノ販賣ノ際ニ於ケル利子及管理費

年次	利子 Fr.	管理費 Fr.	總計(百キロ宛) Fr.
一九一七	一・三四	〇・一四	一・四八
一九一八	二・二四	〇・六一	二・八五
一九一九	二・〇六	〇・三七	二・四三
一九二〇	二・〇二	〇・一五	二・一七

一九二一	一・二七	〇・一四	一・四一
一九二二	〇・五六	〇・一四	〇・六七
一九二三	〇・四六	〇・一四	〇・六一
一九二四	〇・四二	〇・一三	〇・五三
一九二五	〇・四二	〇・一四	〇・五七

一九一七年—二五年間平均 一・四一

國內産穀物ノ引受費用ハ收穫ノ減退ト引渡ニ相應ジテ百「キロ」ニ「フラン」乃至四「フラン」ノ間ヲ往來セリ。穀物ノ保管費ハ販賣穀物百「キロ」宛、一九二一年七月一日ヨリ一九二三年十二月三十一日迄ノ間ハ平均〇・四二「フラン」、一九二四年ハ約〇・五二「フラン」、一九二五年ハ〇・五〇「フラン」ナリキ。

管理部ノ計算ニ依ルニ輸入小麥ニハ總計次ノ如キ附加的費用ヲ必要トセリ。

年次	積荷及運送賃	國內産穀物	保管	總計
一九二二	六・二五	二・七五	〇・六一	九・六一
一九二三	五・三〇	三・九〇	〇・五八	九・七八
一九二四	五・〇〇	一・六〇	〇・五二	七・二二
一九二五	五・〇〇	一・四六(註二十五)	〇・四六	九・九五

(註二十五) 國內穀物ノ耕作振興ノ費用ハ一九二四年—二五年ニ於テハ適當ニ低ク評價サレ居ルモノ、如キモ實際ハヨリ高キモノトス。此ノ點ニ關スル計算ニハ何等統一のナルモノ存スルナシ。

製粉補助金ノ支出ハ最初ノ經濟年度ニ於テハ(一九二五年九月一日ヨリ一九二六年八月三十一日迄)暫

定のナ計算ナルモ總計約三千九百四十萬「フラン」ニ達ス（註二十六）

（註二十六）七十四萬dzノ穀物ニ對シテ製粉補助金が支拂ハレタリ。

穀物管理ノ不足ハ一部分關稅收入ニ依リ補ハレタルヲ以テ次ニ關稅收入ト穀物專賣ニ依ル差益額トヲ比較スベシ。

年次	穀物及英豆ノ輸入關稅收入	專賣差益額
一九一三	四・六三	
一九一四	三・八五	
一九一五	三・五八	
一九一六	三・四一	
一九一七	二・〇七	+
一九一八	三・九一	+
一九一九	三・四一	+
一九二〇	一・九二	+
一九二一	四・二四	+
一九二二	五・五〇	+
一九二三	六・二八	+
一九二四	五・八二	+

一九二五

六・一〇

一四・九三

(六) 專賣局ノ仕事ニ對スル利害關係者ノ態度

專賣局ノ活動ハ戰爭中ハ一般ノ承認ヲ博セリ。瑞西國民ノ完全ナル給養ハ專賣ニ依ルニ非ザレバ不可能ナリト云フコトニ世論ハ一致シ居タリキ。然ルニ戰爭ノ終末ト共ニ專賣制度ニ對スル賛否兩様ノ單獨ナル批判ノ聲ガ漸次聞ユルニ至レリ。

事物ヨリ離レテ行クニ從ヒ其ノ論争ハ益々激烈トナリユケリ。個々ノ經濟團體ノ主要ナル議論ヲ此處ニ紹介スベシ。

農業ノ著名ナル代表者タル議員「ケーニツヒ」氏ハ曰ク「農業ハ穀物專賣ノ維持ニ對シテ何等惡意ヲ有スルモノニ非ズ。實際農業ハ其ノ利益的立場ヨリシテ在來ノ專賣ガ自給者ノ顧慮ニ關シテ若干修正ヲ爲シ——此ノ點ハ一九二五年ニ既ニ豫見セラレタル處ナリ——以テ永續的の制度トナル事ヲ最モ欲スルモノナリトス。殊ニ國內産穀物ニ對スル割増ヲ十分ナル價格ニ確保スルト云フ農業ノ主要要求ハ他ノ諸般ノ解決策ヲ以テスルヨリモ專賣ニ依リテ最モヨク之ヲ實現シ得ルヲ以テナリ。尙ホ聯邦ノ引取義務ヲ定ムルト共ニ且聯邦ハ製粉業者ヲシテ國內産穀物ヲ引受セシムル權限ヲ有スルモノトス。專賣以外ノ方法ニ依リ農民ニ十分ナル價格及販賣保證ヲ與フルニハ大ナル瑞努力ヲ要スベキモ反之專賣ニ依ランカコハ言ハバ自ツト達セラレ、モノト言ヒ得ベシト。既ニ一九二四年五月聯邦參議院ハ專賣ヲ明

瞭ニ否定セル一憲法條文ノ草案ヲ聯邦議員ニ示セリ。農民團體ハ主ニ戰術上ノ理由ヨリシテ專賣以外ノ解決策ノ作成ニ賛成ノ旨ヲ聲明シ且ツ自己ノ立場ヲ次ノ如ク確立セリ。瑞西農民組合總務部ハ先ヅ次ノ條件ノ下ニ專賣以外ノ解決案ヲ通過セシムベク全力ヲ盡ス事ヲ聲明ス。

(一) 此ノ解決案ハ實際上國內ノ穀作ヲ維持スルニ適當ナルモノナリ。

(二) 「パン」用穀物ニ對スル現在ノ價格保證及引取義務ハ永續的組織ノ實施迄繼續サルベキコト。

(三) 自給自足者及製粉業者中ノ渡リ職人等ヲ顧慮スベキコト。

但シ組合總務部ハ瑞西ノ「パン」供給ノ確保ガ他ノ方法ヲ以テハ達セラレザル時ニハ專賣ニ依ルベキ事ヲ留保セリ。爾來穀物專賣ニ對スル要望ハ益々強烈トナリ、從來行ハレタル議論ヲ以テ辯護サル、ニ至レリ。一九二〇年以來專賣廳ハ國內ノ製粉業者ヲシテ全磨碎ヲ確保セシムル爲メ一般ニ穀粉ノ輸入ハ之ヲ廢セリ、コノ利益アルニモ不拘製粉業者ハ穀物專賣ノ永續的ナル維持ニハ全ク不賛成ノ如クナリキ。製粉業者ハ重點ヲ寧ろ關稅問題ニ置クノ所以ハ彼等ハ關稅ニ依ル統制ニヨリ外國ノ競争ヨリ保護サレ他方外國穀物ノ製粉ニ依ル利益ヲ何等ノ障礙ナシニ享受センガ爲ナリ。穀物專賣ヲ永續的ニ實行スル場合ニ於テハ製粉業者ガ何等カノ形式ニ於テ常ニ關係セルカノ製粉所特許ノ問題ハ常ニ彼等ノ意ノ儘ト爲シ得ルニ至ルベシ。穀物商人ハ常ニ專賣思想トハ反對ノ立場ニアルモノナリ。彼等商人ハ穀作ノ振興ハ獎勵金又ハ間接的ニハ保護關稅ニヨリ高價ナル國內價格ノ方法ニヨリ專賣ニ

依ルト同様ニ之ヲ達シ得ルモノニシテ他ノ國家專賣廢止ノ事例ハ——廉價ニシテ豊富ナル供給ハ——穀物專賣ヲモ亦廢止シ營業ノ自由ヲ再ビ許スベキ必要ヲ示スベキモノトノ見解ヲ抱持スルモノナリ。消費者ノ態度ハ決シテ統一的ノモノニ非ズ。政治思想ニシテ比較的強キ反響ヲ生ズル方面ニ於テ——例ヘバ職工組合個々ノ從業員組合部分的ニハ又消費組合——最初ヨリ專賣ニ對シテ賛成ノ意ヲ表セラレシ所以ノ者ハ專賣ニ於テ經濟國家化ノ一步ヲ看取シ得ラル、ヲ以テナリ。消費者ノ他ノ方面ニ於テハ穀物價格及パン價格ノ騰落ノ程度ニ從ヒテ專賣廢止又ハ專賣維持ノ傾向ヲ生ゼリ。

即チ一九二一年後ニ於ケル穀價下落ノ年ニ於テ穀物專賣廢止論者タリシ人々モ小麥ノ世界市場價格ノ騰貴ト共ニ今ヤ再ビ熱烈ナル專賣代辯者ト化シタリ。商工業ノ代表者ハ總括シテ專賣ニ反對ナリ。成程彼等ハ栽培又ハ製粉補助金ニ依リ穀作ノ支持ニハ賛成ナルモ然モ其ノ如何ナル場合タルヲ問ハズ商業及ビ營業ノ自由ノ制限國家ノ徹底的干涉ハ之ヲ否定シ、自由競争ニヨリ達セラル、世界市場價格ヲ基礎トセル廉價ナル「パン」ヲ切望スルモノナリ。彼等ハ只此ノ方法ニヨリテノミ廉價ナル生計ハ可能ナリトシ以テ世界市場ニ於ケル競争能力ヲ維持セントスルノ意見ヲ抱懷スルモノナリ。

四 聯邦ト專賣問題

專賣問題ノ妥當ナル解決ニ關スル準備及草案ハ既ニ戰爭中ニ於テ始マリ居タル處ナルモ今日ニ於テモ

尙ホ其ノ成就ヲ見ザルナリ。其ノ總テノ提案ノ説明ハ此ノ際之ヲ省略シテ寧ロ只最重要ナル計畫ニ就イテノミ説明スル處アラントス。一九二〇年六月聯邦參議院ハ食糧省ニ將來ニ於ケル「パン」供給確保ノ問題ノ研究ヲ委任セリ。同年ノ終リニ於ケル報告ノ結果ハ輸入獨占ヲ以テ穀物供給ノ確保上最も適當ナル方法ト認メタリ。穀物在庫品ノ維持、國內穀作ノ振興、製粉業ノ保護、穀價及「パン」價ノ安定等ノ最も重要ナル問題ハ輸入獨占ノ方法ニ依リ之ヲ解決シ得ルモノトセリ。聯邦參議院ニ於テモ此ノ報告ノ討論ニ際シ大體如上ノ態度ノ採用ヲ見タリ。其ノ際諸種ノ利益團體ノ代表者ヨリ成ル委員會ハ大略次ノ如キ動議ヲ提出セリ。

一 國內ニ「パン」用穀物ヲ常時貯藏シ國家ハ常ニ之ヲ管理スベシ。

二 國內穀作ノ保護ハ「パン」ノ供給確保及栽培振興ノ手段トシテ必要若シクハ少クトモ望マシキモノト認ム。

三 供給能力アル製粉業ヲ國內ニ維持スベシ。

適用スベキ手段ニ關シテハ意見種々ニ別レ重要ナル點ニツキテ遂ニ一致ヲ見ルコト能ハザリキ。其ノ結果翌年ノ五月ニハ食糧省ノ報告ニ因ンデ會議ガ開カレ十一月ニハ專問家ノ小委員會ガ開催サレタリ。尙ホ一九二二年四月ニモ評議會開カレ八個ノ異ナレル動議ノ討論サル、處アリタルモ此ノ際ニ於テ尙一般的規準ノ決定ヲ見ルニ至ラザリキ。一九二二年七月聯邦參議院ハ九人ヨリナル小委員會ニ既

存ノ計畫ノ支持タルト折衷タルト新提案タルトヲ問ハズ輸入獨占ニ依ラザル解決案ヲ作成スベキコトヲ命ゼリ。一九二三年三月ノ委員會ノ報告ハ次ノ如キ解決案ヲ提示セリ。

「聯邦ハ國內ニ於ケル穀作ヲ増進シ、「パン」用穀物ノ貯藏ヲ爲シ、製粉業ヲシテ生産力アルモノタラシメ以テ「パン」ノ供給ヲ確保スルノ責アルモノトス。此ノ費用ヲ補フベクパン用穀物ニ關シテハ輸入關稅ヲ百キロ宛ニ「フラン」方高ムルモノトス。尙ホ關稅收入ニシテ十分ナラザル限り國內產穀物ノ貯藏増進ノ爲メ聯邦金庫ノ計算ニ於テ年々五十萬「フラン」ノ特別信用ハ之ヲ承認スベキモノトス。自己又ハ他人ノ計算ニ於テ國內產穀物ノ磨碎ニ從事セル者ハ一定ノ條件ノ下ニ輸入免狀ヲ請求シ之ニ基キ無關稅ニテ小麥ヲ輸入シ得ベク、此ノ條件ハ先ヅ法律ヲ以テ一對三ノ割合ニ定メラレタリ。即チ磨碎國內產穀物百「キロ」ニ付キ外國穀物三百「キロ」ヲ無稅ニテ輸入シ得タリ。此處ニ於テ國內產穀物ノ爲メ一種ノ磨碎補助金ガ六乃至八「フラン」ノ特別價格ノ形式ニ於テ發生セリ。聯邦參議院ハ如上ノ條件ヲ管理シ得ル方法ニ應ジテ變更シ得ルモノトス。尙ホ國內ノ穀作ハ技術ノ擁護殊ニ國有財産ノ改良及穀物貯藏獎勵金等ノ方法ニ依リ之ヲ振興シ得ベシ。

聯邦ハ應急貯藏トシテ一般ニ二乃至三箇月間國內ノ平均消費量ヲ充スニ足ル丈ノパン用穀物ノ在庫品ヲ常ニ備フベク且ツ其ノ量ヲ需要ニ應ジ變更スル責アルモノトス。製粉業ニ關シテハ聯邦ハ國ノ死活上緊要ナル營業タル生産力アル製粉業ヲ維持スル爲メニ必要ナル方法ヲ講ズルノ責アルモノトス。」

穀物ノ輸入及國內ニ於ケル穀物ノ取引ニ關シ何等ノ制限ガ設ケラレザリシハ蓋シ注目ニ値スベシ。國內產穀物ナリヤ否ヤノ證明ノ困難ハ一定ノ豫防法ヲ以テ之ヲ除カントセリ。法規ノ施行ノ爲メニハ經濟省ニ屬スル所謂聯邦穀物管理部ヲ設置セントセリ。二人ノ委員即チ瑞西農民秘書部長「ラウアー」教授及瑞西消費組合長「ジャギイ」氏ハ上述ノ計畫ニ對シ不賛成ノ意ヲ表シ、共ニ他ノ解決案ヲ提示スル處アリタリ。瑞西農民秘書部ハ委員會案ニ對シテ次ノ理由ニ依リ新ナル法律草案ヲ提出セリ。即チ「パン」ノ供給確保ノ爲メ聯邦ハ特ニ國內ノ穀作ヲ振興シ「パン」用穀物ノ貯藏ヲ保チ私人ノ穀物貯藏ヲ獎勵シ且ツ生産力アル製粉業ノ維持ニ努ムベシ。國內穀作ハ次ノ方法ニ依リ保護スベキモノトス。即チ

一 國有財産ノ改良及組合ノ國內產穀物ノ貯藏ヲ特ニ顧慮シツ、穀作技術ノ獎勵ノ爲メ聯邦豫算中ヨリ年々少クトモ五十萬「フラン」ノ獎勵金ヲ下附スルコト。

二 聯邦ハ納稅瑞西倉庫迄ノ運賃支拂濟ノ外國穀物ノ價格ニ百「キロ」十「フラン」ノ割増金ヲ附シテ磨碎可能ナ國內產穀物ヲ引受クルコト。

三 「パン」及穀粉トシテ自家用ニ消費サル、自作穀物百キロ宛十フランノ磨碎補助金ノ交附、但シ山地ニ生産サレ、自家用ニ消費サル、穀物ニ對シテハコノ補助金ヲ増加シ得ルモノトス。

國家ガ國內ニ於テ試作セシメツ、アル耕地ノ穀物ハ國家ノ承認セル耕地組合ノ周旋ニ依リ百「キロ」十「フラン」乃至十五「フラン」ノ補助金ヲ與フベシ。落穂拾ヒモ亦原則トシテハ自給自足者ト同様ナリ

トス。コノ統制ヲ容易ナラシムル爲メ聯邦ハ農業組合ノ協力ヲ俟ツモノトス。聯邦ハ少クトモ三箇月間ノ國內需要ヲ充スニ足ル外國產「パン」用穀物ヲ貯藏スベキモノトス。引受穀物ノ販路十分ナラザル場合ニ於テハ聯邦參議院ハ「パン」用穀物ノ輸入制限ヲ行ヒ又ハ國內產穀物量ニ比例シテ輸入ヲ許可シ得ベシ。』

農民組合ハ製粉業ニ關シテハ唯其ノ生産力ノ維持ヲ徹底的ニ確保スル事ヲ其ノ草案中ニ於テ企テ居ルノミナリ。穀物及穀粉關稅收入ハ費用ニ充當サレ不足額ハ——組合ハ之ヲ年八百萬乃至千萬「フラン」ト計算ス——聯邦金庫ヨリ借入ル、事トセリ。

曾テ自ラガ發表セル案ヲ維持セル「ジャギイ」氏案ニ依レバ、聯邦ハ「パン」供給確保ノ爲メ必要ナル總テノ準備ヲ制定シ得ルモ、「パン」用穀物ノ輸入獨占權ハ之ヲ有セザルモノトセリ。聯邦ハ自ラ自由ニ穀物ノ取引ヲ行ヒ得ルモ常ニ貯藏品ヲ備へ且栽培獎勵金ニ依リ國內生産ヲ振興スベキモノトス。栽培獎勵金及穀物貯藏ノ費用ハ聯邦ノ負擔トス。一九二三年四月議員「バーマー」氏ハ一ツノ法案ヲ作成セリ。其ノ要點ハ次ノ如シ。

一世傾ノ市場價格ヨリモ百「キロ」ニ付キ八乃至十「フラン」方高キ價格ヲ以テ國內產穀物ヲ引受クルコト。

二 自作穀物ノ自家消費ニ對シ同様ノ補助金ヲ支拂フコト。

- 三 特別價格及補助金ヲ事情ノ變化ニ適應セシムルコト。
- 四 製粉所ハ聯邦ノ引受ケタル内國產格物ヲ引受クル義務アルコト。
- 五 緊急ノ豫備量トシテノ穀物貯藏品ノ維持。
- 六 關稅及輸入制限ニヨル製粉業ノ保護。
- 七 穀物製粉業ノ特許及利益分配制度。
- 八 總費用ノ「パン」消費者ヘノ轉嫁等之ナリ。

三案共ニ總テ一定ノ經濟傾向ヲ代辯スル各發案者ノ一面的ナル形成意思ノ臭味紛々タルモノアルヲ見ル。一九二四年五月聯邦參議院ハ再三評議サレタル報告書及聯邦決議草案ヲ公表シ之ヲ説明シテ、「問題(憲法上ノ穀物供給ノ問題)ハ穀物取引ノ國家的獨占ヲ行フコトナシニ解決サレ得ベシ。」ト爲シ且論及シテ曰ク「穀物貯藏品ノ保管及倉庫變更ハ獨占ニ依ラズシテ比較的容易ニ實行シ得ベシ。同様ニ餘剩ノ内國產穀物ノ引受ヲ國家ノ介入ナクシテ行フ事モ亦決シテ至難ノ業ニ非ザルナリ。尙ホ聯邦參議院ニ依リ決定サルベキ一定ノ價格ヲ以テ餘剩内國產穀物ヲ引受クベキ義務ヲ輸入業者又ハ製粉業者ニ課スベキモノトス。定メラルベキ特別價格ハ穀物生産費ノ計算上考慮サルベク、然ラズンバ聯邦ハ補助金ヲ償却スベキモノトス。聯邦ハ又穀作者ニ直接ニ獎勵金ヲ支拂ヒ得ベシ。國內ノ穀作ノ支持ニ關シテ聯邦ハ專賣ニ依ラズシテ之ヲ解決スルコトハ同様ニ可能ナリトセリ。製粉又ハ生産獎勵金ノ交附

ハ(百「キロ」四乃至五「フラン」)決シテ專賣ヲ必要トスルモノニ非ズ。コノ實行ハ生産者組合ノ協力ニ俟タンカ——如何ナル制度ヲ採ルトモ生産者組合ハ協力スベキモノトス——確實ニ之ヲ行ヒ得ベシ。聯邦參議院ノ案ヲ實行スルトセバ瑞西國民經濟ノ負擔トナルベキモノ次ノ如シ。

- 一 地方豫算ニ編入スベキ穀作技術ノ保護費用(約年十萬乃至二十萬「フラン」)
- 二 穀物貯藏品ノ保管費用(一噸約十「フラン」)及同様ニ國家ノ負擔タル穀物投資資本ニ對スル利子(約百五十萬「フラン」)

三 製粉補助金ヨリ生ズル經費モ(百「キロ」五「フラン」)トシテ約八萬五千噸分四百二十五萬「フラン」亦同様ニ國家ニ於テ負擔スベキモノナリ。

四 割増價格(百「キロ」約七「フラン」)ヲ許容シ以テ内國產穀物ヲ引受クル事ヨリ生ズル經費ハ聯邦金庫之ヲ負擔スルカ若クハ輸入業者又ハ製粉業者之ヲ負擔シ彼等ヨリ消費者ニ轉嫁スルモノトス。聯邦參議院ハ總費用ノ引受ニ依ル負擔額年一千萬「フラン」ニシテ其ノ中保管費及製粉補助金費六百七十五「フラン」ト評價セリ。穀物管理部ノ計算ニ依ルト内國產穀物ノ割増價格ヲ消費者ニ轉嫁スルニヨリ一「キログラム」ノ「パン」ニ付一、五「ラツペン」ノ割増又ハ平均百「キログラム」ヲ消費スルトシテ一人當リ一、五〇「フラン」ノ年額負擔ヲ生ズ。コレ等全職能實行ノ資源ハ特別國境稅ノ徵收ニ依リ支辨サルベキモノトセリ。聯邦參議院ノ案ニ依ルト小麦一「フラン」ノ國境稅ハ製粉生産品及他ノ穀類ニ

對スル適當ナル租稅ト一般穀物關稅收入ヨリノ補給ト相俟ツテ費用ヲ補ヒ得ルモノトセリ。若シ一般關稅收入ヨリノ補給ガ不可能ナル時ニハ國境稅ヲ増率スベキモノト爲セリ。聯邦議決草案ハ穀物輸入獨占ノ廢止ヲ提示シ穀物輸入ノ排他的獨占權ハ假令戰時ノ如ク緊急時ニアリテモ聯邦又ハ私的組織ニトリテ共ニ創定サルベキモノニ非ザルコトヲ強調セリ。一九二四年ニハ專賣反對ノ色調ハ益々強クナリ行ケリ。一九二四年ノ十一月聯邦參議院ハ即刻穀物專賣ヲ廢止セントスラ考フルニ至レリ。穀物專賣ノ廢止ト同時ニ貯藏品ノ維持、製粉補助金ノ維持、並ビニ國內產穀物ノ引受販賣及財政上ノ補償ニ關シテ決定サル、處アルベキナリ。

聯邦議決草案ハ大體ノ次ノ如キ規定ヲ含メリ。即チ穀物輸入ニ關シテハ許可制度ヲ採用セリ。輸入ノ許可ニハ國內產穀物ノ引受義務ヲ(輸入量ノ二五「パーセント」以下)附シ得ルモノトス。此ノ條件タルヤ國內產穀物ノ代リニ外國產穀物ヲ濫費スルヲ防グニハ極メテ妥當ノモノタルベシ。(聯邦ハ國內產穀物ニ磨碎補助金ヲ支拂ヒ又ハ之ヲ引受クルコトヲ考慮セリ。)小麥ニハ一、四〇「フラン」ノ割増關稅ヲ課シ他ノ禾穀類及製粉製造品ニハ其レ相當ノ割増關稅ヲ課スモノトス。關稅收入ハ製粉補助金、及貯藏並ビニ國內產穀物ノ引受ケヨリ生ズル費用ニ充ツルモノトス。尙製粉補助金及專賣規則ノ廢止時期等ニ關スル規定ノ定メラル、アリ。

此ノ案ニハ一九二四年五月ノ報告中ニ發表セル原規ニ從ヘル跡ノ實ニ歷々タルモノアリ。代議士會ニ

於テハ穀物專賣廢止案ハ一九二四年十二月、二十七票對三票ヲ以テ可決サレタルモ反之國民會議ハ多數決ヲ以テ之ヲ否決セリ。爾來聯邦參議院ノ十一月案ハ何等顧ミラル、處ナカリキ。專賣廢止反對ノ色調ハ穀物ノ世界市場價格ガ騰貴スルヤ甚ダシク増大セリ。

加之製粉補助金ヲ初メテ償却スルニ當リ、專賣管理部ノ協力ヲ斷念スルハ不適當ニ非ザルヤトノ疑惑ガ明瞭トナリ來リス。斯クテ一九二五年ノ二月國民會議ハ穀物專賣廢止ニ關スル聯邦參議院案ノ決定ヲ七月ノ聯邦議會ノ開會マデ延期スル事ヲ決議スルニ至レリ。之ヨリ數日前代議士會ハ穀物供給ニ關シ新ニ憲法上ノ動機ヲ提出シ之ヲ國民投票ニ付スベキヲ要求セリ。此ノ動議ハ二個ノ條文ヲ含ミ各々別個ニ之ヲ投票ニ付スル事ヲ同會ハ要望セリ。

其ノ一ハ專賣ニ依ラザル解決方法ヲ提案シ(法律ニ依リ輸入業者ノ國內產穀物ノ引受義務ヲ規定ス)他ハ一定期限若クハ無期間ノ輸入專賣ヲ提案スルモノナリ。七月代議士會ハ次ノ如キ聯邦ノ動機ニ同意セリ。

即チ聯邦ハ適當ナル穀物貯藏品ヲ維持シ内地ノ穀作ヲ可能ナラシムル程度ノ價格ニ於テ國內產穀物ヲ買取ルベシト云フニアリキ。聯邦ハ穀物卸賣商人ニモ亦此ノ買上義務ヲ課シ得ベク之ノ費用ハ穀物及穀粉ニ適當ナル割増關稅ヲ課シ以テ之ニ充當スルモノトス。國家ノ重要ナル利益ヲ保護スル爲ニハ一時のニ又ハ長期ニ亘ツテ「パン」用穀物ノ排他的輸入獨占權ヲ聯邦ニ與ヘ得ベキモ其ノ際ニ於テハ販賣

價格ハ之ヲ可及的低廉ナラシメ且聯邦金庫ニ損益ナキヲ保スベキモノトス。此ノ種ノ輸入獨占ノ實行ハ聯邦ノ監視ノ下ニ一組合的機關ヲ以テ之ヲ行フモノトナセリ。暫クシテ聯邦參議院ハ同様ノ案ヲ國民會議ニ提出セルモ此ノ案ニ於テハ結局原則トシテハ聯邦ニ輸入獨占ヲ認ムル事トセリ。扱テ國民會議ノ委員會ハ聯邦參議院ノ提案ヲ一ツノ憲法條文ニ總括シ完全ニ強制的專賣ヲ認メ其ノ專賣ノ實行ス私的經濟機關ノ參加ト聯邦ノ監視トノ下ニ一組合ニ委セラルベキモノナリトス。此ノ思行過程ハ一九二五年九月國民會議ニ於ケル絶對多數ニ依ル次ノ憲法條文ノ承認ト（一二四對五〇）ナリテ現ハレタリ。即チ聯邦ハ國ノ「パン」供給ノ確立並ニ國內穀物ノ振興ニ關シ規定ヲ設クルモノトス。「パン」用穀物及其ノ生産品ノ輸入獨占權ハ次ノ原則ニヨリ法律ヲ以テ之ヲ聯邦ニ許可シ得ルモノトス。

イ穀物ノ販賣價格ハ可及的低廉ニ之ヲ定ムベキモ、而モ外國產及國內產穀物ノ購入價格、企業資本ノ利子及費用ヲ補フニ足ルベキモノタルヲ要ス。聯邦ハ營利ヲ目的トスベカラザルモノトス。但シ價格補償ノ爲メニ豫備金ヲ置クモノトス。

ロ買入價格ハ國內ノ穀作ヲ可能ナラシムル様適當ニ定メラルベキモノトス。

ハコノ實行ハ聯邦機關ヨリ分離セル特別機關ニ委セラルベキモノトス。

若シ協力ノ必要ナル場合ニハ此ノ目的ノ爲メニ聯邦ノ監督ニ屬シ且聯邦ノ外ニ私的經濟機關モ參加シ得ル公益組合ヲ設定スベキモノトス。尙詳細ハ法律ニヨリ之ヲ定ムルモノトス。

代議士會ハ種々商議ヲ重ネタル結果遂ニ一九二五年十二月ノ末、二十一票對十七票ヲ以テ提案ノ主要ナル點ヲ承認シ只内容上及形式上ニ於ケル些細ノ點ニ關シテ其ノ變更ノ動議ヲ提出セリ。斯シテ國民會議及代議士會ハ尙評議ヲ重ネ其ノ案ヲ協定シ終ニソノ確定セル決議ヲ一般投票ニ附スルコト、セリ。

結局提出サレタル動議ナルモノハ穀物供給ニ關シ規準ヲ定メ農業保護ヲ講ゼルモノナリシニモ不拘專賣ハ聯邦ノ爲メニ私的機關ノ爲メニモ之ヲ設定スベキモノニ非ズト爲セルモノナリキ。然レドモ此ノ動議モ暫クノ間ハ事態ヲ轉換セシムル事能ハズシテ、專賣案ハ一九二六年四月憲法上ノ兩代表機關ニヨツテ承認サレタリ。即チ代議士會ニ於テハ二三票一四票對ニテ、國民議會ニ於テハ一四八票對三七票ヲ以テ可決サレタリ。今ヤ妥當ニ承認サレタル聯邦決議ノ内容次ノ如シ。

第一條 聯邦憲法中ニ第二十三條ノ二トシテ次ノ條文ヲ新ニ挿入スルモノトス。

第二十三條ノ二

第一項 聯邦ハ國內「パン」用穀物ノ供給並ニ國內穀作振興ニ關スル規定ヲ設クベシ。

第二項 次ノ原則ニヨリ「パン」用穀物並ニ其ノ加工品ノ排他的輸入獨占權ヲ聯邦ニ與フルニハ法律ニ依ラザルベカラズ。

イ獨占權ノ實行ハ聯邦ノ監督ニ屬スル一公共組合之ヲ行ヒ聯邦並ニ私的經濟機關之ニ于與スル

モノトス。州ノ加入ハ其ノ自由裁量ニ任ス。

口國內産「パン」用穀物ノ買上價格ハ穀作ヲ可能ナラシムベキ様之ヲ定ムルモノトス。

ハ販賣價格ハ可及的之ヲ低廉ナラシムルモ尙外國産並ニ内國産穀物ノ買上價格企業資本ノ利子及費用ヲ補フ程ノモノタルコトヲ要ス。

價格補償ノ爲メ豫備金ノ設定ヲ條件トシテ聯邦ハ營利ヲ目的トスベカラザルモノトス。山間地方ハ穀粉價格ノ補償ヲナスニ適當ナル規定ヲ設ケ之ヲ考慮スルモノトス。

第三項 尙詳細ハ法律ニヨリ之ヲ定ム。

第二條 此ノ決議ハ國民並ニ代議士ノ投票ニ附スルモノトス。

第三條 此ノ執行ハ之ヲ聯邦參議院ニ委任ス。

斯クテ此ノ決議ハ一九二六年十二月五日國民投票ニ附セラレタリ。之ニ反シ必要數ダケノ署名ハ尙依然トシテ之ヲ獲得ル處ノ上述ノ專賣否定ニ關シテハ近キ將來ニ於テ決定サル、處アルベシ。(註二十七)

(註二十七) 憲法上ハ五萬票ヲ必要トス。發案ハ七萬七千九百九十四票ヲ以テ聯邦ノ官房ニ提出サレタリ。立案サレタル議案ノ草稿

ハ本質的ニ一九二四年五月二十七日ノ聯邦決議草案ニ適應スルモノナリキ。即チ

一 聯邦ハ國內穀物供給ノ確立、並ニ國內穀作ノ振興ニ關スル規定ヲ設ケベシ。

二 殊ニ穀物在庫品ヲ維持シ又ハ他ノ方法ニヨリ貯藏ニ注意シ内地ノ穀作並ニソノ製品ノ利用加工ヲ適當ナル命令規則ニヨリ、容易ナラシムルニト共之ヲ振興スベシ。即チ生産者ニ確保スルニ優良ニシテ製粉可能ナル國內産穀物ハ之ヲ内地穀作ヲ

可能ナラシムル程度ノ價格ヲ以テ引受ケルヲ以テスベシ。尙自給自足者並ニ山間地方ハ適當ナル方法ニヨリ之ヲ顧慮スベキモノトス。

三 此ノ原則ノ實行ハ之ヲ聯邦立法權ニ委ヌ。但シ其ノ實行ニ當リ穀物ノ絶對的輸入獨占權ハ戰時ニ於ケル緊急状態ノ場合ヲ除キテハ之ヲ聯邦並ニ私的機關ノ爲メニ設定スベカラザルモノトス。

投票ノ際ニ於ケル全穀物專賣問題ノ状態如上ノ如シ。

要スルニ穀物專賣問題ハ專賣ヨリ出發シテ非專賣案ヲ通り再ビ專賣ヘト循環運動ヲ行ヒシモノニシテタゞ此際ニ於ケル變化トモ稱スベキハ純國家的專賣ノ形式ノ廢セラレテ進化ニ應ジテ他ノ形式ノ之レニ置キ替ヘラレタルアルノミ。

一九二六年十二月五日ノ國民投票ノ結果ハ三十七萬六千二百二十四票對三十六萬四千二百三十一票ヲ以テ提案サレタル憲法草案ハ否決サレタリ。比較的大ナル州中コノ憲法草案ニ對スル投票状態次ノ如シ。

專賣賛成側

チユーリツヒ州	六一、五七四對五三、五六五票
ベルン州	六九、五四八對四九、二三〇票
グート州	四六、五三八對二七、五四八票
アールゴウ州	二九、五八九對二六、一三一票

專賣反對側

センドガレン州

ルチエルン州

バーゼル

四三、五七一對一四、一一八票

一九、四三九對一三、六三七票

二〇、二一四對一六、三六〇票

双方ノ陣營ハ言論ニ著述ニ熱烈ニ其ノ目的ノ爲メニ戰ヘリ。經濟上ノ事柄ニ關スル爭鬪ニ於テ其レガ漸次政治上ノ要素ニヨリテ驅逐サレ終ニ政治經濟上ノ勢力爭、然モ一般ニ通常ノ武器ヲ以テシテハ仲裁シ得ザル政治經濟上ノ爭鬪ト化スルハ瑞西ニ於テモ亦實ニ屢々確證サレタル事實ナリトス。專賣反對ノ決定ハ之ヲ國民經濟學者ハ正當ナリト感ズベシ。瑞西ニトリテモ亦專賣ニ依ラズシテ、然モ穀物供給問題ヲ解決シ得ル方法ノ發見サレ得ベキヲ疑ハザルナリ。

昭和三年十月二日印刷
昭和三年十月五日發行

定價金壹圓參拾五錢

農林省農務局編纂

發行者 東京市赤坂區溜池町一番地 山崎 森三郎
印刷者 東京市麴町區紀尾井町三番地 甲田 藤太郎
印刷所 東京市麴町區紀尾井町三番地 東京印刷株式會社麴町出張所

發行所 大日本農會

振替貯金東京五三六九番

Small blue and white decorative label or stamp on the left page.

580
120

